

なる關係あり、且つ伊太利との競争に於ても、晒、糸染、反染、捺染物等の供給を伊太利に仰げる輸入業者が、英國に其供給を仰ぐに至り、是に對し、英國が、廉價を以て提供し得ると云ふことに、樂觀的期待を置きつゝあり。伊太利の激減は、伊貨の上騰、銀行貸出の制限、及信用の收縮、放漫なりし信用貸の回收難、價格不廉等に基因するものなりと稱せらる。

佛國の進展は、佛貨下落に基因するものゝ如し。

乙、日本及主要競争供給國の主要供給綿布——英國は、數量に於ては、晒綿布を最も重要とし、捺染綿布之に亞くに至り、生綿布は第三位に落ち、反染綿布、糸染綿布、米物、基物等の順位にあり。價額に於ては、晒綿布を最も重要とし、捺染綿布、反染綿布、生綿布、糸染綿布、米物、基物等の順位にあり。

伊太利は、數量に於ては、糸染綿布を最も重要とし、反染綿布、捺染綿布、晒綿布、生綿布の順位、價額に於ても、同前なり。

日本は、數量に於ては、生綿布を最も重要とし、糸染綿布、晒綿布、是に亞ぐに至り、反染綿布は一九二六年に於ては不明なるも、一九二五年に於ては、第四位に低下し、捺染綿布は一九二六年に第四位に恢復したるものゝ如し。價額に於ては、生綿布最も重要に、糸染綿布第二位、晒綿布は第三位に向上し、反染綿布、捺染綿布是に次ぐ。白耳義は、糸染綿布を最重要とし、晒綿布、捺染綿布、反染綿布の順位にあり。

佛國は、捺染綿布最も重要に、反染綿布、糸染綿布、晒綿布、生綿布の順位にあり。

致須國は、日本品の模造に巧妙にして、近年カイロ市場に現はれたる一見濱縮緬の如き綿織物は、光澤絹又は人

絹交織製品の如く、本邦綿縮の有力なる競争品となれり。捺染重目物を主とす。

瑞西は、捺染及反染の變り物を主とす。

印度は、土人用縮木綿を供給す。

シリアは、太糸織を主とし、本邦品の競争に關しては、殆ど問題無きが如し。

六、各種綿布に於ける角逐狀況——以下、方米に據り統計せらるゝ各種綿布を主とし、其に就きての、日本及主要競争國の角逐狀況を、更に詳説すべし。

甲、生綿布——生綿布の主要供給國は、英國及日本にして、各々の埃及輸入總額に對する比率より見たる地位の變遷は、英國は、數量に於ては、一九二三年の九割一分より、八割、七割四分、五割七分、價額に於ては、一九二三年の八割七分より、七割、六割二分、四割四分と漸減し、反之、日本は、數量に於ては、一九二三年の七分八厘より一割九分、二割四分、四割二分、價額に於ては、一九二三年の一割二分より二割四分、三割六分、五割五分と漸増し、即ち、價額に於ては、日本は、供給國として、英國の勢力を凌駕するに至れるものなり。

次に是を、ライト物、ヘヴィ物に就きて見るに、英國は、タンジブ (Tanjib) ムル (Mull) 輕目生金巾等のライト物に於ては、其供給を殆ど獨占し、日本は、重目生金巾、ロングクロス (Long cloth) 天竺布等のヘヴィ物に於ては、英國を遙かに凌駕す。最近の趨勢を見るに、日本は、ヘヴィ物に於ては、英國を益々凌駕し、ライト物に於ては、進出の狀、極めて顯著なるものあり。英國との競争に於ては、主に一一〇瓦物なり。

ライト物

(單位 數量千方米、價額千埃及磅)

	一九二六年		一九二五年		一九二四年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
總計	一六、一四八	二一六	三五、四〇四	五四八	二五、九七一	四二八
英國	一六、〇〇三	二一四	三五、二八〇	五四五	二五、九六〇	四二七
日本	一一四	一八九	三三	〇、六六	五	〇、〇九
へヴィ物 (單位同前)						
總計	一八、七八八	四七五	一九、八三六	九九〇	一五、六八三	四九七
英國	三、八六五	八七	五、九九六	一六一	七、三四九	二一八
日本	一四、六五二	三八一	一三、二八二	四一三	七、八六七	二六四

生綿布に於ける日本の勢力の増大は、實に、埃及に於てカボット (Japanese Cabot) 又は Cabot) と稱せらるゝ生粗布の異常なる進展に基因するものにして、本品は、埃及に輸入せらるゝ本邦品生綿布へヴィ物の大半を占め、一九二六年に於ては、埃及輸入生綿布の四割に該當する數量に達するに至り、益々好評を得つゝあり。

右進展の原因は、埃及人需要の増進に基因するものにして、即ち、埃及人の多くは、ガラビヤ (Gharbiyah) と稱する著物に、従前の晒物に代用して、英國晒の如き白色の本邦品未晒物を使用するを好むに至れるに因る。此の結果英國より輸入せらるゝ晒物の需要減退し、在庫品堆積の現象をすら見るに至れり。右カボットの需要増加は、ガラビヤを製するに要する綿上著地アルゼンチナ (Azulinas) 一米に對して、従來、約七ピアストルを要したりしが、今や、一米に付、二乃至三ピアストルを以て足る本邦品カボットの進出を見たるに因る。

本邦品生地物のへヴィ物の値は、他競争國に比し、遙かに廉價にして、龍じ、九龍、獅子三〇等を重要とす。本

邦商社は、多く、横濱正金銀行と契約を結び、金融上の便を受け、且輸入業者が、現金取引を希望するが故に、以て、過去數年間に涉り、埃及市場に堅固なる販路を獲得するに至れるものなり。

粗布に於ける日本品に對する競争は、伊太利、支那等の製品もあり、加之、埃及の内地工業保護策ありて、相當激甚なるものある如し。

乙、晒綿布——晒綿布の主要供給先は、輕目、重目共に大半英國の占むるところにして、伊太利是に亞ぐ。一九二六年に於ては、市場不況、本邦品生綿布の進展とに、兩國共に、殊に伊太利に於て、減退甚しかりき。尙重目物を主とする白耳義よりの輸入は、約倍増したるが、英國品、伊太利品等に對しては、殆ど影響無きものゝ如し。

本品中、需要最も大なるマダボラムは、英國を最大供給地となし、伊太利是に次ぐ、和蘭も最近是が製造に著手し大に成功の途に就けりと云ふ。

英國品が本綿布輸入市場を殆ど獨占するは、品質、値、取引關係に基因するものゝ如く、本邦品は、英國品に比し仕上粗悪にして、唯、鐘紡製品羊頭印は、是に匹敵し得るも、値に於て折合はずと稱せらる。又、本邦品は、英國品に比し、一割内至一割五分値高にして、取引關係に於ては、英國は、九十日サイトにして、信用狀を要求せずと云ふ。一九二六年英國晒物埃及輸入の激減は、在荷過多に加ふるに、本邦品未晒物の代替的需要増に基因す。

丙、捺染綿布——捺染綿布の主要供給國は、英國、伊太利等にして、更に、ライト物には佛國、へヴィ物には、致須國、白耳義あり。一九二六年に於て、英國は伊太利に比し、其の在荷過多に依る損害は、金融難に拘はらず、小額なりき。

ライト物に於て注目すべきは、佛國の増加なり。

ヘヴィ物に於て、伊太利に次ぐ主要供給國たる致須國は、極端なる値引と、信用貸をなし、且、其の主要競争品たる浮織は、伊太利の「スコッチ」を主とする色織の販路を冒し好評を博したり。

英國は、致須國品の競争に限り、輸入業者の需要轉換を期待し、浮織に於ても、寧ろ、和蘭及埃國に脅威を感じつゝあり。ポプリンの如き、恰も絹製品の如く、本邦品富士絹を侵しつゝあり。

埃國品の輸入額は、ライト物、ヘヴィ物總計に於て、一九二六年には、前年の二三二千方米より、三二二千方米に増加し、獨逸國境グロナウ (Gronau) にある和蘭工場、維納にあるロゼンサル (Rosenthal) 工場は、共に、捺染品の貿易に努力し、工場の代表者は、常に、先物の見本及相場を、市場に提供しつゝあり。

獨逸よりの輸入増加は、少量にして、尙、和蘭工場よりの輸入品中、獨逸製として、統計に掲上せられ居るものあり。

ネルに於ては、本邦品は、縮柄を以て對抗し得べしと稱せらるゝも、概して、本邦品は、厚目物に於て小額の輸入を見るのみ、輕目物は近年全然輸入を見ず。其の欠點は、染色不完全、柄流行に適せざるにあるものゝ如し。

白耳義は、ポプリン類の重目物を主とす。

伊太利は、ベルカール、又はバチスト類の最も需要多き低廉品を主とす。

ライト物

(單位 數量千方米 價額千埃及磅)

一九二六年

一九二五年

一九二四年

總計	英國	伊太利	佛國
數量	一〇、三五三	六、六六一	二、〇五五
價額	四一三	二六八	八二
數量	九、五一四	六、六四九	二、二七一
價額	四四九	三一五	一〇六
數量	九、五五五	七、二一〇	一、三一四
價額	五四〇	四〇四	一〇六
數量	一、三四二	一、三四二	一、三四二
價額	五二	四〇五	一九
數量	五二	四〇五	一九
價額	四〇五	一九	七七一
數量	四〇五	一九	七七一
價額	四〇五	一九	四五

ヘヴィ物

(單位同前)

總計	英國	伊太利	致須國
數量	二二、八二六	一七、九二八	三、一〇八
價額	九〇〇	六五九	一一七
數量	三三、一四四	二六、〇七四	五、六三五
價額	一、四四九	一一七	二五七
數量	二九、六七九	二四、八九二	三、九二七
價額	一、四四九	一、一六三	一八九
數量	九〇七	九〇七	九〇七
價額	三八	四二二	二〇
數量	三八	四二二	二〇
價額	四二二	二〇	七五
數量	四二二	二〇	七五
價額	四二二	二〇	二〇

丁、絲染綿布——絲染綿布の主要供給國は、伊太利、英國、白耳義等なるが、一九二六年に於て、是等諸國及埃太利等が、孰れも減退著しきに反し、本邦の進展極めて顯著なるものあり。

日本及是等諸國の埃及輸入總數量に對する比率より見たる地位の變遷を、一九二三年を起點として査するに、英國は、四割、二割八分、二割二分、二割、伊太利は、四割六分、五割九分、五割九分、五割五分と漸減し、白耳義は、七分七厘、七分六厘、一割一分、一割二分、日本は、〇、一二厘、〇、二八厘、二、三厘、四分九厘と漸増し、日本の進展殊に顯著なるものあり。

ライト物、ヘヴィ物に就きては、絲染綿布の大半は、ヘヴィ物にして、日本の進展は、實に、此の、ヘヴィ物に於て看取し得らるゝものなり。即ち、本邦品縮リンが、最近格安なりとして、埃及土人の男子向並小兒通常衣用に

供せらるゝ數激增し、斯くして、英國品及伊太利品のゼフキアー品と競争したる結果に基因するものなり。唯、其の取引の大半は、小規模の輸入業者なりと云ふ。斯くして、本邦品は下級品を以て、白耳義の高級品と共に、英國、印度等を侵しつゝあり。

概して、綾木綿に於ては、伊太利品は、ポプリンに縞あるもの良質なりとしてガラビヤ用に歡迎せらるゝものなるが値高く、漸次伊太利品の領域を侵すに至れる本邦品縞三綾は、伊太利品に比し、デザイン、アソートメント等に於て伊太利品に劣るものあり。伊太利品は、藍、赤、黄等のアソートメント多く、色合、柄合等、大いに參考とすべき點多し。

ゼフキアーは、英國品、伊太利品最も優勢、三二吋巾を主とす。

トキードは、伊太利品最も多く、全て五四吋巾にして、日本品は、品質良きも、値一割高、巾亦二七吋にて、不可なるものゝ如し、

尙、伊太利は、ベルカール、又は、パチスト類の最も需要多き物に、白耳義はポプリン類の重目物にも努力す。

ヘヴィ物

(單位 數量千方米 價額千埃及磅)

總計	一九二六年		一九二五年		一九二四年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
伊太利	二七、一五六	一、〇四三	三二、〇八九	一、四八七	二二、七三一	一、二四四
英國	一五、三四六	五九三	一九、二四六	八九八	一四、三五一	七七〇
總計	四、八八四	一八二	六、三四〇	二七九	六、一〇九	三〇一

日本	一九二六年		一九二五年		一九二四年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
白耳義	一、三九四	未詳	五五	一、七八九	七〇	一、一一一
義	未詳	未詳	四〇	一、一一五	四三	七六三
總計	一、二七〇	五五	一、七八九	七〇	一、一一一	四八

英國	一九二六年		一九二五年		一九二四年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
伊太利	九〇七	四〇	一、一一五	四三	七六三	三二二
總計	二二三	九	六一一	二四	二八八	一三

戊、反染綿布——反染綿布の主要供給國は、英國及伊太利にして、兩者の競争極めて激甚なるものあり。一九二六年に於ける商況は極めて不活發なりしが、伊太利は、伊貨の上騰を主因として、減退高、英國よりも甚大なりき。英國は、年末に至りての市況恢復による在庫品の移動頻發と、同一商品にして、且、品質稍劣れる伊太利品よりも、五分以内の廉價を以て提供し得たことに、期待を懸け居たりき。供給國としての商勢は、輕目物に於ては、七割六分は英國、二割は伊太利、重目物に於ては五割八分は英國、約四割は伊太利なり。

サチンに於ては、英國品最も多く、伊太利是に次ぎ、本邦品は、八枚縞子大分輸入さるゝに至りしも、仕上粗雜の點を批難され居るものゝ如し。

ヴェネシアンに於ては、英國品最も多く、伊太利品是に次ぎ、五四吋、三六吋を主とす。本邦品は、仕上粗雜、光澤不良、色合亦、各種のアソートメント無し。鐘紡製品ビューティ五〇は、質に於て英國品に劣らざるも、値一割高なりと云ふ。

クレボン、クチル等に於ても、英國品最も多く、本邦品は値に於て對抗し得ざるが如し。

已、其他の綿布——其他の綿布に於ける主要供給國は、伊太利、英國等にして、本邦品は僅少なり。  
 又、綿製品中に含めらるる綿布にありては、天鵝絨及ブラツシユは、佛を主とし、英國、伊太利、獨逸是に次ぎ、  
 衣服用雜綿布は、シリアを主とし、佛國、英國、瑞西、澳國是に次ぎ、家具用雜綿布は、伊太利、白耳義、佛國等  
 なり。

綿布國別輸入統計

其一、

各種綿布國別輸入數量表

(單位方米)

總計	一九二六年		一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	英 國	白耳義	佛 國	伊太利	日 本	英 國	白耳義	佛 國
總計	一六八、五九〇、九一〇	二二三、二九三、五四六	一九七、九七一、八〇九	二一七、一六四、六三八	一六八、五九〇、九一〇	二二三、二九三、五四六	一九七、九七一、八〇九	二一七、一六四、六三八
英 國	一一一、三八〇、四〇六	一六七、七〇五、五三九	一五三、五一四、三二六	一七八、五七四、六五〇	一一一、三八〇、四〇六	一六七、七〇五、五三九	一五三、五一四、三二六	一七八、五七四、六五〇
白耳義	四、八二三、〇四九	四、三五二、一三〇	二、二四〇、九一六	三、一四七、六七五	四、八二三、〇四九	四、三五二、一三〇	二、二四〇、九一六	三、一四七、六七五
佛 國	三、一三八、〇二四	一、六八一、一七二	一、九〇九、二七二	一、五七一、四〇八	三、一三八、〇二四	一、六八一、一七二	一、九〇九、二七二	一、五七一、四〇八
伊太利	二八、二五三、八六一	四一、四〇三、三二二	二九、九八〇、二〇三	二六、八三七、八八五	二八、二五三、八六一	四一、四〇三、三二二	二九、九八〇、二〇三	二六、八三七、八八五
日 本	一六、一七八、八〇五	一三、四三七、二四〇	七、八八三、二四七	三、五九五、九五三	一六、一七八、八〇五	一三、四三七、二四〇	七、八八三、二四七	三、五九五、九五三
總計	五、二七九、四二八	八、二九四、二〇九	七、七九六、七三二	八、四七一、三〇三	五、二七九、四二八	八、二九四、二〇九	七、七九六、七三二	八、四七一、三〇三
英 國	三、二一四、八二五	五、四〇三、三〇一	五、五七〇、三九五	六、四六六、七七六	三、二一四、八二五	五、四〇三、三〇一	五、五七〇、三九五	六、四六六、七七六
白耳義	一九六、二〇六	二一二、二五九	一一三、四三三	一七三、二二三	一九六、二〇六	二一二、二五九	一一三、四三三	一七三、二二三
佛 國	一二四、二九一	八一、五九四	一〇三、〇三九	八二、六九四	一二四、二九一	八一、五九四	一〇三、〇三九	八二、六九四
伊太利	一、一二〇、四四九	一、九六一、六三〇	一、六一二、二一八	一、四七一、五四一	一、一二〇、四四九	一、九六一、六三〇	一、六一二、二一八	一、四七一、五四一
日 本	四三四、六四一	四一八、七二〇	二六四、八二二	一一〇、五一〇	四三四、六四一	四一八、七二〇	二六四、八二二	一一〇、五一〇

同

價額表

(單位埃及磅)

總計	一九二六年		一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	英 國	白耳義	佛 國	伊太利	日 本	英 國	白耳義	佛 國
總計	三四、九三六、八一六	五五、二四〇、三一八	四一、六五四、六三〇	四五、五五五、三〇七	三四、九三六、八一六	五五、二四〇、三一八	四一、六五四、六三〇	四五、五五五、三〇七
英 國	一九、八六七、四四二	四一、二七五、九三三	三三、三〇八、九一三	四一、六四〇、三〇五	一九、八六七、四四二	四一、二七五、九三三	三三、三〇八、九一三	四一、六四〇、三〇五
白耳義	三三、六六二	八、四七六	一六、六一二	二二、二四三	三三、六六二	八、四七六	一六、六一二	二二、二四三
佛 國	六三、一五六	二七六、〇一二	三五一、九四一	一七、二四三	六三、一五六	二七六、〇一二	三五一、九四一	一七、二四三
伊太利	一四、七六六、一一九	一三、二二五、一六九	七、八七一、六三八	三、五五九、二一七	一四、七六六、一一九	一三、二二五、一六九	七、八七一、六三八	三、五五九、二一七
日 本	三三、〇〇、六八三	七〇六、五三二	六四五、三二二	八二三、八二七	三三、〇〇、六八三	七〇六、五三二	六四五、三二二	八二三、八二七
總計	六九一、二二四	一、一三八、一八三	九二四、八二四	九四三、八九〇	六九一、二二四	一、一三八、一八三	九二四、八二四	九四三、八九〇
英 國	三〇〇、六八三	七〇六、五三二	六四五、三二二	八二三、八二七	三〇〇、六八三	七〇六、五三二	六四五、三二二	八二三、八二七
白耳義	一、〇六九	五一五	八三五	七六九	一、〇六九	五一五	八三五	七六九
佛 國	一、四〇三	七、〇四一	一〇、四八九	四、〇一〇	一、四〇三	七、〇四一	一〇、四八九	四、〇一〇
伊太利	三八三、一〇六	四一三、六〇九	二六四、二九九	一〇八、八〇九	三八三、一〇六	四一三、六〇九	二六四、二九九	一〇八、八〇九
日 本	三〇〇、六八三	七〇六、五三二	六四五、三二二	八二三、八二七	三〇〇、六八三	七〇六、五三二	六四五、三二二	八二三、八二七

甲、

生綿布國別輸入數量表

(單位方米)

總計	一九二六年		一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	英 國	白耳義	佛 國	伊太利	日 本	英 國	白耳義	佛 國
總計	四六、〇三三、〇一二	六七、〇八四、三九〇	五八、五八六、二五三	五七、三〇八、二八七	四六、〇三三、〇一二	六七、〇八四、三九〇	五八、五八六、二五三	五七、三〇八、二八七
英 國	四三、六六七、三三一	六四、一〇六、六九〇	五七、〇八七、〇四六	五六、一四〇、二一四	四三、六六七、三三一	六四、一〇六、六九〇	五七、〇八七、〇四六	五六、一四〇、二一四
白耳義	六二四、二八五	三〇六、六三三	四四、五二三	七一、〇四四	六二四、二八五	三〇六、六三三	四四、五二三	七一、〇四四
佛 國	一八三、九五〇	一八六、八三一	五五、六八八	九九、四〇四	一八三、九五〇	一八六、八三一	五五、六八八	九九、四〇四
伊太利	一、一六七、〇四九	二、一二一、三七九	一、二七三、五二〇	七七五、九六八	一、一六七、〇四九	二、一二一、三七九	一、二七三、五二〇	七七五、九六八
日 本	一五、四〇六	三〇、六七三	七五七	三、〇三九	一五、四〇六	三〇、六七三	七五七	三、〇三九

乙、

晒綿布國別輸入數量表

(單位方米)

總計	一九二六年		一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	英 國	白耳義	佛 國	伊太利	日 本	英 國	白耳義	佛 國
總計	四六、〇三三、〇一二	六七、〇八四、三九〇	五八、五八六、二五三	五七、三〇八、二八七	四六、〇三三、〇一二	六七、〇八四、三九〇	五八、五八六、二五三	五七、三〇八、二八七
英 國	四三、六六七、三三一	六四、一〇六、六九〇	五七、〇八七、〇四六	五六、一四〇、二一四	四三、六六七、三三一	六四、一〇六、六九〇	五七、〇八七、〇四六	五六、一四〇、二一四
白耳義	六二四、二八五	三〇六、六三三	四四、五二三	七一、〇四四	六二四、二八五	三〇六、六三三	四四、五二三	七一、〇四四
佛 國	一八三、九五〇	一八六、八三一	五五、六八八	九九、四〇四	一八三、九五〇	一八六、八三一	五五、六八八	九九、四〇四
伊太利	一、一六七、〇四九	二、一二一、三七九	一、二七三、五二〇	七七五、九六八	一、一六七、〇四九	二、一二一、三七九	一、二七三、五二〇	七七五、九六八
日 本	一五、四〇六	三〇、六七三	七五七	三、〇三九	一五、四〇六	三〇、六七三	七五七	三、〇三九

同

價額表 (單位 埃及磅)

總計	一、一三〇、一〇八	一、九七九、八〇七	一、八一四、五一六	一、七七一、六三六
英國	一、〇五二、二〇〇	一、八六七、六七三	一、七五二、〇八〇	一、六七三、四〇九
白耳義	二一、六九九	一二、七七八	一、八二三	一、八〇一
佛國	五、二八九	七、七〇八	二、一二八	三、七六〇
伊太利	三九、二九一	七八、九八二	五四、三七三	三二、〇二六
日本	四二一	一、〇七一	二七	八七

丙、

捺染綿布國別輸入數量表 (單位 方米)

總計	三四、一七八、六一五	四二、六五八、二五九	三九、二二三、八六五	四〇、九〇六、〇二〇
英國	二四、五八九、〇一三	三二、七二三、〇八〇	三二、一〇二、二七七	三四、六八一、九九六
白耳義	四七四、五八二	一四一、七九七	五九、三二三	一〇四、一一九
佛國	二、一八八、五七六	八七一、四四〇	一、三七九、三七四	一、一一一、〇七四
伊太利	五、一六三、〇〇〇	七、九〇六、一三六	五、二四〇、〇一四	四、六七四、四三四
日本	二、八五七	七五八	二、〇三六	三、二四五

同

價額表 (單位 埃及磅)

總計	一、三一二、八七二	一、八九七、六〇一	一、九四〇、一一七	一、九七〇、二六七
英國	九二六、五九九	一、四三一、九一二	一、五六六、九五八	一、六四六、八九九
白耳義	二二、六六〇	七、三六三	三、三五〇	五、四〇七
佛國	八八、四九二	四二、五五四	七八、三〇五	六二、五二三
伊太利	一九八、八九九	三六三、二三六	二六三、四九六	二三五、九六四
日本	九九	三〇	九一	一四一

丁、

糸染綿布國別輸入數量表 (單位 方米)

總計	二八、四二六、二七九	三三、八七八、一三七	二四、八四二、一五五	三五、一一八、一〇五
英國	五、七九〇、七三九	七、四五四、四〇二	六、八七二、五二八	四、〇九九、一三五
白耳義	三、四七九、六九六	三、七八二、四一四	一、八七四、八〇八	二、七一一、七〇七
佛國	二七五、七二五	一九七、一一一	一九二、九四九	二〇三、四七一
伊太利	一五、五六九、一九四	一九、八五六、六六八	一四、六三九、三七九	一六、〇九四、三八五
日本	一、三九四、四二三	七七、一三六	五、六六九	四、三七〇

同

價額表 (單位 埃及磅)

總計	一、〇九八、三八二	一、五五六、五五二	一、二九一、八二五	一、八四八、四〇一
英國	二二一、七二六	三三二、〇〇八	三三三、一〇三	六九九、〇二四
白耳義	一四〇、二四三	一八五、四一四	一〇一、八四九	一四九、一三六
佛國	一〇、四四五	八、四二八	八、九八〇	八、九八一
伊太利	六〇一、七二六	九二一、九七七	七八二、二五二	八八六、〇八四
日本	五一、〇一五	三、三四四	二四七	一七九

戊、

反染綿布國別輸入數量表 (單位 方米)

總計	二五、〇一六、一八八	三四、四三三、四四二	三三、六五四、九〇六	三八、二七六、九一九
英國	一七、四六五、八八一	二二、一四五、四三四	二四、一四三、五六二	三二、〇一三、〇〇〇
白耳義	二四四、四八六	一一一、二八六	二六二、二六二	二三七、五六二
佛國	四五六、一一一	四一七、三一四	二六四、五四九	一四〇、二一六
伊太利	六、二九一、四六二	一一、二四三、一二七	八、四七二、三四九	五、一三九、九五五
日本	—	一三、五〇四	三、一四七	二六、〇八二



## 甲、綿布使用状況——

## 一般埃及人

イ、男子服 埃及人使用の着物をガラビヤと稱し、其形醫師の手術衣の如き長きものにて、回教徒の愛用するものなり。男子用通常ガラビヤは、生綿布又はマダボラムと稱さるる晒綿布の白色無地又は黒染にしたるもの、或はゼキファと稱する縞木綿を材料とするもの多し。埃及人は、自ら染色して使用するを好む。一枚のガラビヤは、普通巾七十乃至八十種のもの五米にて足る。一枚の値段我が三圓乃至五圓を通常とす。

ロ、女子服 女子用ガラビヤは、形歐風婦人服に似て、多くは、バチスト、クレボン、ポアル、ポプリン、サテン等の柄色濃厚なる薄地物を使用し、外出の時は、其の上に頭部より引掛けて、顔より身體全部を包み得る黒色のショールを纏ふ慣習あり。是即ちメラヤにして、通常は晒木綿を黒染せるコレイシャと稱する縮様のものを以て製す。又マリノと稱する黒色縞木綿を使用す。一枚のメラヤは通常巾八十種六米半を要す。値段四圓乃至、五圓通常なり。

ハ、小児服 前記男女ガラビヤと同形、同材料なり。唯結婚前の少女が、メラヤ代用に黒色又は無地各色物の肩掛の大なるものを頭部より引掛けて外出する點に於て稍相違す。

ニ、下着 男子股引に生木綿、女子用下着に晒木綿ベルカールを使用すること多し。

ホ、冬期服 夏期同様のガラビヤを使用し、下着として厚地のシャツ、外套としてクチル即ち雲齋織厚地物又は毛織物の上衣を著す。ガラビヤにネル、又はカシミヤのもの多し。

## 歐風化せる埃及人

イ、男子及小児 シャツ地又はピジャマ地には、ゼキファ或はポプリンを使用す。

ロ、婦人及女兒 上衣にはクレボン、クレープ、ポプリン、ポアル、エボンジエ、モスリン、カシミヤ、サテン等を使用し、裏地としてサテンの需要亦大なり。

## 乙、綿布需要中心地——

綿布需要中心地は、下埃及に於ては、亞歷山、タンタ、マンスーラ、ザガジク、ダマンウール、上埃及に於ては、カイロ、アシユート、グルルグエ、ファイウーム、ベニスーエ、ケナー等なり。

丙、各種綿布重要品種及本邦品需要状況——埃及に於て賣行良好なるものは、マダボラム、ゼキファ、ベルカル、ポアル、ポプリン、ブランサージ等にして、メラヤ用晒綿布亦需要大なり。

イ、生綿布——生綿布に於ては、エクル・レジエ、グレイ・テークロース、タンチブ等を主要とす。

エクル・レジエは、生木綿にして、生粗布の薄手のものなり、幅二六——五四吋、長さ四十碼ものを主要とし、英國品多し。二七——二八吋ものは、重量七封度位にして、各種の色に染出し、上埃及に於て需要殊に大なり。

グレイ・テークロースは、三〇吋巾、二四碼物にして、六封度乃至八封度物、各種色に染上げ使用せらる。

ダンジブは、ブラン・レヂエ・チャクと稱せられ、幅三〇吋、長一六碼、又は幅五四吋、長さ二四碼物を主とし、各種の色及形に染出し、メハラに使用するを主とす。



粗布は、本邦品は、龍〇、九龍等最も歓迎せらるると云ふ。

ロ、晒綿布——晒綿布に於ては、マダボラムを主要とす。

マダボラムは、晒金巾にして、主に、幅三四、三六、三八、四〇、四二、四四寸のものなるも三六寸物最も氣受良く、長さは概して四〇碼なり。英國品は、三六寸×三六・六米、三四寸×四一碼物を主とすと云ふ。其の用途は、白の儘使用するを主とするも、各色の色に染出し、婦人服にも使用する。

ハ、捺染綿布——捺染綿布に於ては、ベルカール、クレプ、ポプリン、バチスト、モスリン、ポアル、サチン等を主要とす。ネル亦重要なりしも、最近需要激減したり。柄は概して歐風にして、趣味濃厚なりと云ふ。

ポブリンは、一名コム・エル・ヌールとも稱せられ、各種の色型の上に厚色の線あり。

サチン（綿繻子）は、主として黒染物、幅二七寸乃至五四寸なり、色物綿繻子も多少の需要あるも、全需要の僅に二割なりと云ふ。色は、蕃、空、朱、黄及藍色最も多し。黒物は主として裏地に、色物中黒味掛りしものは婦人服、純色物は小供服に使用せらる。

ネルは、英國品は、二九——三〇寸三六寸巾、佛伊國品は、八〇種、致須國品は、二七——二八寸なり。

概して、捺染綿布は、婦人用ガラビヤに使用せられ、其他、婦人、小供服裏地、窓掛、クッション等の家庭裝飾用品としても需要せらる。

ニ、反染綿布——反染綿布に於ては、ヴェネシアン、ドリル、クレボン、サテン、バチスト、クチル等を主要とす。

サチンは、前述捺染綿布の項参照。

ヴェネシアンは、黒、鼠、其他各種あり。裏地は主として使用せらる。幅四五寸、三六寸等なり。

クレボン、クレープ等の上品は、幅三八寸、下等品は、幅七八——八二種を主要とす。

クチルは、幅二七、五五、五四寸等を主要とす。

ホ、絲染綿布——ゼフキヤ、ポブリン、サテン、エボンジエ、カシミヤ、ドリル、トウキード等を重要とす。

トウキードは、ガラビヤの上に被るオーヴァーとして、其他、服、ズボンに使用せらる。幅五四寸を主とすと云ふ。

ゼフキヤは、白又は色物に縞、或は格子を表はす。三二寸巾を主とすと云ふ。

カシミヤは、ズボン下使用を主とするも、冬季用ガラビヤにも使用する。概して黒味色に縞を入れたるものにして、鈎裂し易からざるもの、染色、殊に黒及ブルー確なるもの、糊氣少なくして、仕上に護謨を用ひしもの歓迎せらるると云ふ。

ドリル、又はトウキールは、品質良好なるものガラビヤに使用せられ、藍、赤、黄等の種々のアソートメントあり。最近本邦品縞リンの需要増大せり。日本品は、二七寸巾、三〇碼物多く、岡田織布會社製品二八寸巾、三〇碼物に類するもの一米二五——三〇錢位のもの需要多しと云ふ。

ヘ、其他の綿布——其他の綿布中、天鷲絨及ブラシユは、現在は在留外人間に多く使用せらるのみ、家具用雜綿布は、埃及家具製造等の最近發達顯著なる状態にありて、需要益々増大の傾向ありと。佛國品、伊太利

品を主要とす。

丁、需要大なる綿布の種類、品質、小賣値段、用途等、(一九二六年十月現在)

埃及市場に於て販賣せらるる綿布の種類、品質、小賣値段、用途等に就て左に其の概略を列記せんとす。價格單位ピアストルは時價邦價十錢五厘乃至十一錢に相當す。而して以下ピアストルを假りに「比亞」の文字を以て表はす。

品名	巾	小賣値段 米に付き	色 合 質	用 途
ペルカーネ Pelcaie (金巾)	78c/m—82c/m	3 1/2—5	白色無地各柄色	女ガラビヤ、小兒服
クレボン Crepon (縮)	"	3 1/2—5	無地各色(反染)各柄捺染	婦人上衣、化粧服下着
ゼフキヤ Zephyr (綿木綿)	70c/m—80c/m	3 1/2—6	立縞、辨慶絲染	ガラビヤ、上衣、シャツ
クチル Coull (雲齋織)	7c/m—140c/m	5—16	白、カーキ色、無地	股引、小兒服
ボアル Voile (ボイル)	100c/m	5—8	捺染各柄各色無地	男、男兒用上衣
クレプ Crepe (縮)	"	8—10	各色反染、捺染各柄	女ガラビヤ、婦人上衣、下着
ポプリン Popeline	78c/m—100c/m	4—2 1/2	捺染各柄、縞柄、絲染、白、黒無地	婦人上衣、女兒服
マダボラム Madapolam (晒金巾)	80c/m—82c/m	一反二十碼(米)65	晒白無地各色無地	婦人上衣、小兒服、男子
サテン Satin	60c/m—100c/m	4—12	捺染各柄黒、各色反染	シャツ、下着ガラビヤ、敷布、ズボン下、メラヤ
ブランサーン Prencenzig (縞子)	70c/m	4—8	各色無地	ガラビヤ、裏地、メラヤ
エボンジエ Epongee	97c/m—100c/m	8—10	絲染、縞透入	裏地、下着、小兒服
バチスト Batiste (金巾)	78c/m—80c/m	3 1/2—5	捺染各柄無地各色	上衣、化粧服、浴衣、女

フランネル	70c/m—140c/m	12—25	自然色、縞柄無地	ガラビヤ、シャツ、運動
カシミヤ Kashmir	138c/m—140c/m	6—10	絲染、バステル、黒味色	上衣、ズボン下、ガラビヤ
モスリン Mousseline	78c/m—80c/m	3 1/2—10	黒地に白色模様、捺染各柄	ガラビヤ上衣、下着、小兒服
エクルレンジエ (生木綿)	20c/m—54c/m	一反四十碼 十七志位	自然色各色反染	ガラビヤ、下着、股引、室内用品
グレート・テークローズ (天然布)	27c/m—30c/m	一反二十四碼 八志位	自然色各色反染	同 上

次に一反長さに付て大略を示せば次の如し。

- 1 生綿布並晒綿布 英國及東洋製品は三十碼、四十碼、六十碼多し。佛、伊、獨、瑞等製品は十米、二十米、三十五米物多し。
- 2 柄色綿布 英國及東洋製品は四十碼、四十二碼物多く、佛、伊、獨、瑞等は二十八米、三十三米、三十五米、四十二米物多し。
- 3 埃及製品 六米半物多し。

## 二、綿織糸

一、埃及への輸出大勢——本邦より埃及への綿織糸の輸出が、相當の數量に達するに至れるは、戦後、殊に大正十二年以後のことに屬す。即ち、戦前に於ては、極めて微々たるものにして、一四千斤、一二千圓に過ぎざりしが、大正十一年に於ては、廿番手迄のもの二六七千擔、二二千圓、同以上のもの皆無かりしが、大正十二年には、廿番手迄のもの四、三三八千擔、三七七千圓、同以上のもの九七七千擔、一一九千圓に達し、次年には、更に顯著なる増加を以て、今日に至れり。而して、大半は、廿番手迄のものなるも、大正十四年には、同以上のもの一時激増を示し、同以下のものの方、却つて減退せり。

二、主要競争供給國——埃及輸入綿糸の主要供給國は、生、晒、色物に於ては、英領印度、伊太利、日本、縫糸に於ては英國、伊太利、白耳義、佛國等にして、一九二六年にありては、縫糸に於て、英國は、約二二、四一〇埃及磅方減退して、一六八、一一〇埃及磅となり、伊太利は、數量増加せるも、價格減退し、白耳義は、數量、價額共に減少し、佛國のみ、二二、五七二埃及磅方増大し、三九、六四八埃及磅に達したり。

本邦品は、生及晒物大半を占め、色物は無く、縫糸に於ても極めて僅少なり。

埃及生及晒綿糸輸入市場上に於ける、輸入總額に對する百分率より見たる日本の地位は、一九二四年九分弱、一九二五年一割六分なりしも、一九二六年には六分弱に減退せり。

本邦品は、生物大半を占め、晒物是に次ぎ、番手は、生物は二〇番手、小がせもの、マーゼライズしたる晒物は、双子の四〇、四二、六〇、六四、八〇番手等、銘柄は、日の出、恵比壽、白鳥等なり。使用原棉割合は、印棉七割、米棉二割、支那棉一割見當なり。而して、縫糸は、極めて僅少なるものの如し。

印度品は、二〇、一六番手ものにして、殆ど全部印棉を材料とせるもの、本邦品よりも値安にて優位を占め居るなり。但し品質は、本邦品に比し稍劣り、埃及土人手織物に適當なる太物なり。

伊太利品は、太物安物を主とす。

綿絲類輸入額表

(單位 數量千基 價額千埃及磅)

色 綿 糸	一九二六年		一九二五年		一九二四年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
	七六	一七	九三	二四	(生、晒中に含まる)	

縫 糸	一九二六年		一九二五年		一九二四年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
生、晒綿糸	二、五六一	二四八	二、九四七	二七四	二、九三四	二五一
英 國	以下未詳	三五八	二〇八	四七四	一八六	四九九
英領印度			一、七四二	五五	一、七七五	五四
伊太利			五四〇	二二六	六一七	二四四
日 本			三九二	一〇九	七四	一四三
				七四	二六八	四四

三、莫大小製品

一、埃及への輸出大勢——本邦より埃及への莫大小類の輸出が、相當の數量迄、顯著なる進展を示したるは、大戰開始後のことに屬す。即ち大正元年に於て、既に肌衣三萬打、三八千圓、靴用足袋(本品は、大正三年迄は、莫大小製以外のものを含む)七萬打、四四千圓に達し、次年には、倍加したるものなるが、大戰開始後は、更に倍加し、戦後、大正八、九年には、最も旺盛を極めたり、而して、大正十年に於ける大激減より、次第に恢復し來れる近年の趨勢も、最近三ヶ年は、稍振はざるものあり。唯、昭和元年を戦前に比する時は、尙、肌衣は約二倍加し、靴下は、約六割増を示し居れり。

本邦より埃及に輸出せらるる莫大小製品は、肌衣及靴下なり。肌衣は、大正四年に既に約一七萬打に上り、其後稍減退せしも、大正八年には二二四千打、同九年には三四六千打に激増したり。而して大正十一年には、前年の五萬打より、一七七千打に、大正十二年には、三〇五千打に恢復顯著なりしも、其後一進一退なり。靴下は、大戰開始後一路漸増を辿り、大正八年には、實に、約五八萬打に上りしが、激減に、激減を重ねて、大正十年には、一〇萬打に反落したり。而して、是を底として恢復顯著に、大正十二年には三三萬打余に達せしが、其後再び抄々しか

二、埃及の需要、生産、輸入の概況——埃及に於ける靴下、肌衣の需要は、極めて莫大なるものなるが、産額僅少、價格割高に過ぎる爲、需要の大半は是を輸入に仰ぐ。

三、主要競争供給國——埃及輸入綿莫大小の主要供給國は獨逸、日本、伊太利、佛國、西班牙、和蘭、米國、致須國、英國、瑞西、奧太利等なり。

而して獨逸は、値二三割高なるも、品質の優良を以て、逐年其の優秀なる商勢を擴張しつつあり。本邦品は、廉價なるも、品質不良として漸次衰退しつつあり。伊太利は、安物の靴下、佛國は肌衣、米國は上等靴下を主とし、致須國品は日本品の模造に功妙に、和蘭品は未だ本邦品を脅威するに至らざるもの如し。

絹莫大小物に關しては、本邦品の勢力極めて微々にして、次表掲記國以外に、一九二四年には、奧國、一九二五年には、奧國、印度、白耳義、支那等にも凌駕されるに至れり。

毛莫大小物に關しては、本邦品は、往々輸入されたる年あるも、是亦僅少、主要供給國は、英、佛、伊なること、(第三章第四節二の一纖維類八二頁参照)前述の如し。

綿莫大小國別輸入額 (單位千埃及磅)

總計	一九二六年	一九二五年	一九二四年	一九二三年
獨逸	五九九	六七五	七一三	五八〇
日本	一九三	一七九	二三四	一九六
日本	一〇八	一六七	一九一	一九九

伊太利	七七	九五	七五	三八
佛蘭西	六七	六一	五八	三五
西班牙		七三	六三	五九

絹莫大小 (單位埃及磅)

總計	一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	純絹	人絹	純絹	人絹	純絹	人絹
佛國	二五、二〇九	二五、八三八	五一、一四七	六九、六五六	一九、二八六	一九、二八六
獨逸	一九、六五三	三、一九〇	二二、九三三	九、八七八	一七、七四二	一七、七四二
米國	一、四九〇	六、九八六	九、八七八	五、八〇六	七、二七八	七、二七八
瑞西	一、六〇〇	七、九七一	五、八〇六	五、二一五	一六、四九三	一六、四九三
伊太利	一七〇	一、四九一	五、二一五	四、七二九	三、五八八	三、五八八
英國	七五五	四、二三八	四、七二九	一、五二八	二、三四〇	二、三四〇
日本	七二五	六五〇	一、五二八	二〇六	六七五	六七五

(註、日本の順位、人絹製莫大小以外に於て、二十六ヶ國中、一九二三、二四年第八位、一九二五年第十一位)

肌衣に於ける本邦品の主要競争國は、獨逸、伊太利、佛國、西班牙、和蘭、致須國等にして、致須國品は最近の漸増趨勢に注視せられ居れり。

値の關係に於ては、本邦品は他重要競争國品に比し、割安なるも、佛國、伊太利、致須國等は爲替上有利に、大いに利得しつつあり。致須國品は最廉價品と稱せらる。而して、品質の關係に於ては、獨逸品よりも、寧ろ伊太利品重要なり。

獨逸品は、一二番手の生なりものも、大分歓迎せらる。而して本邦品に比し値割高に、品質稍及ばざるの觀あり。然れども、重要な地位を占むるは、取引關係に主として基因するもの如し。獨逸品には、本縫多く、仕上明るく、原棉には、米棉をも混じ居るもの如し。

歐洲品は概して埃及綿を使用す。而して取引關係の有利、及其の生地の良きに加へて、送りの調子、環縫を多く使ふこと等の裁縫、仕上等に優秀にして、其の尤なるものは伊太利品なり。

本邦品は、印棉を多く使用するもの如し。

和蘭品は、生地ものが本邦品を駆逐しつつあり。

靴下に於ては、概して獨逸品最も多きも、人絹物に於ては、佛國品重要に、日本品致須國品是に次ぐ、而して値の關係より見れば、日本品は最も割安に、致須國品は最も割高なり。然れども、日本品は、柄、色等に於て、他國品に追及する能はず。例之、黒無地の黒は、鼠色がかりしものは嗜好に適せざる由なり。概して無地物は獨逸品、柄物は伊太利品の販路なるが如し。シルケツト物に於ては光澤の出し方の競争にありては、此の點、獨逸品最も優秀なり。唯、値の關係にて、子供向のものに於ては、段縞の止ゴムの如き、本邦品の獨占市場なるが如し。本邦品に對する營業者の希望は、一般に耐久力少なき點を改善すべしとの由なり。

四、肌衣需要狀況——男女共に、莫大小製肌衣の需要盛にして、嗜好は、鹿の子首の仕立は少なく、鹿の子首の半前開きの上衿、半衿、菊柄様の上衿等最も需要多く、袖は、ガラビヤとの關係上、半袖、袖無しが必要殆ど無く、孰れも稍長目の丸袖、周圍三四吋、袖丈二吋半が主たり。止ゴムは歓迎されず、流しの二重ゴム主たるものにし

て、最近護謨の様様あるもの歐洲より輸入増加したる由なり。從來は、生地もの最も重要なりしが、輒近晒ものは代るに至れり。色柄は、埃及棉生地の色たる瓦斯色主に、其他取合あり。一九二六年秋、一時一時毎に絲三本位の太線ある、藍、黄、赤等の薄色に縞を濃線にせる、伊太利製品大いに嗜好に投じたりしも、高價に過ぎ、一時的流行に終りたるもの如し。龜甲、段縞等に對する需要は殆ど無し。品質は、細物よりも太物の重目物、仕上は軟よりも硬物にして、低廉なるとつしりしたるもの多く、二〇番手以上は、殆ど需要無きが如し。夏物、冬物の消費割合は、六對四にして、夏物は、四月頃より、冬物は十一月頃より需要増大す。

五、靴下の需要狀況——靴下は、人絹製、綿シルケツト製各々需要あり。無地物、柄物共に需要あり。柄は、堅縞稍廢れ、菱形、格子縞迎へらる。色の配合は、大体に於て黄色、綠色を好むもの如きも、婦人用は、後部にシム有るものにして、丸物は殆ど需要無きが如く、色合は肉色、銀白等、男子向のは、黒、茶等を主とするもの如し。

#### 四、絹織物

一、埃及への輸出大勢——本邦より埃及への絹織物の輸出は、早くより開始せられ、品種は殆んど羽二重に限られたるが、戦前は微々として振はず、大戦開始後、急速に進展し、縮緬を加ふるに至りしも、戦後再び、稍不振に陥れるを見るものなり。

即ち、羽二重は、明治三十一年には、既に、六八〇反、九千圓を示し、同三十六年には、三、六七六斤、五萬圓に上り、其後大なる進展をも示さず、大正二年四千斤、五五千圓を以て、戦時中に進みしが、然るに、其後は、等

比級數的に増加し大正七年には、五八〇擔、一、二六〇千圓に上り、戦後に於ては大正八年の減退も、大正九年には七五一擔、二、七五二千圓の未曾有の巨額に上れり。然れども其後、約七割方宛激減に激減を重ね、大正十一年の八一擔二二二千圓を底としての顯著なる恢復状態も、大正十三年を頂として、再び漸減傾向を辿るに至れり。尙、大正九年迄の羽二重の埃及への輸出は、大半平織なること統計の示すところなるも、其後は、平織、絞織、綾織、孰れが主たりしや、統計、是を示さず。

羽二重以外の絹織物に關しては、大戦後期頃より、縮紬及壁織、次第に増大し、大正八年には三四一千碼、六四〇千圓に上りしが、其後、半減に半減を重ね、最近、再び、稍、恢復の氣運を示すに至れり。右以外の商品は、從來一〇萬圓を超えたる商品無かりしも、唯、例外として富士絹あり、富士絹は、最近に至り、俄に著増を示せるものにして、倍増に倍増を重ね居る最も重要視すべき商品なり。

二、埃及國內生産と輸入の大勢——埃及國內に於ける絹織物工業は第二章第三節二に於て見るが如く、大規模の機械工場は、僅かに「ロジベイ」工場あるのみ、他は皆手機に據るものにして、組織的工業とは認め難く、孰れも甚だ幼稚の域にあり、製品亦埃及並近東地方人向のものなり。されば、絹織物の需要次第に旺盛ならむとする埃及に於ては、毎年、約八十萬埃及磅内外の絹布を、外國に仰ぎつつあり。

三、本邦と主要供給國との角逐狀況——埃及輸入絹織物の主要供給國は、佛國、日本、支那、伊太利、獨逸、瑞西、英國等にして、一九二五年には、佛國四一六千埃及磅、支那二二二千埃及磅、日本一一六千埃及磅なり。混絹織物に就ては、佛國、伊太利、パレスタイン、シリア、瑞西、獨逸、英國、日本等にして、即ち、混絹織物に就ては

日本は末席にあり。

本邦品は、主として羽二重生地に於て優勢の地位にあり。模様、柄物等の色物に於ては、佛國品に比し遜色ありて、競争困難なるが如し。肌衣、裏地向の厚物、又は手巾、裝飾用向の輕目物最も多し。純日本風の廣巾物を大に宣傳するの要あるべし。

佛國品は、純絹、人絹、混絹等の交織變物の見榮良きものと、低廉品とに努力し居るものにして、婦人服地、裏地向、色合は黒、白(象牙色)、薔、空、朱、藍等の無地物多く、柄物は、大柄又は埃及古代模様多し。

伊太利品は、裏地、シャツ地向縞柄多く、佛國品に比し遙かに遜色あるも、人造絹製品に於ては特に優秀にして、第一位を占め居れり。

シリア品は、絹布、絹綿交織布の無柄物を主とす。ベルト製品にして、ベルトに於ては、手織を以て、自國産生絲に依り、安價に縞縞を製織して埃及に輸出す。男物ガラビヤ用絹地は、埃及産品、シリアの獨占舞臺なり。瑞西品は、裝飾用厚地、裏地の上物を主とす。

米國品は、人絹製品に努力す。支那品は、絹紬を主とす。

埃及各種絹布輸入額

(單位價額 千埃及磅)

絹 布(百基)	一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
	三八七	一五九	七〇八	二四〇	五五四	一九六
						一八九

品名	日本	佛國	伊太利	シリア	獨逸	瑞西	支那	伊太利	佛國	伊太利	佛國	人絹布(百基)	伊太利	佛國	人絹布(千米)	伊太利	佛國	獨逸	佛國	伊太利	佛國	シリア	日本
絹(布(千米))	七一	二四三	二二	二八	一三	〇・一	三、二八九	八九二	一、〇二八	一、二六九	六二	二〇七	一〇六	二九	四三〇	一三二	八一	六三	六七	五五二	〇・三	三八四	六三
絹混織物(百基)	二七	九〇	二七	九	六	〇・四	五五〇	八八	三〇九	一一一	二一	二五	一〇	六	七	二四	一四	一三	一一	一〇三	〇・七	六三	一八
人絹布(百基)	四三	二七	二〇	〇・三	一七	一八	六二五	一二二	三四四	八五	四四	二一〇	一〇	一〇	二	二	二	二	二	二	二	二	二
人絹布(千米)	二七	九〇	二七	九	六	〇・四	五五〇	八八	三〇九	一一一	二一	二五	一〇	六	七	二四	一四	一三	一一	一〇三	〇・七	六三	一八
絹混織物(百基)	二七	九〇	二七	九	六	〇・四	五五〇	八八	三〇九	一一一	二一	二五	一〇	六	七	二四	一四	一三	一一	一〇三	〇・七	六三	一八
人絹布(百基)	二七	九〇	二七	九	六	〇・四	五五〇	八八	三〇九	一一一	二一	二五	一〇	六	七	二四	一四	一三	一一	一〇三	〇・七	六三	一八
人絹布(千米)	二七	九〇	二七	九	六	〇・四	五五〇	八八	三〇九	一一一	二一	二五	一〇	六	七	二四	一四	一三	一一	一〇三	〇・七	六三	一八

パレスタイン

(註、日本の順位、二十二ヶ國中、一九二三年第九位、一九二四年第十四位、一九二五年第九位)

絹混織物(千米)

品名	日本	佛國	伊太利	佛國	獨逸	佛國	伊太利	佛國	獨逸	佛國	伊太利	佛國	獨逸	佛國	伊太利	佛國	獨逸	佛國	伊太利	佛國	獨逸	佛國	伊太利
絹混織物(千米)	三〇六	八〇	二四八	六七	三七一	八二	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
絹混織物(百基)	一四七	三九	一二六	三二	一四五	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
伊太利	一〇八	三〇	九六	二九	一八六	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五

(註、日本の順位、十四ヶ國中、一九二三年第四位、一九二四年第八位)

次に、本邦品に対する品質上の競争を見るに左の如し。

羽二重に於ては、本邦特種品なるを以て、佛國品のみを取扱ふ百貨店に於ても、是のみは陳列し居れり。

縮緬に於ては、本邦品は殆ど全部が *The Finest* (膨脹)せざるものなれども、佛國品は之と反對にして、前者は堅牢なる點に於て其特徴を認めらるるも、後者は價格廉を以て喜ばる。而して本邦に於ても、膨脹すること行はるるも、生産費の低減僅かに二割を出でずして、對抗し難きものの如し。尙、本品に於ては、半紡糸、全紡糸もの、埃及に於て生産せられ、又は輸入せられ居るも、本邦品は殆ど無きが如し。

ジョーゼットクレープに於ては、戦時中、相當日本品輸入せられたるも、現今は、佛國の膨脹を施せる品の爲に壓倒せられたるが如し。

サチンに就ては、伊太利及佛國より巧に人絹を混入せるもの輸入せられ、本邦品は未だ何等の勢力を有するに至らざるもの如し。

富士絹に就ては、ロジベイ工場製品の類似品と、佛國及伊太利等より大いに輸入せらるると、是等二國より、横

に綿を使用せる類似品の極めて安價に輸入せらるると、綿に人絹を混入せる特に美麗なる伊太利品の輸入せらるると、英國のマーセライズドポプリン及ジャブシアン(絹綿交織)に對する愛好心尙強きと、支那産絹紬等の爲、本邦品の發展を阻害しつつありと云ふ。

絹紬に於ては、支那品、最近盛んに輸入せらるるも、本邦品極めて少なきものの如し。支那産絹紬は、其色合の稍黄色を帯びたるが、嗜好に投ぜるものなり。

#### 四、需要狀況

甲、絹織物需要の趨勢——埃及一般生活狀態は、食住に於て文化未開の域を脱せざれども、上流社會、都會人等は、衣、身邊裝飾に就ては、一般に歐米文化國風に倣ふ傾向あり、カイロ、亞港等の都會に於て殊に顯著なるものを見る。右は、二十萬人余の在留歐米人と、年々數萬に達する世界漫遊客の渡來に依る感化なるも、首都カイロ市の如きは、佛國流行の粹を集め、流行の標準は巴里に異ならざるの觀あり。又、下流社會に於ても、殊に婦人に於ては、衣類身邊裝飾に華美を好む風あり、需要中心市場の各地方に於て、最も顯著なるものあり。斯の如き事情なるを以て、絹織物の需要は、益々増加の趨勢にあり。

乙、絹織物需要中心地——絹織物の需要中心地は、カイロ、亞港、坡西土、タンタ各地方を最も重要とす。

丙、絹織物消費狀況——次に、絹織物の消費事情を見るに左の如し。

都會人男子——從來のガラビヤを著するものと、洋服を常用するものとあり。ガラビヤは、複雑なる立縞の絹織物にて製せるもの多く、主として埃及手織物、シリア、バルート等より輸入せられたるものにして、總体に厚き生地なり。洋服を常用するものは、其の襯衣に、絹地を用ゐんとする欲望強きものあり。

都會人女子——男子と同じく、ガラビヤを常用するものと、洋装なるものとあり。而して、洋服化は、逐年増加の傾向ありと云ふ。ガラビヤは、黒色の絹物にして、本邦品羽二重及縮緬を需要す。其の下着スカート様のものは、黄、赤、紫、其他諸種の色の單色に染めたる絹物、又はプリントせる絹物を用ひ、羽二重、縮緬、富士絹等を需要す。又、メラヤにも需要莫大なり。

其他——右以外に、棉花耕作地の地主あり、農民階級の婦人あり。棉花耕作地の地主は、極端に贅澤にして、襯衣地として、絹織物を需要し、農民階級の婦人は、自國製品のみを以ては、需要を満し得ざる觀あり。

#### 丁、各種絹織物需要狀況

羽二重に於ては、平地物は、川俣、加賀、福井品共殆ど各目附に對して需要あり。幅は、主として二七吋及三六吋にして、川俣品は多くメラヤ又は手巾の材料として、其他婦人の服装及男子襯衣地等に供せらる。

縮緬に於ては、主として婦人の服装に用ゐらるる四十吋幅にして、口付八十位のもの、時には重目物襯衣地用に供せらる。絲染、捺染、無地、反染各々需要あり。紋織は、稍、流行廢り來れるものの如し。

サチンに於ては、或は婦人服装に、或は洋服の裏地として需要多し。人絹混織のもの多く歡迎せらるると云ふ。

富士絹は、婦人の服装地、男子服地、襯衣地等に大なる需要あり。

絹紬は、厚地物は洋服地、ガラビヤ服、薄地物は主に襯衣地として使用せらる。

成、需要大なる絹布の種類、幅、小賣値段(一九二六年三月現在)



佛國品	巾 70 c/m 物	一米に付
ボンジー Pongee	" 100 "	一志五片
クレツブマロケン	" " "	二志五片
フランス縮緬	" " "	三志八片
捺染ジョーゼット	" " "	五志二片
ジェルシー	" 140 "	四志一片
白絹	" 80 "	四志六片
黒サテン(エクシタン)	" 80 "	四志
ローヤルサテン	" 80 "	四志六片
日本絹	" 80 "	二志
	" 90 "	三志六片—五志六片

五、絹綿製品及モスリン

一、綿製浴巾——綿製浴巾の埃及への輸出が、相當の數量に達するに至れるは、九千打、約五萬圓に上れる大正十一年以後に屬す。而して、大正十二年には須叟にして二八千打、一三二千圓に上り、爾來、稍漸増の傾向あり。埃及に於ける本邦品に對する競争品に關しては、統計上に於ても不明にして、不詳なるも、嗜好としては、浴巾の兩端に、亞刺比亞文字にて、「今日は」、「お早う」と云ふが如き文字を織込みしもの、最も需要多しと云ふ。

二、綿製敷布、卓子掛、寢臺掛——是等商品の埃及への輸出として明確なるは、卓子掛あるのみ。卓子掛は、大正十四年二〇三打、一千圓、昭和元年一七九打、七千圓に上れるが、絲拔、又は紐りたるものは殆ど無し。埃及に於ては、敷布、卓子掛等は、少額ながら家庭手工業として發達の道程にあり。埃及模様の製品は、埃及土産として外人に歡迎せらるるものも少からず。而して機械的工業製品としては亞歷山埃及綿織會社、メハラコピヤ織物學校の製作あるも、産額極めて少量なり。殊に白色、其他精巧圖案の製品は高級、低級共に輸入に埃つの状態にあり。

綿製敷布、卓子掛輸入額

(單位 埃及磅)

總額	一九二五年	一九二四年	一九二三年
伊 太 利	一三〇、〇〇三	一〇三、六〇〇	一一二、一〇七
佛 國	六三、八三〇	四三、五四六	五五、七四二
英 國	二一、四三一	二四、三五一	一五、九〇四
日 本	一七、六一一	一五、一四五	一六、九七七
	一一、六二一	四、九七二	七、三〇一

此の間にありて、本邦品は、堅實に其の商勢を擴張し、一九二五年には約一割に達するに至れり。一九二六年十月に於ける標準物の相場を見るに左の如し。

卓子掛 赤、藍又は黃の辨慶柄、小賣一米四十角の物一枚二十五比亞、白色綾織切地の巾一米五十角の物一米に付十二比亞見當を普通とす。

敷布 クレオン製二七五種×一九五種三十比亞を普通とし、四十五、五十比亞を中等とす。  
寝臺掛は、埃及人生活上に連れ相當需要増進するもの如く觀察せらるるものにして、供給國としては、大半は佛國、是に次いで伊太利、和蘭、獨逸、英國、白耳義等あり。

綿寝臺掛輸入額

(單位數量千個、價額千埃及磅)

總額	一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
佛國	四一〇	五七	二二三	三九	二六七	四〇
	二四五	二九	一一二	一四	一〇五	一一

(註、日本よりの輸入は、一九二二—二四年無く、一九二五年二四個、八磅ありたるのみ、順位遙かに低し)

三、肩掛、手巾、スカーフ——英及への輸出としては、肩掛、手巾共に絹製を主とす。絹製肩掛は、明治三十六年に於て、既に二四三千枚、五六千圓に上り、歐洲大戰の後期には一時的不振状態より俄に激増して、大正七年の如き五二千枚、五二千圓の巨額に達したり。然れども、其後は、大正九年に一時的恢復を見たるのみにて、振はざるに至れり。絹製手巾は、明治三十一年に於て、既に二、七二六千打、八千圓に上り、次第に増加し、殊に歐洲大戰開始後甚しく、大正七年の如き、一〇萬打、四五五千圓未曾有の巨額に達したりき。然れども、是亦、肩掛と等しく、大正九年一時恢復したるも、爾來頓に激減するに至れり。

次に埃及に於ける需要状況を見るに、絹製肩掛、手巾、襟卷等に於ては、約半数は伊太利品にして、本邦品、佛國品是に次ぐ。

伊太利品は、過半数は人絹製品にして、刺繡を施せる肩掛を主とし、是は夜會用として婦人に歡迎せらる。價格に於て、本邦製純良品を壓倒しつつあり。

佛國品の主なるものは、手巾にして、一九二六年三月當時はフランス縮緬大柄物薄地一一吋物五、六十錢乃至二吋物一圓八十錢迄の品賣行良好に、本邦製並に英國製厚地物は、其の販路を大いに侵害されたるもの如し。

本邦品は、天然絹製手巾、襟卷に於て特に他競争品に秀で、土人使用に供せらるるもの多し。襟卷は一九二六年三月當時一枚一圓八十錢見當のもの土人の鉢巻としても代用せらる。

綿手巾に於ては、晒、捺染物なるも、輸入額は僅々六、七萬磅に過ぎず。供給國は、英國、伊太利の競争にして、伊太利稍優勢なり。其他、瑞西、シリア、佛國も亦少額ながら供給す。本邦品は、輸入商相當取扱ひ居るも、統計には表はれず。値段は(一九二六年十月現在)男子向大さ四十種乃至四八種、女子向二八種乃至三四種、品質は、パチスト又はゼフキヤ一製もの、並品小賣値段男子向一打六比亞、中等品十二比亞、上等品二十比亞以上、女子向一打十二比亞、刺繡入十四比亞を並品とすと云ふ。

綿製肩掛は相當需要あるも、下級向は多少國産品を使用するもの如く輸入額余り大ならず。伊太利品最も賣行良好なり。

絹製肩掛、手巾、襟卷類輸入額

(單位千埃及磅)

其 一 (千基)	一九二四年		一九二三年	
	數量	價額	數量	價額
	四一	一一九	三六	一一二

品名	一九二五年	一九二四年	一九二三年
希臘	二二	一五	四三
伊太利	三	四	二二
瑞西	五	九	二八
致須國	三	一	六
(註、日本よりは、一九二三年三四基、一九二四年四三基、一七四磅の輸入あり順位遙かに低し)			
其二(千打)	一三六	一四二	五七
伊太利	六九	七六	二二
日本	五二	三四	一九
佛國	九	一五	九
(註、日本よりは輸入無し)			
其三、一九二五年輸入額左の如し。			
絹肩掛	三六千個、四五千磅、内、伊太利三二千個、三四千磅、香港一・五千個、四・九千磅		
(註、日本よりは四三個、一五八磅にして、順位遙かに低し)			
人絹肩掛	八四千個、三八千磅、内、伊太利五二千個、二四千磅、獨逸二三・五千個、一〇千磅		
(註、日本よりは輸入無し)			
絹手巾、襟卷	一、八四二基、八、〇八二磅、内、日本七三六基、三、九八一磅、佛國三八二基、一、七一〇磅、瑞西四三〇基、一、五二二磅		
(註、日本よりは輸入無し)			
人絹手巾、襟卷	八三千打、五一千磅、内、日本六六千打、二六千磅、佛國八千打、一二千磅、伊太利六千打、八千磅		
(註、日本よりは輸入無し)			
綿製手巾輸入額	(單位千埃及磅)		
一九二五年	一九二四年	一九二三年	
總額	七五	六八	七〇

英國 二八  
伊太利 二五

二二  
一九

(註、日本よりの輸入は、一九二三年一・三磅、一九二八年三磅、一九二五年無し、順位遙かに低し)

綿製肩掛輸入額 (單位埃及磅)

品名	一九二五年	一九二四年	一九二三年
其一(基)	數量 六、五一一 價額 三、七四〇	數量 一二、〇七七 價額 九、九八九	數量 一三、八七二 價額 一三、八七二
シリア	二、〇三四	一、五二二	八、〇一〇
伊太利	三、五〇五	一、〇〇一	八、〇一〇
(註、日本よりの輸入無し)			
其二(千個)	四八五	六四	四五五
伊太利	三五九	四七	二七八
(註、日本よりの輸入無し)			

四、衣服類——衣服類として埃及に仕向けらるる主要なるものは、キモノ、洋服、絹製衣等なり。キモノは最近三ヶ年間三萬圓に上り、洋服は最近漸増して昭和元年には八千圓に達し、絹製寢衣は僅少にして、最近に於ては、大正十三年に七打、昭和元年に四打を算したるのみ。

所謂キモノは、絹製、縮縮製等を主とするものなるが、埃及に於ては絹製衣服は、其の大半を佛國に求め、其他の供給國として、日本は、シリア、伊太利、英國に次ぐ。本邦製絹衣服は、刺繍巧妙に好評なるも、高價なると、柄、形に於ても變化無き等の爲に賣行不良なるに反し、佛製品は、柄、形を他の流行に連れて變化し、價格も種々

に作成する爲に、賣行割合に良好なりと稱せらる。尙、綿製衣服は、佛國、伊太利、致須國、英國、獨逸、埃國、日本等主要供給國なるも、輸入額は僅少七・八萬磅なり。歐洲品はゼフキア、又はポプリン製のピジャマ、小兒服を主とし、本邦品は、クレボンのキモノ又はピジャマを主とす。本邦品の輸入額は、最近一・五千磅位なりと。致須國品は巧に本邦品を模し居れり。

最近の報道に依れば、近年モスリン製のもの歓迎せらるゝ由なり（モスリンの項二〇四頁参照）

既製衣服

（單位 埃及磅）

絹製	佛國	一九二五年	七六、九二二	一九二四年	八五、六七四	一九二三年	七五、六七四
	シリア		五八、八六三		六五、四五六		五二、六二七
	伊太利		五、四六九		五、六八五		三、八〇一
	日本		四、〇〇〇		三、六四八		三、五九五
	英國		二、〇二八		二、六六六		二、九七八
綿製	日本		二、四二六		二、六七〇		三、五七一
	佛國		七八、四五五		八三、九一三		七八、三六四
	伊太利		一、九一五		一、四二六		一、八五七
	佛國		三二、六二四		三八、六九八		三二、八三九
	伊太利		一三、六六九		一一、九九八		八、七四六
	英國		一一、六九八		一三、六四五		一五、五八二
綿天鵝絨及アラツシ製			一三、〇三八		一、六三七		五、六七〇
獨逸			八、二〇一		二、〇〇八		一、五八四
佛國			一、一九五		一、一五八		三、二〇八

（註、日本の順位、三十八ヶ國中致須國、獨逸、埃國に次ぎ、一九二三、二四、二五年第七位）

獨逸 佛國

（註、日本よりの輸入無し）

八、二〇一  
一、一九五

二、〇〇八  
一、一五八

一、五八四  
三、二〇八

五、肌衣下着類——本品中埃及に仕向けらるる重要なものは、絹製肌衣、綿縮製肌衣、洋服用シャツ等なり。

綿縮製肌衣の如きは、大正七年に於て二八九千打、九一七千圓に上りしが一時的現象に止まり爾來激減に激減を重ね、最近二ヶ年は殆ど杜絶し、絹製は大正十四年に一千圓に上りしのみ、洋服用シャツは大正十三年に四九三打、二千圓に上りしのみ、孰れも、最近は甚だ振はず。

埃及に於ける需給を見るに、絹製にありては、繻絆、シャツ等主要にして、佛製品大部分を占め伊太利品是に次ぐ。而して歐人若くは上流埃及人に主に使用せらるると云ふ。綿製亦、大体同様にして、ゼフキア又はポプリン製のシャツを主とす。而して本邦品は、共に、僅少なり。

肌衣下着類輸入額表

（單位 埃及磅）

絹製	日本	一九二五年	一〇、二二五	一九二四年	一〇、〇五七	一九二三年	五、八一八
	佛國		一二九		八〇		三五三
	伊太利		六、九五三		七、六七四		三、四〇七
	英國		一、六〇四		一、二三七		一、〇八三
	獨逸		三六八		四八二		三五七
綿製	日本		六一、九〇一		七八、五八一		七二、四七八

（註、日本の順位、十九ヶ國中、一九二三年第四位、一九二四年第六位、一九二五年第七位）

日本	六	二一	一三七
佛國	二一、六二九	二九五六七	一七、〇三〇
伊太利	一六、一二九	一九、六四一	二〇、一四九
英國	七、八八九	一一、四〇三	一三、八六二
致須國	六、一五六	八、一三九	八、二二二

(註、日本の順位、二十九ヶ國中一九二三年第十三位、一九二四年第十九位、一九二五年第二十三位)

六、レース、リボン、刺繡、其他裝飾物——本品に於ては、嘗て、トリミング大正九年に於て約一〇七千圓に達したるが、其後は殆ど埃及への輸出杜絶し、其他のものに於ても殆ど無く、而して、埃及に於ける需給状況を見るに、絹製にありては、天然絹製と、人絹製と相半し、共に佛國品を第一位とし、獨逸、伊太利、瑞西の競争盛にして、夫々多少の特長を有し、綿製にありては、佛國、英國、伊太利相角逐し、瑞西、獨逸、土耳其、致須國、埃國、印度、西班牙等は小額なり。綿製の埃及輸入額は一九二四年二三五千磅、一九二五年二一三千磅なり。而して佛國よりの輸入額は、五四、八三八磅なり。

絹レース、リボン、刺繡、裝飾絹輸入額 (單位千埃及磅)

佛國	純絹	一九二五年	一九二四年	一九二三年
	人絹	一九二五年	一九二四年	一九二三年
佛國	五三	六六	一三〇	一一〇
佛國	三七	二六	七四	六三

(註、日本(單位埃及磅)よりは、一九二三年一四〇、一九二四年五八、一九二五年五三の輸入ありたるのみ、順位は遙かに末席なり)

佛國	二二四	二三六	二四二
英國	五五	四八	四三
伊太利	五〇	五一	五二
瑞西	四九	四八	四七
獨逸	二二	四五	三八
獨逸	一三	一七	三二

(註、日本(單位埃及磅)よりは一九二三年六二、一九二四年二〇、一九二五年八の輸入ありしのみ、順位遙かに低し)

綿製靴用編物 一九二五年輸入額一〇、八五七埃及磅、主要供給國は白耳義、伊太利にして、日本よりの輸入無し。  
一九二四年以前は、綿製レース、リボン類中に含まる。

七、綿紋網——本品の埃及に於ける需要は、一般的ならず、上流家庭若くはホテル向なるも、需要額は相當あり。英國、佛國、伊太利、白耳義等の角逐市場にして、一九二六年十月に於ける相場は、普通物小賣六五比亞、或は巾二四〇種一米に付七比亞見當なり。輸入額は、一九二四年四一三萬米、一四六千磅、一九二五年四七八萬米、一五〇千磅、一九二六年四、〇八七千米、一一七千磅にして、一九二六年に於て、佛國は、一、〇五六千米、二三千磅程増加して二、三二五千米、六九千磅に上りたるが、右は佛貨下落に因るものと稱せらる。反之、英國は一、七二三千米、五四千磅程激減して、僅かに一、八一五千米、四五千磅に達したるに過ぎざりき。

尙、右米物以外に、基物による統計あるも、是に屬するものは、價額極めて僅少、一九二五年に於て一三三埃及磅に達したるのみ。

八、其他の絹綿製品——其他の絹綿製品中、主要なるもの、埃及輸入統計左の如し。(單位埃及磅)

	一九二五年	一九二四年	一九二三年
綿ラムア芯	四、六〇五	二、五〇三	三、二二二
(註、主要供給國は、獨逸、伊太利等にして、日本よりは一九二三年に七磅の輸入ありしも其後無し)			
綿天鵞絨及ブラッシ製品	二六、七九三	三〇、二一四	二〇、一五三
佛 國	一八、七四三	二二、〇二〇	一六、四一四
(註、日本よりの輸入無し)			
其他の綿製品	二八、三六一	三一、六二七	二五、〇五八
佛 國	一五、二五〇	二〇、三六〇	一一、五一〇
(註、日本よりの輸入一九二三年三〇磅、一九二四年二四磅、一九二五年一八九磅、順位遙かに低し)			
其他の絹製品	一六、二六九	二〇、八二九	二一、四三九
佛 國	八、三三一	一六、六七七	一一、四〇七
(註、日本よりの輸入は、一九二三年四四八磅、一九二四年一七五磅、一九二五年一五二磅、順位遙かに低し)			

九、モスリン——近年歓迎せらるるに至りたるモスリン製キモノは、純日本式の大柄模様にして、從來の變化に乏しき輸向模様たる高價なる絹製品、割高なる綿製品に比し、純日本式の柄合が其嗜好に投じたと、價格一枚小賣八圓乃至十圓なる等に基因すと稱せらる。又、モスリンは、反物としても本邦品の輸入を希望する向あり。一九二七年二月カイロ市場に於ける佛、英製品モスリン大柄模様上等品巾八十糎乃至一米の小賣値段二圓五十錢乃至四圓見當にて、相當賣行ありしと傳えらる。本邦品は、嘗て、大正七年二四九千碼、一八四千圓に上りたることあるも、以後漸減し、現在は殆ど杜絶せり。

### 六、生絲及屑絲

一、埃及への輸出大勢——埃及に輸出せらるる生絲の殆んど全部は玉糸なり。而して、生絲及屑絲の埃及への輸出は、大戰後に旺盛を呈したるが、戦後の不況以來、共に振はず、殊に生糸に於て極めて激甚なり。即ち、玉糸は、大正六年六八〇擔、三五四千圓、大正七年八七二擔、五〇四千圓の盛況を示したるも、其後は殆ど輸出杜絶し、屑絲は、大正六年七〇六擔、二〇四千圓に激増、其後一進一退なりしも、十年來殆ど杜絶したり。然れども、屑絲は、最近に至り復活し、恢復甚だ顯著なり。

二、埃及國內生産と輸入の大勢——埃及に於ける絹絲類及屑絲等の生産狀況は、不明なるも、輸入年額約四十萬埃及磅に達しつつあり。

三、輸入生絲及屑絲の種類——埃及本品輸入中、最も重要なものは、絹絲にして、輸入額の大半を占め、縫絲是に次ぎ、屑絲は極めて僅少なり。

四、本邦と主要供給國との角逐狀況——絹絲、縫絲、屑絹に於ける各國角逐狀況を見るに左の如し。

絹絲に於ける主要供給國は、一九二五年に於て、輸入額三七七、五二九埃及磅中、支那五割七分、伊太利四割二分を占め、本邦品は、英國、佛國、瑞西、獨逸等に次ぎ、僅かに百埃及磅に達したるに過ぎず。伊太利は、主として人絹絲なり。

縫絲に於ける主要供給國は、一九二五年に於て、輸入額三一、八一六埃及磅中、瑞西品最も多く、獨逸、佛國、英國、伊太利是に次ぎ、本邦品の輸入無かりき。

屑絲に於ける主要供給國は、一九二五年に於て、輸入額七、一八三埃及磅中、日本七割八分を占め、支那、伊太

利、佛國次に次ぐ。即ち、本邦品最も重要な勢力ありて、一九二六年には、埃及輸入額三、七一四埃及磅中、九割一分を占めたりき。

概して、支那品は、其の價格の低廉と、稍黄色を呈する色合の埃及人嗜好に適應するにより多く歡迎せらるゝなり。

埃及生絲及屑絹類輸入額

(單位數量百基、價額千埃及磅)

	一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
絹 絲	二、四〇二	二五九	三、四二四	三七八	二、五二二	三一〇
日 本	五・八	〇・七	〇・六	〇・一	五・二	〇・四
支 那	一、三〇三	一六九	一、三四二	二一四	一、一三二	一七二
伊 太 利	一、〇六五	八四	一、九八八	一五六	一、三四九	一三二
(註、日本の順位、十八ヶ國中、一九二三年第七位、一九二四年第十三位、一九二五年第五位)						
人絹糸	一、四九六	六四	一、四四七	六一		
(註、日本無し)						
絹縫絲	六六	一六	一九三	三二	二三九	三八
瑞 西	一八	五	五五	一〇	六〇	一一
佛 國	一六	四	三二	七	二六	五
英 國	一八	三	三五	五	三二	五
獨 逸	七	二	四二	七	四六	八
伊 太 利	六	一	二四	二	七〇	八
(註、日本よりは、一九二三年二基六磅、一九二五年七基一七磅の輸入ありたるのみ)						

人絹縫絲

一二六

伊 太 利

六八

一〇

瑞 西

二八

三

獨 逸

一一

一

(註、日本よりの輸入無し)

屑 絹

七一

日 本

六一

三

一三三

一〇三

六

七

七

七七

四四

二

四

七、葉 煙 草

五、需要狀況——絹絲は、ロジベイ其他學校手織工場等に於て、埃及人向服地、裏地、肩掛、鉢卷等に製織せられ、需要漸次増加の趨勢にあり。屑絲は、用途未だ詳ならず。

一、埃及への輸出大勢——本邦より埃及への葉煙草の輸出が相當の數量に達するに至れるは、大戰開始後のことに屬す。而して、戦後稍振はざりしが、最近俄に激増し、昭和元年に至り、埃及の煙草關稅改訂に、激減したるものなり。

即ち、埃及への葉煙草の輸出は、大正六年に於て、俄に激増し、二六五萬斤、五〇四千圓に上り、其額再び、激減し、大正九年來、殆んど杜絶したりしが、同十二年に至り、二、〇七一擔、一〇一千圓を以て復活し、重要な地位を占むるに至れるものなり。

二、埃及の輸入大勢と主要供給國——埃及に於ける煙草製造業は、第二章第三節の二に於て看取し得らるゝが如く、極めて重要なものなり。然るに、其の原料葉煙草は、殆ど是を輸入に俟つ。其の主要供給國は、支那、日本、

希臘、土耳其等にして、一九二四年に於ける千分比率は、支那二五九、希臘二四二、露國一一三、日本九六、土耳其八七、米國八一等なりしが、一九二五年に於ては、日本、支那等よりの輸入激増し、一九二六年に於ては、兩者遙かに著減するに至れり。

右は、第四章第一節の關稅の項に於て見るが如く、從來は煙草輸入稅率高率にして、従つて競争激しく、優良品は、輸入困難に、一般に下等品の需要あり、爲に安價なる土耳其、希臘品の輸入あるも、輕量に於ては、日本、支那等遙かに一利を有し、斯くして、一九二五年に於けるが如く、日本、支那品歡迎さるゝに至れるなり。然るに、最近に於ける埃及卷煙草の名聲の失墜は、實に、右日本、支那品等の如き粗惡原料の混入と、不良製造家の粗惡品生産による品質低落に基因するものなるを以て、今後、高價なるも良質の希臘、土耳其産品を中心として、名聲の恢復を期すべき手段と目せられ、關稅增收の目的名稱の下に、無條約國よりの輸入關稅を二割方引上、一九二六年三月七日より實施したるにあり。

葉煙草輸入額

(單位數量千基、價額千埃及磅)

總額	一九二六年		一九二五年		一九二四年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
支那	一、一一三	七、〇五八	一、二七一	六、九〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇
日本	六二二	二、二六二	三三九	二、三二〇	四六一	四六一
希臘	三、〇〇七	一、二八八	一五五	九一九	一七二	一七二
土耳其	一、六四三	一、九〇四	二八六	二、一二〇	四三〇	四三〇
露西亞		二七三	二七三	二七三	四六五	一五五

各國葉煙草cif亞港平均値

(一基に付ピアストル)

露西亞	六七六	一三五	七六五	二〇二
日本	一六			
支那	一七・五			
希臘	一九			
土耳其	二一			
露西亞	二二			

八、貝鈕、鈕

一、埃及への輸出大勢——貝鈕の埃及への輸出は、明治四十一年に於て、既に、一三三千哥、一四千圓に達し居れるものにして、歐洲大戰中、發展極めて遅々たりしが、戦後次第に増大したるものなり。

二、埃及の輸入——埃及に於ては、殆ど鈕工業の存在無し。従つて殊に莫大小襦衣の製造盛になれる最近に於ては、既に其の態を成せる既製衣服製造業と相俟つて、需要増大せる鈕は、殆ど是を輸入に俟つ。主要供給國は、佛國、白耳義、獨逸、英國、日本、致須國等なり。

三、埃及市場に於ける本邦品——本邦品は、一九二六年に於て、埃及輸入總額の一割八分弱に該當す。本邦品は高瀬貝、ドブ貝、螺蝶等を原料とし、大半莫大小鈕にして、普通品、安物を主とし、ファッション物は、極めて少量なり。佛國品は、品質及仕上に於て、日本品より優秀なり。

埃及各種鈕輸入額

(單位埃及磅)



總額	一九二五年	一九二四年	一九二三年
佛國	三四、五七三	二七、八三六	二七、七二六
致須國	八、六二四	六、六〇五	四、六四〇
日本	七、三九六	三、八〇四	二、四三二
伊太利	五、八四〇	四、七一六	四、三五八
	五、二七二	五、二一九	八、五九二

九、珫瑯鐵器

一、埃及への輸出大勢——珫瑯鐵器の埃及への輸出は、大戰直後より股振を極むるに至れるものにして、從來は、其他の鐵製品甚だ大なりき。即ち、大正七年に於ては、珫瑯鐵器二三千圓に對し、其他の鐵製品二五九千圓なりしが、同八年には、珫瑯鐵器二九五千圓、同九年には五六五千圓にして、其他は六三千圓、八四千圓に減退し、同十年には、珫瑯鐵器も激減したるが、同十一年には、一九七千圓に恢復し、以後半減に半減を重ね、最近再び、重要性を示すに至れり。

二、埃及の需要及主要供給國——埃及に於て需要せらるる珫瑯鐵器は、小鉢、スープ皿、洗面器、庖厨用具、玩具等あり、小鉢は、埃及輸入業者間には *White Bedon* と稱せらるるも、實は埃及農民の日常不可欠の食器に使用せらるるものにして、需要頗る多額に上り、首都カイロを中心として、到る處の家庭用品販賣店、陶器硝子店、雜貨店又は行商等により盛に販賣せられ、賣行良好にて、今後益々需要増加の傾向あり。

是等珫瑯鐵器の主要供給國は、日本、獨逸、致須國、埃國等なり。

致須國品、埃國品は、家庭用品全てに亘り、品質稍獨逸に劣るも、値安にて、獨逸品よりも需要大なるものゝ如し。

埃及珫瑯鐵器輸入額

(單位 埃及磅)

總額	一九二五年	一九二四年	一九二三年
日本	一一〇、二二三	一三三、九八二	八四、九七二
致須國	一六、〇三二	五、七三二	一四、九五二
獨逸	四三、〇四九	四六、八六五	一六、八三四
埃國	二二、〇九三	五〇、〇〇六	三七、二〇五
	一九、九三三	二一、六〇五	七、六〇七

三、埃及市場に於ける本邦品——埃及に輸入せらるる本邦品珫瑯鐵器は一九二〇年三千埃及磅、一九二二年一千埃及磅、一九二二年二千埃及磅、一九二三年一千四百埃及磅、一九二四年五千埃及磅に上れるが、其の大半は、小鉢にして、本品に於ては、本邦品は、獨逸、致須國、埃國等の競争品に比し稍優勢の地位を占め居るも、其他の商品に於ては、品質、價格に於て到底追従し能はざる狀況なり。

本邦品小鉢は、一八及二〇種大の洗面器形模様付にして珫瑯の熔着厚薄により一等、二等の區別あり。本邦製一等品は、珫瑯熔着厚く、獨逸、致須國品に比し遜色無きも、二等品は地金を見透し得る程に珫瑯熔着薄く、甚だ粗悪品なり。一等品には商標、二等品には赤標の検査標を貼付し、又日本製の商標、輸入業者の商標、又は販賣業者の商標等を貼付して品質の可否を證明すれども、一等品最も賣行良好に、二等品は内地農家に歡迎せらるるものゝ如

し。本邦製二等品は往々粗製品宣傳に利用せらるゝこと多しと云ふ。一九二六年二月現在の二組小賣値段は、一八種一・五比亞、二〇種二比亞、卸値一八種一打、二〇種一打組合せ二七比亞見當なりと云ふ。

#### 十、其他の金屬製品

埃及への輸出大勢——珪瑠鐵器以外の金屬製品として、埃及に輸出せられたる重要な商品は、孰れも、現在に於ては甚だ振はざるも、銅、亜鉛、眞鍮及青銅、絶縁電線等ありたり。

銅(塊及錠)は、明治四十一年當時に於ては、最も重要なりし埃及向輸出品にして、四・二千擔、一三九千圓に上り、大正年間に入りても、戦前は五・五千擔、一二萬圓内外に、大正三年には、約三倍増を示し、同四、五年杜絶せしも、同六年には、二六・八千擔、二、〇二七千圓、同七年には、二二千擔、一、五七二千圓に上れり。然れ共、其後は、全く杜絶したり。

亜鉛(塊及錠)は、大正六年八千擔、二五六千圓、大正七年一一千擔、五四一千圓に上りしも、其前後は殆ど無し。

眞鍮及青銅は、大正六年四〇三千圓、同七年には五九一千圓に激増したるが、次第に激減を重ね、同十年以後は、殆ど杜絶したり。

絶縁電線は、大正七年九一三擔、一〇六千圓に上りしが、次年には、二〇九擔、同九年には、三三一擔にして、同十年以後は、價額一萬圓にも満たざるに至れり。

#### 十一、陶磁器

一、埃及への輸出大勢——陶磁器の埃及への輸出は、明治三十年に於て、既に二五千圓に上れるも、其後進展

遅々として振はざりしが、大正七年に至り、二四二千圓に上れるを端として、増加し、大正九年には、一、〇三二千圓に上るに至れり。然れ共同十年の激減に、一進一退の趨勢を以て振はず、稍衰退の傾向あり。

二、埃及の需要、生産、輸入の概況——埃及に於ては、珈琲茶碗(碗皿)、花瓶、置物其他各種陶磁器の需要あり。殊に珈琲茶碗の需要は、次目硝子及同製品の第六項(二六頁)に於て見るが如く、最も普遍的なり。

埃及に於ける生産は、殆ど絶無と認めて可なるべし。

従つて、陶磁器は、外國の供給に俟つ。一九二六年に於て、輸入額一四七、五九二埃及磅に達したり。

三、主要供給國——埃及輸入陶磁器の主要供給國は、一九二〇年頃に於ては、日本、英國、伊太利、獨逸、佛國、和爾等、其順位を以て最も重要な地位を占めたるが、爾來、本邦は英國と共に次第に衰退し、白耳義、致須國等進展して、今や、獨逸、伊太利、佛國、白耳義、致須國の順位に轉じ、本邦は、一九二四年に於て第六位に、埃及輸入總額に對する割合は、一九二〇年當時に於て二割四分に該當せるもの、一九二六年に於ては五分内外に激減したり。

獨逸品は、埃及輸入の約五割を占め、値高きも品質良好にて好評あり。更に最近は、小賣一錢見當の揚子入、花瓶、小型置物等に、獨逸品の廉價品現はれ、安物にして粗なる本邦品を更に脅威するに至れり。

佛國品は、安値の食卓用器を主とす。一九二五年輸入額五二、三四五埃及磅に達せり。

白耳義品は、優等の裝飾品比較的多く、タイル亦上等品にして、安物の粗製品は殆ど無し。

致須國品は、値安の茶器、勝手道具、洗面器等を主とし、其の繪付模様、形体等に從來屢々本邦の風景、美人模

様を附したる本邦品模造ありて、本邦品に對する脅威甚だし。埃國品は、其品質、値の關係に於て、殆ど致須國品に同じ。瑞西品は、ホテル向上等品を主とす。

埃及各種陶磁器輸入額

(單位 埃及磅)

	一九二五年	一九二四年	一九二三年
普通煉瓦	一九二五	一九二四	一九二三
屋根瓦	五、一七〇	三、九七八	三、四七五
佛 國	五、二三五	五、八九九	四、九二一
佛 國	四、九一二	五、七二九	四、三五七
伊 太 利	四三、三五五	三三、五一四	三一、四七四
管	一五、七二九	一一、五三二	一一、七七八
英 國	一五、一〇五	八、六〇六	一一、六四六
衛生陶器	八、六一九	三、〇四〇	五、一〇六
英 國	五一、二八五	四五、二〇四	四一、一五七
テラコッタ器	三四、九四八	三六、八〇五	三二、三〇〇
希 臘	一、三三六	二、〇七一	一、一二四
希臘	七二六	一、三八六	六九二
(註、以上六種とも、日本よりの輸入無し)			
其 他	二〇一、二三九	一九七、一四六	一七一、一一四
日 本	一七、六四五	一一、五一一	一一、六〇二
獨 逸	五二、三四五	六一、〇四五	五二、八二九
佛 國	二五、一八八	二二、五五七	一五、六七一

致 須 國	二四、六〇三	一九、〇三一	九、五五九
白 耳 義	二二、六八五	二〇、四七六	一八、五三一
伊 太 利	一五、八四一	二五、四〇五	一五、一九八
埃 國	一四、八五九	一一、三八四	九、三五五
瑞 西	一三、二九一	一一、二〇三	一一、四九六

四、本邦品に對する競争——埃及に輸入せらるる本邦品陶磁器は、所謂碗皿と稱せらるる珈琲用小茶碗の如き安物陶器を主とし、優良陶器、美術陶器は極めて僅小なり。

本邦品碗皿は、多く埃及農民に使用せられ、一部の安物は、又他に向け輸送せらるるものなるが、本品に於ける主要競争國は、獨逸、致須國等にして、呑口のふち滑かなるも、本邦品は否らず、柄又極端に過ぎ、品質上質ならず。唯、廉價の點に於て一部に需要せらるるもの、如し。故に、品質改善を取扱業者は希望し居れりと云ふ。

本邦品花瓶は、現今に於ては、偶々骨董屋に於て發見せらるるに過ぎずと稱せらる。而して、殆ど、其短距離による品質に對する信用上の利便の爲、佛、英の手を経て輸入せらると云ふ。

置物に就ては、丁抹品最も重要に、獨逸の巧妙なる模造品是に次ぎ、都會生活者の中流以上の者、歐人等に需要せらるるも、本邦品は、原型に於て技拙なる爲歓迎せられず。

概して、本邦品は、需要者に粗雑安物視せられ、致須國品は、其の良土、仕上、調合等に於て垢拔せる品物を以て、本邦品に摸し、本邦品の販路を次第に侵蝕しつつあり。

従つて、柄も本邦獨特の手描を以て、花模様、人物等も東洋的に、九谷、伊萬里等のものも、將來に對する一策

たるべしと當業者は稱し居れり。

尙、本邦品の品質は、日本陶器の品質を標準とすれば可ならむと。

## 十二、硝子及同製品

(本品に關する埃及需給狀況は、主として食器に就て概説す)

一、埃及への輸出大勢——硝子及同製品の埃及への輸出が、相當の數量に達するに至れるは、大戰後期以後に屬す。而して、各品中、最も重要なりしは、硝子珠玉及球なり、珠玉及球は、大正七年一一五千圓を以て、俄に重きをなし、爾來一進一退を重ねたるも、最近稍振はず。

二、埃及の生産と輸入の大勢——埃及内に於ける生産は(第二章第三節の二(七三頁參照))既述の如く幼稚にして、其製品粗悪、硝子食器としては、一個四、五錢の水呑コップ、二十錢内外の水瓶位にて、生産額も亦僅少に止まる。従つて、需要の大半は、是を輸入に俟つ。一九二五年に於て、各種硝子の輸入總額約四十三萬埃及磅に達せり。

三、輸入硝子の種類——一九二五年に於ける輸入硝子の種類を見るに、最も重要なるは、腕環、首飾、其他模造寶石類一二六千埃及磅、板硝子八二千埃及磅、食器七八千埃及磅、窓硝子六三千埃及磅、瓶三八千埃及磅、ラムプホヤ三一千埃及磅、鏡類五千埃及磅等なり。而して、一九二六年に於ては、硝子製腕輪及首飾は、九一千埃及磅に上れり。(次項統計參照)

四、主要供給國——輸入硝子の主要供給國は、白耳義、致須國、獨逸等にして、右三者のみを以て、大半を占め、

品質に於ても、白耳義品最も優良にして、佛國、獨逸、致須國、埃國、伊太利是に次ぐ。

白耳義品は、値に於ても本邦品より低廉なり。板硝子を主要とし、一九二五年鏡を含み六三、八六七埃及磅に達せり。

佛國品は、首飾、腕輪等を主とし、値亦低廉なり。

致須國品は、首飾、腕輪、模造珠玉等に於ては、斬新と低廉とを以て、日、獨品を壓倒し、市場を殆ど獨占す。

一九二五年七八、六四〇埃及磅に達せり。ラムプホヤに於ては、堅牢と安値とを以て、埃及輸入の大半を占め、窓硝子、燭、食卓用品等に於ては白耳義に次ぎ、堅牢、安値、變り物多きとに評判良し。

獨逸品は、小型鏡、首飾、腕輪、食卓用器等に於て、本邦品と競争しつゝあり。

以下、食器に就き、主要供給國、及右諸國製品の特長と、相場(一九二六年六月現在)とを記すに左の如し。

一、白耳義品 白耳義品は優良品として埃及に於ても最も良く歡迎せらる。數量に於ても品質に於ても一等に於て、薄地、白色透明、堅牢の特長あり。形と模様は常に優美にして、あまり珍奇のもの變體のものは見當らず。多くは三鞭酒用、葡萄酒用並に水呑用のコップ、水瓶の高級品なるが、並製水呑コップも亦輸入數量に於て第一を占む。三鞭酒、葡萄酒用コップ一打四圓五十錢より六圓、リキユール用三圓より四圓迄の品が賣行良好。普通水呑コップは一打九十錢より二圓迄が最も良く賣れ、七圓より十二、三圓迄の高級品もあり。然し相場は佛貨下落の爲め昨年よりも二割方の安値なり。

二、佛國品 輸入數量に於ては昨年の如きは白耳義の四分の一にも及ばず、獨、致よりも少數なるが、品質に

於ては第二位なり。白耳義品と同種のもの多し。三鞭酒、葡萄酒用コップ一打三圓五十錢より五圓、リキユール用コップ一打二圓五十錢より三圓迄、上等水香コップ一打二圓五十錢より六圓、並コップ八十錢より二圓五十錢のもの賣行良好、形、模様も亦殆んど白耳義品と同じ、唯、模様入り多く稍華美なる點が強きに過ぎるが如く思はる。

三、獨逸品 輸入數量大抵第二位を占め居るも品質値段は第三位なり。厚地のもの、變形のもの、切に直角のもの多し。種類の多き事は恐らく第一位なるべし。葡萄酒用コップ一打四圓内外、リキユール用コップ二圓より三圓、水香コップ上等一打四圓、並コップ一圓のもの賣行良し。此の外鹽入並アイスクリーム皿一打一圓五十錢より三圓、バタ又は砂糖入一個三十錢、ニツケル蓋又は皿付砂糖入一個五十錢、菓物皿又は小鉢一打一圓五十錢、三圓、四圓、十圓の厚地物、大皿厚地物一個一圓乃至二圓、水瓶(頸細、柄なし、蓋付)一個五十錢、一圓、二圓、コップ付水瓶一個八十錢、色模様付水瓶一圓、二圓、カスター二個組八十錢、四個組一圓五十錢、リキユール用セット色模様(コップ六個、リキユール瓶盆付)七圓位、ビールコップ半リットル入柄付變形厚地物一打五圓、以上の如き數種を取扱ふ店多し。一見して獨逸人が販路擴張に努力し居る跡を看取し得らる。

四、致須國品 輸入額に於て佛品と相匹敵し、種類に於ては殆んど獨逸品に似たれども、品質及價格は獨逸品に比して二、三割方低位のもの多し。獨逸の水瓶が柄なし、蓋付とするに反し、致須國品は柄付、蓋なしとするが如き、獨逸ビールコップが丸形にすれば致須國品のそれは角形に、獨逸品が切口を直角にすれば致須國品は丸味にすると云ふが如く、互に競争に苦心し居るものゝ如し。

五、伊國品 輸入價額、品質、種類等獨、致に次ぐの状況にあるも、概して獨、致模造品多く、品質稍劣等なるが如し。即ち地厚き物、白色稍不透明のもの多し。ヴェニス風とて上部が白色、下部が藍色と云ふ風なるが特色の様に思はるゝも、一部分の需要なり。斯の如き伊國品が相當優勢の位置にあるは、伊、埃取引容易にして地の利を得居ること大原因なり。

六、其他 硝子食器の主要供給國には、埃國、英國、和蘭、瑞西等をも算するを得べし。

埃及各種硝子類輸入額

(單位 埃及磅)

	一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
窓硝子(千ケース)	五九	六三、一五七	六七	七八、八三八	四六	五五、三五三
白耳義	五三	四七、六三五	六三	六八、六〇四	四三	四五、二三九
板硝子(鏡を含む)(ケース)	三、一一〇	八二、五五三	二、九三三	九二、〇九三	二、三九六	七二、九七六
白耳義	二、三二四	六三、八六七	二、六〇八	八一、二四五	二、〇三一	六一、九二八
(註、以上二種とも、本邦よりの輸入無し)						
小型鏡		四、九一四		五、二八二		二、六八五
日本		一、三二五		一、〇六一		四五〇
獨逸		二、七五七		二、七二一		一、五二七
ランプ火屋(千個)	八、五三九	三一、一九二	一〇、二七七	四三、一九〇	八、五七八	三七、八〇〇
日本	〇・四	一			〇・六	六
獨逸	三、〇二七	一〇、七九四	四、九五六	二一、二三五	五五〇七	二四、四六三

（註、主要供給國は獨逸以外に、致須國、埃國、其他等ありて、日本の順位遙かに低し）

日 本	三三、〇一八	二四、二二四
獨 逸	五六	一一三
日 本	一四、三三〇	八、六八六
獨 逸	一七、四六二	
（註、獨逸以外に、和蘭、英國、白耳義、佛國、致須國等主要供給國ありて、日本の順位遙かに低し）		
食 器	七八、一九八	六九、四三〇
日 本	二〇	三二
白 耳 義	三五、八七九	二一、三六六
獨 逸	一一、〇六五	一三、八五五
（註、其他致須國、佛國、伊太利等の主要供給國ありて、日本の順位遙かに低し）		
首飾、珠玉（模造寶石を含む）	一二六、三三二	一二八、七三六
日 本	一五、〇四九	一二、七五九
致 須 國	七八、六四三	七七、八一
獨 逸	一〇、八八六	一一、九五五
伊 太 利	八、九八三	一五、五三二
其他の硝子器	五九、九四九	六二、二八二
日 本	二四	二八
獨 逸	一六、四八五	一九、五四九
伊 太 利	一〇、九一九	一〇、九三三
（註、其他、致須國、佛國等主要供給國ありて、日本の順位遙かに低し）		
五、埃及輸入市場上に於ける本邦品——埃及輸入本邦品硝子類として、最も重要なるは、腕輪、首飾類にして、一九二五年一五千埃及磅を以て、埃及本邦品輸入總額の一分二に該當したるが、一九二六年には、五千埃及磅に		

減退し、割合亦五分内外に低下したり。右以外の商品としては、一九二五年の統計に見るに、小型鏡類一、三〇〇埃及磅、瓶五六磅、食器一〇磅等にして、従來は、食器、ラムプホヤ、瓶等の本邦品の輸入相當なりしも、價格の點に於て歐洲品との競争に萎縮したるものゝ如し。

概して、本邦品は、安値なるも、品質不良、破損率大に、包装不完全より起る損害率亦大に、従つて割高なりと稱せられ、是を食器に就て見るも、輸入本邦品食器は、水呑コップを主とするものなるが、本邦製水呑コップの世評は、耐久力無く、破損多く、呑口の圓形不揃にして水平ならず、底の厚味平均せず、不透明にして水洩様のもの多しとて、芳しからざるものあり。

故に本邦品の名聲恢復と、製造技術の研究と、價格の低廉策考究とは、本邦品の埃及輸入市場に於ける趨勢を左右する重要な鍵關なるものゝ如し。

六、硝子食器需要狀況——

一、水呑コップ 如何なる家庭に於ても半打や一打の水呑コップを使用するは明白の事なるも、埃及に於ては特に水呑コップの需要大なる理由二つあり。

（イ） 國內一般に普通トルコ・カフェーと稱せらるゝ一杯珈琲とて、一口にて呑み得らるゝ程度の小型陶器茶碗（日本製品も多し）に砂糖入煮立ての珈琲一杯を盛んに飲む。恰も日本にて來客あれば茶を呈するが如く、埃及にては來客あれば直ちに此の一杯珈琲を出す。其の時には必らず別にコップに清水一杯を入れ、此の珈琲に添へて出す事を習慣となす。然して家庭にても、事務所にても飲食店にても何處に於ても盛

んに飲まる。

(ロ) 夏期長く、空氣乾燥、沙漠の反熱等にて暑氣甚しき故に能く水ヲ呑む。レモナード、ビール其他の飲物も盛んに飲まるゝを以て、水呑コップの使用は他品よりも旺盛なり。故に輸入硝子食器の過半数は此の水呑コップと云ふも過言ならざるべし。水呑コップ並製百個に付き坡西土 *W. S. W.* 見當、此の小賣相場一打九ピアストル(約一圓)なり。昨年迄白耳義、佛國製品等凡て相場は佛貨建なりしも、佛貨下落して變動甚しき爲め英貨建取引となる。而して生産地相場大なる變化なきも、佛貨低落は當地向一般硝子製品に對しても一割五分乃至二割の下落起因となる。

二、高級硝子食器 毎年十一月より翌年三月迄は埃及好季節で世界各國よりのツーリストの來遊するもの數萬、之を迎ふる爲めの建築宏莊、設備完全なるホテルも數多く、カイロには一日五、六百人の團體を容易に引受けるホテルも四、五あり。此等のホテルにて使用する贅澤なる硝子食器例へばシャンパン用、葡萄酒用、利久酒用其他の飲物用コップ類、水瓶、カスター、果物皿、鹽入、砂糖入等の數も可なり大にして、從て破損も多く補充の數も亦多額なりと云ふ。

加之上流階級家庭用硝子食器亦近來相當額の需要増加しつゝありと云ふ。一組即ちシャンパン用、葡萄酒用、水又はビール用、リキユール用、水瓶等合計六十六個の組合せ價格七十圓内外又は五十個一組價格約二十五圓等の品は可なりの賣行あるものゝ如し。

三、安價の食器 埃及人は概して常に外出を好む。これは畢竟家屋の構造が暑氣甚しき爲に氣樂に家庭に居る

は甚だ不向にして、且又埃及男子は婦人小供と一緒に外出せず、婦人は家庭に引込み居るもの、外出する時は面裳を以て顔を掩ひ他人に其誰れなるかを知らしめず、或は婦人の文化程度頗る低級にて男子をして家庭に於て充分なる慰安を與へずと云ふ男子の手前味噌等も手傳ひて、家庭に居るよりは飲食店又は珈琲店に到りて例の珈琲、水、ビールを飲みつゝ談合又は賭事に時を送ることを好むによる。此の現象は中下級に於て最も多く、何れの飲食店も珈琲店も能く繁昌す。此の風は都會のみならず小都會、田舎町に至る迄盛なり。從つて此の方面に使用せらるゝ低級硝子食器も可なり大なり。加之埃及土人生活狀態順次向上するに連れ家庭日常品として先づ低廉なる瑠璃製皿、硝子コップが最初に使用増加せらるゝものと思はる。

四、嗜好 硝子食器に對して特に形體又は色彩などの好みあるにもあらず、大抵歐洲品を良きものなりとせるが如く、強いて一部分の嗜好とも云はば、埃及人は元來凡て其物全體が白色なるか、黒色なるか、赤色なるか、或は薄紫色か薄藍色なるか、柄模様では堅縞か、埃及古代模様かを好むも、硝子製品にはあまり適用せられず。花瓶又は室内裝飾用としてのコップにして花模様、風景人物の繪畫の表はしたるものもあるも、食器としてはリキユール酒用セット盆付で赤又黃の塗色したるもの位にて、賣行も良好ならずと云ふ。埃及上流階級にて埃及古代より使用したる土陶製コップの代用として硝子製コップを使用し始めたる當時は、硝子製水呑コップの縁を金塗にするか、又は何か金色の模様をつけしと云ふも、現今には實用には供され居らざるものゝ如し。

### 十三、罐詰及鰹詰魚類

一、埃及への輸出大勢——罐詰及塩詰食料品は、大正七年の二三四千圓より、漸増を辿り、大正九年には、二九四千圓に上りしが、以後殆ど杜絶するに至れるものにして、最近魚類のみ、僅かに其面影を存しつゝあり。

二、埃及の諸産業と輸入の関係——埃及には、食料品罐詰工業無し、最近、國産砂糖、果實を利用し、ジャム、チョコレート、シロップ等の製造カイロを中心として開始せられたるも、其數量大ならず。従つて、埃及需要罐詰詰輸入額は、魚類に於て年額約百五、六十萬圓、其他の食料品に於て、約三百萬圓に達す。而して、魚類は、其の三、四割は在留外人の需要にして、埃及人向としては鱒最も多く歓迎せらる。

三、近年輸入の種類——近年輸入せらるゝ魚類罐詰の主たるものは、次表の如し。

魚類罐詰詰輸入額

(單位埃及磅) (括弧内は一九二六年の概算單位千圓)

	一九二六年	一九二五年	一九二四年	主要輸入先
鮭	一一、八三三	一六、一九五	一四、八七六	英(五四)加(五五)米(二〇)
鱒及鯉(鮭の一種)	七八、九九五	一〇三、三八九	九八、六八〇	葡(七〇)佛(四九)諾(七)西(二五)(鱒の數字なり)
鮪、鯉	二四、八一三	二〇、一一五	一四、三九六	佛(六〇)西(五七)チユニス(四九)伊(二八)
鮭	一一、五二二	—	—	諾(二〇)英、
其他の魚類	七、九〇六	二四、八四〇	一五、〇二八	英、佛、諾、
計	一三六、〇六九	一六四、五三九	一四二、九八〇	

(註、鮭、一九二五—二四年は其他の魚類中(含まる))

四、本邦品の輸入——一九二〇年に於て、埃及輸入本邦品は、鮭約三萬圓、鱒二千五百圓、鯉一萬三千圓、其他魚類六千圓、煉乳六萬圓、ジャム類九百圓、野菜八百圓、計約十一萬三千圓位に上りしも、翌年より急激に減退し、

現今其姿を没したり。即ち、歐洲大戰中並直後に於て歐洲品埃及輸入杜絶の爲本邦品の代替的需要を喚起せられたるに過ぎざりしを以てなり。

五、各種罐詰詰魚類需要と相場——一九二七年三月現在、

- 鮭——大部分の原産地は加奈陀、取扱者は英國系多し。
- 1 英國モルトン會社 シルパンチ、正味四五三瓦入一罐 四十錢
  - 2 製造會社不明 サーチライト、同上
  - 3 シカゴ市エメリー、フード會社 ブロックデール 壹封度入 四十錢
  - 4 同 社 ハツビー、ヴニール 同 四十五錢
  - 5 晚香坡コロソピヤ社 アムブレム印 十五オンス半入 三十五錢
  - 6 同 マルチメ社 ロケーシヨン印 一封度入 四十錢
  - 7 市俄古市リビー社 アラスカ赤 八十錢
- 右の内、1最も多く取扱はる。

鱒——鱒と鯉の割合は約九對一の比なり。

- 1 葡國製「エレミタ」オリブ油製 五・トオンス入 二十錢
- 2 諾威製「ウエスト、エンド」 四・トオンス入 二十錢
- 3 葡國製「シーザー」 五 オンス入 二十錢



4 同	「ルージュー・ド・リスル」	五	オンス入	二十錢
5 同	「マゼラン」トマト漬	五	オンス入	二十五錢
6 同	「ローズ」オリブ油漬	五	オンス入	二十五錢
7 同	「アンドレー」	四	オンス入	二十錢
8 同	「タリスマン」	八	オンス入	四十錢
9 同	「メートル、オテル」	同		五十錢
10 佛國製	ダンデコ社品	七	オンス入	七十錢
11 同	ソビケ社品	同		七十錢
12 同	同(骨無し)	同		七十五錢
13 同	同	同		七十錢

右の内、1は安値なる爲埃及人に愛用せられ、評判最も良しと。佛國品は高價なる優良品多き爲、ホテル又は上流家庭用に供せられ、在留外人の需要多しと。

鯉——サンドウィッチ用として捏粉にせるもの、伊、英等より、小額の輸入あり、高價品なる爲一般に使用せられず。

1 英國製 A.I.	印嚙詰	二	オンス入	六十錢
2 伊國ルイギ製	美人印嚙詰	二・五	オンス入	四十錢

3 英國	クロス、エンド、ブラックヴェル製嚙詰	一	オンス入	三十五錢
4 同	(燻製粉)	同		二十五錢

鮪、鯉——

1 佛國	デンデコ社製品	百七十瓦入	一罐	五十錢
2 同	ケラデリ社製品	同		四十五錢
3 同	ソビケ社製品 (トマト入)	同		六十錢
4 モロッコ國	カセ、ロー印	小罐		二十錢

鯉——製造家又は取扱者の多くは英國系なり。

1 英國	モルトン會社製フレッシュ、ヘリング	一封度入		三十五錢
2 蘇格蘭	マーシャル社製乾ヘリング	同		四十五錢
3 英國	クロス、エンド、ブラックヴェル社品フレッシュ、ヘリング	同		五十錢
4 同	同	同		六十錢

其他——大部分は英國品なり。埃及人は、自國産生魚を好むも、嚙詰類の需要は在留外人に在り。需要大ならず。加奈陀産の英國モルトン會社品鯉印嚙詰正味半封度入一個小賣一圓三十錢、最近是に擬似する米國品現はれ一圓にて販賣し居るも賣行不良なりと云ふ。其他鯖鹽漬嚙詰佛國品約一封度入五十錢。蟹嚙詰は、取扱者見當らずと云ふ。

本邦品發展の見込——本邦品の取引現狀は、後記歐米品取引事情各項に於て見る如く孰れも及ばざるものあり。更に、品質形体、意匠に就ての研究不足、廣告宣傳皆無なり。然れば價格低廉、品質良好、意匠の改良等を計ると共に、取引方法を簡にし、責任ある取扱商を選定せば、本邦品の種類多岐なること、埃及人が東洋趣味なること等に於て、將來を期待せらるゝ妙からざるものあり。

十四、小麥粉

一、埃及への輸出大勢——小麥粉は、著しく一時的性質を帯ぶるものにして、大正七年八四五千擔、一〇、五四二千圓に上り、大正十四年に再び巨額の輸出を見たるも、其他に於ては、殆ど振はざるなり。  
二、埃及への主要供給國——埃及輸入小麥粉の主要供給國は、濠洲及米國にして、本邦品は、極めて僅小なり。

埃及小麥粉輸入額

(單位 數量百噸、價額千埃及磅)

總額	一九二六年		一九二五年	
	數量	價額	數量	價額
英國	一、九五六	三、一四四	一、九八六	三、四三五
濠洲	八三	一二七	七五	一二七
印度	一、二二八	一、八四四	一、一六七	二、〇三五
加奈陀	九四	一五三	一七四	三一
ブルガリア	五	九	一九	三四
支那	一三	二三	一三	二三
支那	x	x	一七	三〇

佛國	一六六	二四二	一五四	二五一
伊太利	八	一二	二七	四二
日本	—	—	一五	二七
羅馬尼	五三	八七	二	四
米國	四〇二	六四二	三二〇	五五〇

x、註、支那の一九二六年數量は六〇基、一埃及磅なり。

十五、其他の食料品

一、埃及への輸出大勢——其他の食料品にして、埃及に輸出せられたる重要商品は、變遷甚だしくして、戦前戦時中及大戰直後、其以後に於て、各々相異なる。

戦前に於て重要なりしものには、米、茶、蕃椒、等あり。米は、明治三十一年に於ては、八、六九五擔、三八千圓に上り、當時の最重要商品なりしが、以後殆ど杜絶するに至り、茶は、明治三十六年二七千圓に上りしが、同四十一年には七千圓に減退し、蕃椒は、明治三十六年一七千斤、一四千圓に上りしが、同四十一年には殆ど杜絶したり。右以外に於ては、明治三十一年、同三十六年、同四十一年の三ヶ年に於て、價額一萬圓を超えたる商品無し。

戦時中及大戰直後に於て重要なりしものには、豌豆、隠元豆、澱粉、精糖等あり。孰れも、大戰後期及同直後に、俄に擡頭したるものにして、豌豆は、大正六年四〇千擔、四八六千圓に上り、其後激減に激減を重ねしが、大正九年六千擔、八九千圓に激増して、以後殆ど杜絶し、隠元豆亦同じく、大正六年二四千擔、四二九千圓に上り、同七年の激減より、同八年には一八千擔、二五八千圓に恢復したるが、同九年には、一五千擔、二一九千圓に減退

すると共に、以後殆ど杜絶し、澱粉亦同例にて、大正六年五九千擔、七九四千圓に上りしが、同七年には半減し、而して同九年には、前年の殆ど杜絶より恢復して二六千擔、三五四千圓に達せしも、以後殆ど杜絶し、精糖は大正六年二六千擔、三一九千圓に上り、同七年には減退せしも、同八年には倍増し、同九年には二四八千擔、七、二七六千圓に激増したるが、同十年の激減以來、殆ど杜絶し、是と同じく、其他の砂糖及糖菓類も漸増して、大正九年には二、七〇二千圓に上りしも、其後、殆ど杜絶するに至れり。

而して、大戰直後に縮く、最近迄の重要商品としては、大正十四年に、巨額の輸出を見たる小麥粉以外には殆ど絶無なり。

### 十六、 燐 寸

一、埃及への輸出大勢——埃及への輸出燐寸は、歐洲大戰を背景とするものにして、即ち、大戰開始後、其額次第に増大し、更に、戦役に於ても、其漸増趨勢を改めず、斯くして、大正九年には、一、五二三千哥、一、五〇九千圓の未曾有の巨額に達したるものなるが、大正十年來、次第に衰退し、今や殆ど、埃及への輸出杜絶するに至れり。

二、埃及の生産、消費、輸入概況——埃及の燐寸工業は、カイロに工場あるも其の産額微々たり。故に、埃及消費燐寸の九割九分は輸入に俟つものなり。最近年額二十萬埃及磅内外にす。

三、主要供給國——過半は瑞典品、其他致須國、伊太利、白耳義、奥國等重要にして、日本は一九二〇年十五萬埃及磅ありしもの漸次減退し、一九二五年には、七、八千埃及磅、一九二六年には、一、七〇一埃及磅、埃及總輸入額の一分余に該當するのみ。本邦品は、品質、体裁悪く、安値のみが其の生命なりと。

### 埃及燐寸輸入額

(單位數量ケース、價額埃及磅)

	一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
總計	五四、〇二六	二四二、二九六	四六、四九三	二〇九、八四一	四〇、七五八	一八三、四九二
奧國	六、六八一	三〇、〇三四	一七〇	八四四	六三	二二四
白耳義	三、七二六	一九、〇九一	二、五四九	一三、〇七九	三、三一〇	一九、二九四
致須國	一一、〇八四	四六、四二〇	一八、五一二	八二、二六九	一三、四〇四	五八、〇四六
伊太利	七、五一八	一八、四五九	六、三〇七	一一、七九九	六、七九四	一四、〇〇五
日本	一、六一四	七、七六二	二、一六六	九、五一九	三、七三七	一八、〇九八
瑞典	二三、三四九	一一〇、一七二	一六、七六四	九二、二四一	一三、四二三	七三、七四五

四、輸入燐寸の種類——安全燐寸ト小形、ト大形、ト大形五百號、ト二百五十號、ト百二十五號、ト硫黃燐寸紙箱一箱百本乃至百三十五本入等なり。而して其の大半は、安全燐寸ボス型ト、ト等にして、市場に最も評判良く、需要極めて大なるは、瑞典製ランサー (Lancer)、致須國製キー (Key) 等、白耳義製サーチライト、瑞典製象印是に次ぎ、本邦品は缺印多し。

五、小賣値及卸値——小賣値を見るに、普通市場に於て、ランサーボス型、ト一包(十箱)五「ミリアム」、ト及ト型一包「ピアストル」、其他も、殆どランサーと同型同値なり。

次表輸入相場と右小賣値とを見るに、本邦品の取引は、取扱業者に取り甚だ有利なるべきも、近年減退の一路を辿るは、即ち、他國品に比し包装不良、レッテル不美、軸木弱く不揃等の欠點あるに因ると、取扱業者は云ふ。

一九二七年三月現在輸入相場

(單位ピアストル)

ランサー	+	壹箱	六、一五
キ	+	七、四〇	
キー	+	五、五〇	
サーチライト	+	六、五〇	
鉄印	+	五、三〇	
	+	五、〇〇	
	+	五、五〇	

十七、玩具及セルロイド製品

一、埃及への輸出大勢——玩具の埃及への輸出は、大戦後期及直後に於て、相當殷振を極めたるも、其前後は、甚だ振はず。即ち、戦前大正二年に於て、玩具の埃及への輸出は僅かに八千圓に過ぎざりしが、同七年には八千圓、同八年には九千圓、同十年には一七千圓に達したり。然れども、同十年には三〇千圓に減退し、最近三年に於て、稍恢復の兆あるを見るものなり。尙、セルロイド製櫛は、戦後俄に増加し、大正九年には、二六千哥、一七千圓に上りたるが、其後は殆ど輸出杜絶したり。

二、埃及輸入セルロイド製品主要供給國及本邦品に對する當業者の希望——埃及輸入セルロイド製品の主要供給國としては、本邦品最も重要な地位を占む。佛國品は、一九二五年には、佛貨下落に依り、其の輸入を促進せられたるが、品質は、本邦品よりも稍良質にして、實際の小賣値は、同一品に於て、本邦品よりも三割方高價に販賣せられ居れりと云ふ。獨逸品は、勢力次第に増進しつつあり、品質優等にして、四割方高價にて賣行良好なりと云

ふ。右の如く、佛、獨逸品は、其の優良なる品質と、地理的利便と、巧妙なる取引政策とに依り、單に、價格の低廉を以て、最優勢を維持する本邦品の販路を著々侵しつつあるを見るものなり。競争國としては、尙、致須國品を看過するを得ず。

本邦品に對する希望として、取扱業者は、最近其の改善の跡顯著なるも、尙、佛、獨逸品よりも低廉なるべき程度に於て、生地厚く頑丈にして、容易に破損する憂無き迄に研究し、更に、包装の改善、取引の改善等を研究すべしと稱し居れる由なり。其の具体的例證として、本邦製セルロイド人形五寸物と、獨逸製類似品とを比較するに、後者は、前者より約七割方高値にあるも、生地厚く頑丈にして、本邦品の如く、一見美麗なるも、生地極めて薄弱、容易に凹み、破損し易きものに非ず、本邦品は輕質量なるも、從價稅なる故關稅上利すること無し。故に、取物としての見込を製品の改善に利用すべしと。

埃及玩具輸入額

(單位埃及磅)

總計	一九二五年	一九二四年	一九二三年
佛國	七三、七〇六	七四、三八八	
獨逸	三三、二一〇	四一、二七七	
伊太利	二七、〇〇三	一八、五五三	
日本	五、三二六	五、三五九	
日	四、四九四	七四二	
英	三、八八七	三、七〇二	
埃國	二、六三三	一、九四一	

埃及セルロイド器輸入額

(單位同前)

總計	佛國	日本	獨逸	他國
一七、五八八	四、九三九	四、六五八	三、六二〇	二、五九四
一一、八九三	三、二二三	三、三四五	一、九一七	一、九三六
一〇、五〇三	二、四二四	三、三〇〇	三七二	二、〇六七

註、セルロイド製物は、第七章第二節二十三の九(二五三頁)参照。

十八、絲瓜

絲瓜の埃及への輸出は、從來の一〇萬圓を超えたること無きも、其輸出連綿として維持せられ、一方、埃及絲瓜輸入相手國としては、殆ど本邦あるのみなるを以て、極めて重要なるものなり。

其の用途は、詳細なる報告無きも、洗濯用、帽子芯用、靴底用に供せらるることを主とするものと稱せらる。

埃及絲瓜輸入額

(單位數量基、價額埃及磅)

總計	一九二五年	一九二四年	一九二三年
數量	一三、〇八九	二四、一七〇	一五、三五八
價額	三、三五一	四、三〇四	一、八三〇
日本	一二、〇六三	一七、一一〇	六、八二九
他國	三、二九六	四、〇三八	一、五四六

十九、花苳類

一、埃及への輸出大勢——本品の埃及への輸出は、從來余り大ならず。最近三ヶ年間の輸出統計左の如し。

花苳(連製)卷	昭和元年		大正十四年		大正十三年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
花苳(連製)卷	一五七	一	四二九	六	二二九	三
(單製)千枚	一七	七	五	三	三	二

二、需要と生産と輸入の概況——埃及農民の生活は、蓆の上に毛布を覆ふて睡眠す、又回教寺院内には、蓆を敷く。従つて此の方面より見るも、蓆の需要は極めて莫大なり。又事務所用廊下引用等の敷物、小型敷物、靴拭ひ等敷物の需要あり。近時在留歐人間にも、日除蓆に利用するもの多きを加ふるに至れり。

埃及の生産は、第二章第三節(六六頁参照)に見るが如く、埃及は蘆、葦の産出に富み、ザガジクを中心として各地に野草蓳製造盛にして、其等は、右土人用、回教寺院用、日除用に使用せらる。材料太過ぎ、技術幼稚に、品質又優良ならず。日除用には巾二米長五・六米蓆二枚に綴合せるものなるが、値段は白無地の外模様物もあるも、簡單なるもの多く、七十錢見當なりと云ふ。

斯の如き事情にあるを以て、輸入亦相當旺盛なり。

註、値段は、一九二七年七月現在、本款中以下同然。

三、主要供給國——主要供給國は、蘭印、トリポリ、日本、獨逸、伊太利、佛國、瑞西等にして、事務用、廊下引用に多く使用せらるるジュート製蓆は、蘭印産最も重要に、佛、獨、伊等よりは、ジュートを利用して色彩を施せる巾半米、長一米、若くは其以下の小型敷物、靴拭ひ等のもの多く輸入せられ、値段は小賣小型七、八十錢より四圓見當なり。

本邦品は、上等の蘭製マット少なく、野草蓆にして模様美なる巾一米乃至一米半位の長巻物多く、是れが適宜の長さに切賣せらる。本邦品は、埃及國産、他供給國よりの輸入品と品質を異にし居るを以て、將來あるべし。但し、最近、獨逸の模造品現はる。

埃及野草蓆輸入額

(單位 埃及磅)

總計	一九二六年	一九二五年	一九二四年	一九二三年
佛國	一六、七四九	二〇、八二二	一七、一八八	一五、九二〇
獨逸	八九一	一、二一四	八四一	八七五
伊太利	一、一六四	一、〇二七	四九七	三五八
日本	九七八	一、五六五	一、三二〇	一、一四七
日西	一、七五九	一、八九一	一、〇〇七	九〇一
瑞西	五四三	九六四	八二二	四四一
トリポリ	二、〇三三	三、一九五	一、二二七	七八
蘭領東洋殖民地	八、〇〇五	九、三一九	九、九九一	一〇、九九四

二十、漆器

一、埃及への輸出大勢——漆器の埃及への輸出は、明治年間に於て、他商品に比し、相當重要なものにして、即ち、明治三十一年には、約六千圓を以て、第七位、明治三十六年には、一七千圓を以て第六位を占め、明治四十一年に於ても、約九千圓に近かりしが、其後、他商品の逐日的隆盛に反し、甚だ振はず、現在に於ては、其額二、三千圓内外に過ぎざるに至れり。

二、埃及の需要趨勢及本邦品に對する競争品(統計は、本項末尾参照)——埃及に於ては漆器に對し未だ一般に趣味嗜好の念に乏しき爲めか、其の需要は極めて微々たるものにて漆器販賣は廣く認め難き状態なり。而して國內生産は殆んど見ることなく、日、支、佛、獨、致須等よりの輸入品を見ること多し。其の一般輸入漆器の種類は箱類、盆類、裝飾箆筒、卓子、掛棚又は傘柄等にして、佛、獨、致須等よりの輸入品に於ては日本の人物、風景、花鳥等を模寫して恰も日本製品の如く見せしむること多し。是れ漆器は日本又は支那の特産にして、即ち東洋産物として始めて價值あるべきを利用したるなり。漆器優良家具は東洋類似品又は此れが對照参考品として埃及に歡迎せらる。

埃及に於て日本漆器は數年前迄は相當其の特技を認められたるも、現今に於ては歐洲模造品は歐洲よりの輸入運賃低廉と取引至便の關係上、日本品を壓倒すること容易なるが如く觀察せらる。殊に日本漆器は價格低廉を期する爲め粗悪品を供する傾向があると輸出検査不充分、荷造不完全等によりて取扱商に損害を蒙らしめることありて、批難惡評を招き埃及輸入は漸く減退するが如き状況なり。而して一般漆器埃及輸入状況を見るに税關に於て漆器の名目に一括して取扱はず木製家具、木製器具、厚紙製品又は張子細工の一部として取扱ふを以て確然たる統計を知るに困難なり。故に前記三項目統計(統計表附録として別記す)中漆器の概算に付き漆器取扱業者の豫想を照合して過去三ヶ年間の埃及輸入額を計るに約四十萬圓にして其の中日本よりの輸入高は、埃及政府發表統計に於ては、約三萬五千圓なれども實際に於ては約十萬圓と見るを妥當とす。

現在埃及輸入漆器は一般に實用向を主とすれども、漆器は元來裝飾用として使用する場合多き部類に屬するものなれば、埃及現今の如く生活狀態の歐風化甚しく、歐風建築建造に旺盛なる時に於ては、新奇家具、什器類を要求

する埃及上流の家庭、又は歐人間に美術裝飾の家具什器として愛翫せらるるに至るは明にして、將來一般の需要は大に喚起せらるるものと観測す。本邦に於ても從來の實用向品に付き品質改良、輸出検査の吟味に一層の注意を拂ひ更に日本特有の優等品例へば屏風、戸棚、机、椅子等の高級家具を始めとし、蒔繪、平目地、藍胎、沈金彫等の美術漆器に於て、埃及方面の趣味嗜好に適合すべきものを輸出するに努め、一方漆器使用に關する適當の宣傳を行ひ、取引方法を簡便にし、埃及輸入取扱業者の増加する方法を講ぜんには、意外の本邦漆器需要を見るに至らんと豫想す。

三、埃及輸入本邦漆器の種類並使用狀況——現在埃及輸入本邦漆器は概して價格低廉の實用向のもの多く、其の種類大略左の如し。

(イ) 箱類 形は大、小、丸、角、長方形等種々あれども、其の主なるものは、手袋入、手巾入、針糸入、化粧粉入、寶石裝飾品入、菓子入、巻煙草入として使用する。

(ロ) 盆類 茶器又は珈琲器具に使用するものにして一尺五寸、一尺八寸、二尺の長方形物多く、繪畫模様は日本風景、人物、花鳥又は獸魚等にして銀塗又は朱塗の二種多し。

(ハ) 皿類 ペン皿最も多く灰皿、盃等あれども極めて少數なり。

(ニ) 小形箆笥 室内裝飾用家具、小型置物陳列用又は玩具等として使用せらる。

(ホ) 卓子 通常角形二段又は三段の一尺八寸物多く、銀塗又は朱塗にて意匠模様は簡單なる人物、風景、花鳥、又は獸魚を主なるものとす。茶器臺、花臺、煙草道具臺又は新聞雜誌臺として使用せられ、需要は相當多し。

(ヘ) 掛棚 形は大抵三角形にして一尺二寸、一尺五寸物多く、室内壁側に掛けて小形裝飾置物陳列用に供す。

(ト) 其他物立、傘柄等の小形物の外屏風、衝立、戸棚、机、椅子等の家具も輸入せられたるも、極めて少數なり。

以上數種の内箱類、盆類、卓子最も賣行良好にて、將來の需要も相當大なりと豫想す。

四、埃及輸入本邦漆器の主なるものの卸値段と小賣値段(一九二六年二月現在)——前項記載の販賣卸値段と小賣値段は、取扱店により差異甚しく又複雑にして適確に知るに困難なれども、大體は本邦に於ける仕入値段に日埃間運賃(漆器日埃間現行運賃四十才に付六十八志)、保険料、荷造及諸雜費の外埃及輸入税從價税八分を加へたるものを原價として卸値段は之に五分、又は一割の口錢を加へたるもの又二割乃至三割を加へたるものを小賣値段とするが標準値段なり。左に埃及に於て賣行良好の二、三種に付き本邦に於ける通常仕入値段を見るに次の如し。

(イ) 手袋箱 長方形、組二ツ、十一吋物、一組八十錢

(ロ) 手巾入箱 角形、組二ツ、七、八吋物、一組八十錢

(ハ) 卓子 一、角形、二段物、一尺八寸、銀塗、一個四圓

二、同 同 普通塗、同 一圓八十錢

三、同 三段物 同 銀塗 同 六圓五十錢

四、同 同 同 普通塗 同 二圓五十錢

(ニ) 煙草道具卓子 一尺物 普通塗 同 一圓三十錢

同附屬煙草入道具一組四個 同 一組一圓三十錢

(ホ) 掛棚(三角棚とも云ふ) 一尺 同 一個十六錢

一尺二寸 同 二十二錢

一尺五寸 同 三十錢

(ハ) 茶 盆 角形 一尺五寸 同 一圓

一尺八寸 同 一圓二十錢

同 二尺 同 一圓四十錢

而して埃及首府カイロ、亞港、坡西土等の都會に於ける東洋向雜貨店、菓子店、勸工場、百貨店等に於ては右仕入値段の倍額又は三倍の高値にて小賣せらるる状態にありて一般に高價過ぎる感あり。

五、本邦漆器に對する批評と希望——

(イ) 漆の臭氣除去の希望 本邦に於ては漆器本來の臭を賞美すれども埃及方面(外國一般に)に於ては、其の臭あるを餘り賞美せず、寧ろ此が爲めに嫌ふが如き有様にて、殊に安價なる一閑張に於ける漆の臭を喜ばざるなり。例へば本邦製一閑張等に付て萬一何等かの方法に於て漆の臭除去せられ、價格も相當低廉に製作せらるるならば、卷煙草百本入箱に代用する爲め多額を輸入せんと希望するものあり。元來埃及は卷煙草製造の技能に巧にして、國內消費多量、輸出旺盛なるは世間周知の事にして、其の容器は現在ブリキ製又は紙製最も多く、其數實に多額に上る。此の容器代用に漆器箱を以てせば可なり多額の需要を見るに至らん。現在百本入容器箱はブリキ製

又は厚紙製の左の大きさ物を通常とす。

角形 内側 4" X 5" X 1 1/2"

長方形 内側 5" X 2 1/2" X 1 1/2"

(ロ) 同上 菓子容器として使用する角箱は相當多額の需要ありて、本邦漆器箱の形體意匠は至極適合する様なれども、漆の臭ある場合は菓子類の如き食物容器として歓迎するもの漸次減少する如く思はる。該品取扱業者は漆の臭の除去法の研究を希望す。

(ハ) 新規意匠の希望 本邦漆器の意匠模様は本邦の人物、風景、花鳥の繪を特長とし、又是が本邦品たる價値あるに相違なれども埃及方面に於ける取扱業者中には、少くも埃及輸入漆器には埃及古代風を表はしたるものを希望するもの多くあり。現に佛、獨、致須國製の陶器に埃及古代風の繪を表はしたるもの賣行良好なる一例あり。要するに、意匠の變化を希望するものもある如く觀察す。

(ニ) 強固の製品希望 埃及の如く沙漠の熱を受けて暑氣常に甚しく空氣乾燥高き處に於ては、此れが爲め漆器毀損の場合多く取扱上困難を來すこと往々あり。故に此等の憂なき強固なる製品を作成すべきを希望するもの多し。

(ホ) 品質粗悪及輸出検査と荷造不完全の批難 本邦漆器は品質粗悪に傾き易く、又輸出検査不充分と荷造不完全等の理由によりて取扱業者の損害を蒙ること多く、此れが爲めに歐洲模造品に壓倒さるる憂なしとせず。例へば傘柄に付きて見るに本邦品は歐洲品に比して猶相當優良品を供給すべき可能あるにも不拘、價格低廉の爲め



に粗悪品を製造し、加之荷造不完全に因りて、荷物到着税關に於て検査の際、既に其の一分五分の破損品を見ることがありて、輸入業者の損害を蒙ること大なりとの非難あり。

要するに本邦漆器は、本来日本特有の製品なれば、佛、獨、致須等の模造品と競争して、埃及並埃及近隣諸國に對し將來も販路擴張の可能性を有すれども、前述の如く埃及方面の趣味嗜好に適合すべき技術上の改善、形體意匠の變化、輸出検査の吟味、荷造完全等に留意し、更らに實用向製品に止めず、優良美術漆器を輸出すべき宣傳方法の研究と佛、獨、致須、伊等との競争に打ち勝つべき簡便なる取引方法の講究に努力せざるに於ては、該品の埃及方面に對する發展は覺束なきものと觀測す。

埃及漆器關係輸入額

(單位 埃及磅)

木製家具	一九二五年	一九二四年	一九二三年
日本	二九三、六八四	二八六、九〇一	二三八、六六九
佛國	二一三	二三八	四七四
伊太利	一一八、一〇八	一一六、三〇八	六三、七七九
佛國	六〇、三六〇	五五、六三七	六七、二二五
獨逸	四一、四一九	四〇、三七三	三六、六四五
(註、右記以外、英國、致須國、獨逸の重要供給國あり。日本の順位は遙かに低し)			
其他の木製品(各種蛇腹スネッチを除く)	六三、九三六	五七、二九五	五五、二八一
日本	二、〇九〇	六四	五〇
伊太利	一七、九三四	一六、一〇七	一四、〇三九
佛國	一五、三五六	一四、五九一	一〇、八八二

獨逸

八、九五六

一〇、三六〇

一四、四六四

(註、日本の順位は遙かに低きも、一九二五年激増の結果、右諸國以外の英國、獨逸、ユーゴスラヴィア、濠洲等の主要供給國に次ぎて第八位を占めるに至れり)

厚紙又は張紙細工品

二八、三九一

三五、〇〇七

三七、五四〇

日本

一七

八

六八

英國

七、七九六

九、八六一

一六、九五三

佛國

六、五一五

六、四五二

六、一八四

伊太利

五、八六八

二、一六九

一、九五五

瑞典

二、一八二

四、一八五

一、七二一

(註、日本の順位は、右以外に瑞西、白耳義、獨逸其他等の主要供給國ありて遙かに低し)

二十一、 刷子

一、埃及への輸出大勢——刷子の埃及への輸出は、從來極めて微々たるものにして、且、殆ど齒用刷子に限らる。最近の輸出額を見るに、大正十三年二九七千圓、大正十四年五七七千圓、昭和元年六一千圓に満たす。

二、埃及の生産、輸入の概況——埃及に於ては、殆ど此種工業存在せず。従つて、需要大なる刷子類は、全て是を輸入に仰ぎつつあり。

刷子類の主要供給國は、佛國、伊太利、英國、獨逸等にして、常に優勢なる地位を占め居れり。

需要刷子の主なる品種類は、齒刷子、化粧刷子(毛髮用、髮刈用)、衣服用刷子、靴刷子、ペンキ用刷子、馬匹用刷子、帚類等なり。

埃及各種刷子及帚類輸入額 (單位埃及磅)

品名	一九二六年	一九二五年	一九二四年	一九二三年
彩色用刷子	一九二六	一九二五	一九二四	一九二三
佛 國	一〇、四一三	一〇、〇五九	七、一三五	九、二三七
佛 國	四、一八八	三、七六四	二、六四二	三、八七五
(註、其他英、白、伊等主要供給國にして日本よりの輸入無し)				
其他刷子	一八、三〇三	一九、七一八	一八、〇二四	一六、四八九
日 本	未詳	六七一	九七	二
佛 國	五、七四〇	六、五二四	六、五五六	五、六五〇
英 國	二、九六三	三、八三七	三、一一二	三、七九七
獨 逸	二、四四〇	三、六一九	三、六二七	三、九五二
伊 太 利	二、六五一	二、八七九	二、七一	一、八二二
米 國	二、七三三	一、〇〇六	六五八	五二八
(註、一九二五年日本よりも重要な供給國のみを掲記せり)				
帚 類	一九、七七九	二四、七六〇	二一、七〇九	一九、六一七
伊 太 利	一八、一八九	二二、五一	二〇、三〇七	一八、六二九
(註、日本よりの輸入は一九二二年一九二三年一九二四年に上れるも、一九二三—二五年無し)				

三、本邦品——埃及に輸入せらるる本邦品は、齒刷子を主とす。價額甚だ微小なるも、英國、佛國、獨逸等より、取扱店のマークを附せる本邦品の再輸出多額に上り居れるが如く、小賣店等に於て、歐洲品と稱せらるる中に、歐洲に於ける取扱店名以外に、日本なる文字の刻せられ居るもの偶々發見せられ、又、日本なる文字無きも、本邦製品と認めらるるもの多しと云ふ。

故に、本邦品は、他國品に比し何等缺點無く、却つて優良なるものの如く、唯、一時、本邦品は病菌を含み危険なりとの悪評を蒙り、其影響より未だに脱し得ざるもの如し。

二十二、 除虫菊及同製品

一、埃及への輸出大勢——除虫菊及殺虫粉の埃及への輸出は、甚だ微々たるものなるが、昭年元年に於ては五一擔、五千圓余に激増したり。

二、埃及の需要狀況——埃及、蘇丹、近東バルカン地方には、蚊、蠅、蚤、南京蟲等の繁殖旺盛にして、除虫剤の需要極めて大なるものあり。

埃及に於ては、蚊除用に蚊網を多く使用し、蚊遺線香の使用僅少、却而蚊の被害後の回復薬として「キニーネ」の需要大なるものあり。

埃及人は一般に宗教的習慣よりしてか蠅の來集を意に介せず、殺除せずして、單に蠅叩にて追散す。蠅叩は、棕梠又は椰子の葉莖を原料とする五錢乃至十錢位の蠅鞭にして、象牙又は牛骨の柄ある馬毛製蠅鞭は、埃及の一名産なり。

然れども、在留外人は、蠅の殺除に苦心し、フリヨサンと稱する除虫剤、蠅取紙等を使用す。但し、最近の輸入に係る米國製のフリット油と稱する殺蠅薬は、約半リットル入壹罐一圓五十錢、散油器一個一圓と云ふ高價にて、又、本邦製蠅取器も高價なる點に於て余り歓迎せられず。

南京蟲に對しては、一般に除虫薬の需要大、除虫菊製粉末、最も多く是に使用せらる。

除虫菊製殺虫薬は、埃及内には其産無く、英、佛、伊、日等よりの輸入品にして、年額約十萬圓見當に達するもの如し。其の種類は、英國製のケーチング (Keating) 佛國製のコーベ (Coubert) 伊太利製のクリサンテナ (Crisantema) 日本製のカトール等にして、小賣値は小型丸罐一個二十五錢乃至四十錢、カトールは大三十五錢、小二十五錢なり。品質は日本品最良、唯、宣傳不足と、他國品に比し高價なる爲とに因り、餘り歓迎せられざるも、次第に外國品の販路を侵蝕しつつあり。英國製は、本邦品に比し品質劣り、且、價格相當高きも、宣傳巧妙にて、賣行あり。伊、佛品は、廉價なるも効力少なくて賣行不良なりしと云ふ。伊國クリサンテナは、カトールに對抗上、一九二六年より、カトールの小型罐を擬製し、二三割安にて賣出せりと云ふ。

二十三、雜品

一、スリッパ——スリッパの埃及への輸出は、最近三ヶ年に於て、漸増趨勢を辿り居るものにして、昭和元年には一、一九七打、四千圓に達するに至れり。

埃及に仕向けらるる本邦品は、野草莖製ゴム底のものにして、小賣六十錢内外にて相當の賣行成績を挙げ居れるが、一九二七年春、偶々販賣せられたる京都製新柄スリッパは小賣一足一圓五十錢にて稍好評を博し得たるもの如し。右は、底が粗雜なる白フェルト、表が綿ポプリンの薄紫又は桃色無地、カバ―が綿西陣の赤色大柄、其縁が赤天鵞絨の純日本式室用のものにして、小賣値八、九十錢見當ならば將來有望なりと、同品を販賣せる雜貨店は稱し居れりと云ふ。

二、柳製家具——埃及に於て、本邦品の輸入四、五千圓ありと傳えらるるも、埃及内地の斯業相當發達し來れるを

以て、將來は懸念せられ居れり。尙、海峽殖民地産原料に依る製品を日本製の名を以て一組 (椅子四組、長椅子一組、卓子一組) 普通品二十圓、上等品五十圓内外、佛國産原料による優等製品は同一組五十圓乃至百圓内外にて販賣せられ居れりと稱せらる。

三、帽子——帽子の埃及への輸出は、昭和元年に於て、麥稈製七五打、模造バナマ製一〇打あり。埃及に於ては、亞刺比亞、トリポリ、チュニス、モロッコ、ソマリランド、ジュバランド地方に於て回教徒に一般に歓迎せらるるF E Z の黒線ある亦帽を日常使用す。此の帽子は、埃及に於ては上部は生産無く、埃國、致須國、佛國、獨逸等より主として輸入せられ、其數量も非常なる數に上り居れり。一九二五年致須國よりのタルブーシェ輸入額六五、九一五埃及磅なり。

埃及各種帽子輸入額

(單位埃及磅)

タルブーシェ(打)	一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
致須國	四二、二八五	六五、九一五	四四、一七二	六四、九〇八	四三、一七五	六二、五二八
(註、日本よりの輸入無し)						
麥稈帽子		二八、二二〇		三〇、四一一		三〇、五八三
日本		六八		一一八		三五
伊太利		一六、七五六		一八、五三九		二一、六六二
佛國		九、四五八		八、八二七		五、六九九

英國

一、一九七

二、二二七

二、七二八

(註、右以外の主要供給國數多ありて、日本の順位遙かに低し)

フェルト  
其他の帽子

六六、四七〇

六七、七五八

六一、三八六

致須國

三三、九〇一

三五、一六七

二七、七九八

伊太利

二一、二〇四

一九、一四四

二〇、三六八

英國

八、〇四一

九、四二一

九、〇一九

(註、日本よりの輸入一、二磅に過ぎず)

四、紙類——本品の埃及への輸出は、大正七年當時に於ては、板紙最も重要に、一三、五三三擔、二四〇千圓に上りしが、爾來甚だ振はず。最近に於ては、大正十四年に、煙草用紙一六五擔、七千圓、雁皮紙及薄葉紙一〇擔、一千圓余に上りたるのみ。

埃及に於ける需要状況としては、巻煙草用紙は、本邦品は値に於て歐洲品と競争する能はず。將來を屬目せられ居るは、縮紙のみなり。縮紙は埃及に於て、日本の特産品と目せられ、競争歐米品は、日本品の模造紙せられ居るものなるが、本邦品は現在、ナフキン用品と、無地各色の裝飾用縮紙が少量輸入せられ居るに過ぎず。加之、是等本邦品は、埃國、獨逸、佛國等の製品に比し、品質弱く、印刷不鮮明、色彩不良に、値は埃國品に比し約五割安なるも、評判、賣行共に不良なりと稱せらる。縮紙は、最近、埃及に於て、商店の飾窓の背景又は側面天井裝飾の花絞流旗用に使せられ、同用途向として花鳥獸類の繪模様、黑白、紅白、紅黒等の市松模様が、大柄に、派手に彩色せられ居るもの中二十吋一卷十呎の連續物歡迎せらる。又、花鳥類の模様は、小兒の切抜玩具ともなり、更

に、紙質強き故、祝祭、宴會等の假裝衣服、又は道化材料にも使用せられ、用途相當廣きものあり。一九二七年四月米國デニソン會社製品巾廿吋長十呎一卷物の小賣値一圓見當なりと云ふ。埃及需要の縮紙並同製品は、國産品皆無にして、全部輸入に仰ぎ居れり。

尙一九二五年埃及の埃國よりの輸入額(單位埃及磅)は、新聞紙以外の印刷料紙六六、七九〇、原紙六三、七八七なり。

埃及紙類輸入額及其主要仕入先

(單位、數量萬基、價額千埃及磅)

品名	一九二五年		一九二四年		重要仕入先
	數量	價額	數量	價額	
新聞紙	三七一	六二	二八九	四六	埃、伊、獨
其他印刷紙	四五八	一一八	三四三	八五	埃、獨
書簡紙、封筒	一六二	六七	一五七	六四	埃、獨
厚紙	八九七	一一五	七〇一	九二	獨、伊、和、埃
包紙	一、七二三	二二〇	一、一二〇	一五八	伊、獨、佛、和、埃
卷煙草用紙	五〇	五二	五七	六六	伊、佛
壁紙	一一	一三	一〇	一〇	佛、白、獨
紙(煙草箱用)	一〇〇	三七	六七	二五	獨、埃、白
其他紙類	—	四八	—	三八	英、獨、佛

五、竹製品——竹製品の埃及への輸出は、昭和元年に於て、行李、靴、籠等一千圓、其他四千圓に上り居れり。是等竹製品は、埃及に於ては、本邦品としては、稀に、玩具、小籠、ステッキ等を見るのみなりと傳えらるるも、

本邦品の特産品として埃及人は將來を矚目し居れり。然るに、近年埃及に輸入せられたる蓋付バスケット（一尺三寸×一尺位）及文化ナイフ、フォークに就て見るに、バスケットは内外共に虫生じ、黒褐色の小斑點全面に亘り、鐵釘の部分は錆に依り汚損し居りて、輸入商を痛く失望せしめたることあり。右は竹の中味を薄く削りて製せし部分の乾燥不充分なりし爲、運輸中に此の不体裁を呈するに至りしものならむも、製造業者又は輸出商の不注意による不良商品の一例なるべし。尙、同品の表面に、大きく無造作に貼付せられたる *Made in Japan* のレッテルが、大いに其の美觀を傷つけ居たりしと云ふ。

六、石鹼——埃及製産品は、内地一般需要を満すに足らず。年々五百萬圓内外の洗濯石鹼を、パレスティン、英、佛、和等より、五、六十萬圓の化粧石鹼を英、佛、獨、和、丁等より輸入し一個十五、六錢見當のもの最も賣行良行なり。

然るに、本邦品は殆ど戦後輸入杜絶せり。

埃及各種石鹼輸入額

(單位埃及磅)

洗滌石鹼 (千基)	一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
パレスティン	一一、一五七	五二二、八一八	一〇、七七七	四五六、五四五	九、五四三	三九五、二五七
英國	五、六三九	二七六、〇五九	四、三三九	二一〇、七〇五	四、二四八	二〇〇、八五六
佛國	二、二四五	九二、〇九七	二、六三一	一〇九、七〇〇	一、八一〇	八〇、〇三五
獨逸	二、〇七三	七〇、三八六	二、〇六九	七一、四〇四	一、八二四	五六、九三一

(註、日本よりの輸入無し)

化粧石鹼

日本	五二、二八二	五六、二七〇
英國	二一	一
獨逸	一四、九三五	一、九九六
佛國	一、九三六	一七、六九二

(註、英國以外佛國、和蘭、丁抹其他等を主要供給國とし、日本の順位遙かに低し)

七、麥酒——一九二五年に於ける埃及輸入麥酒中、最も好評あるものは、アムステルと稱する和蘭品なり。

本邦品は、歐洲大戰中、一時輸入せられたるも、戦後歐洲品に驅逐せられたり。品質に於て劣る無きも、値に於て歐洲品と競争不可能なりしが如し。

埃及麥酒輸入額

(單位千埃及磅)

樽入(千基)	一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
英國	四、二四五	八五	四、二七七	八三	三、七七〇	六九
獨逸	一、七五一	四二	一、五二六	三四	一、四〇三	二五
伊太利	一、〇一〇	一七	五三七	九	一七	〇・三
獨逸	六八六	一一	一、三一八	二三	一、四五三	二七
緩入(千打)	二八二	八九	三三七	一〇二	三二三	一〇八
獨逸	一四二	三九	二二四	五七	二二三	六一
和蘭	九六	二九	六二	二〇	四六	一六
英國	三二	一八	三七	二一	四六	二九

(註、日本よりの輸入は一九二二—五年皆無)

八、木材——埃及向輸出としての木材は、戦後殆ど杜絶したるが、明治四十一年當時に於て既に一〇九千圓に上り、鐵道枕木主たりしが、大正に入りて、鐵道枕木は次第に減じ大正三年には、三一千圓に止まり、其他の木材は漸次増加して、五三六千圓に上れり。然れども、其後は殆ど杜絶し、大正七年に至り復活、同九年には三八二千圓に達したるが、其後再び激減より杜絶に轉じたり。(第三章第四節の二、其他の項九二頁参照)

埃及各種木材輸入額

(單位、價額千埃及磅)

	一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
梲材松柏類 (千立方呎)	八一二	一、七九二	六九四	一、六二一	六二六	一、五三三
羅馬尼	三二九	七四四	二五二	五七三	二八三	六三一
芬蘭	三一二	五二九	二五四	四六九	一六二	三五五
瑞典	七七	二五六	九四	三二二	一一六	三五八
土耳其	四二	一〇四	四五	一一二	四〇	一〇八
板材(松柏類) (千立方呎)	七	二六	一一	四三	六	二〇
瑞典	七	二六	一一	四二	六	二〇
木材(其他) (千立方呎)	二三	一〇六	一六	八八	一八	一一二
(主要供給國、羅馬尼、土耳其、米國、ユーゴスラヴィア、印度等)						
原材(千基)	二、二〇一	一〇	二、二〇七	一一	一、五七一	八
(主要供給國、ブルガリア、土耳其、シリア等)						
(註、前記各種とも、日本よりの輸入無し)						

鐵道枕木(千箇)	七七九	二四八	一一七	四六	五五	一五
土耳其	七六九	二四五	一一三	四四	四五	一二
(註、日本よりの輸入は一九二二年三〇個、三一磅に上りたるも、其後無し)						
家具材 (立方呎)	一〇、四一三	六一	六、四三九	四三	九、五四五	七五
米國	九、六九八	五六	五、八六〇	三九	八、五七六	六七
家具材(千基)	六三八	一九	九九	四	六二	四
佛國	二二四	一一	五三	三	三二	二
齋(米噸)	九、一八九	一四	八、九一七	一三	九、五四一	一八
土耳其	六、九八一	一〇	六、六一二	一〇	七、〇三三	一二
箱板	一、〇六〇	三八	四、五二五	二八	八、三七〇	六七
佛國	六四六	一三	三、一四五	一六	三、二六一	一八
(註、前記五種とも日本よりの輸入無し)						

九、扇子其他小間物——埃及向輸出としての扇子は、明治三十一年當時は、一七〇個、約八千圓に上りしが、其後漸減し、現在に至る迄殆ど顯著なる發達を見ず。

埃及小間物輸入額

(單位埃及磅)

	一九二五年	一九二四年	一九二三年
總計	三九、二四三	二六、二三〇	二一、九四〇
佛國	一五、一二九	九、二五三	七、六八五
致須國	八、三三九	三、三三五	一、八六七
獨逸	五、二〇四	三、七三五	五、一七一

埃國	二、〇八一	二、七四四	二五四
英國	一、六三一	一、二九五	二、二七九
日本	一、一二七	七七六	一、三五八
註、屬子を含む			五七二

埃及各種輸入額

(單位同前)

總計	三二、四八一	三二、七三二	二四、七七二
佛國	二二、四四一	二二、九三一	一六、〇八三
日本	三、〇二四	二、〇二三	一、七七八
意大利	二、五八三	一、七八四	一、四二八
獨逸	二、四八六	二、〇一九	四、一六七
シリア	一、一三五	一、三二一	七九二

十、汽船——埃及向輸出として、汽船は、大正五、六年頃は、極めて重要な商品なりき。即ち、大正五年には、四五隻三、七六五千圓、大正六年三五隻、三、五五〇千圓に上りたり。然れども、此の現象は一時的たりしに過ぎざりき。而して、現今に於ける埃及への主要供給先は、佛國、英國、和蘭なり。

十一、椰子油——埃及向輸出として重要な時代は、大正八年にして、二、八三五擔、一〇萬圓に上りしが、是亦一時的現象に止まり。而して、埃及に於ける輸入額は、漸増の一路を辿りて、一九二五年には五、四七四千基、二五八千埃及磅に達し、主要供給國は錫蘭、佛國にして、日本よりの輸入は無し。

十二、香水及香油——埃及向輸出として、香水及香油は大正七年頃より激増して、大正九年には、一三一千圓に上りしが、其後振はず。埃及の香水、コスメチック等の輸入は、近年一路激増、一九二五年には一二九千埃及磅に達

せるが、主要供給國は佛國にして、日本よりの輸入は漸減し、一九二四年以後は杜絶したり。

十三、硫黄——埃及向輸出としての硫黄は、大正八年に、前年より増加して、三一千擔、一五九千圓に上りしが、一時的現象に終れり。尙埃及に於ける硫黄の需要は僅小にして、一九二五年に於て一、二二八千基、七二五埃及磅其の大半は伊太利よりの輸入なり。

十四、ラムプ及同部分品——埃及向輸出としての本品は、電球以外に於て、大正七年頃より激増して、大正九年には、一六三千圓に上りしが、其後は激減より殆ど杜絶に轉ぜり。尙、伊太利に於ける石油ラムプ、提灯、同部分品の輸入は、一九二五年に於て六四千埃及磅に上り、内獨逸の三〇千埃及磅、埃國の一八千埃及磅等を主要供給國となす。日本よりの輸入は、一九二一年に一、八三九磅に達せるが、一九二三年、二五年は輸入無く一九二四年は僅かに四磅のみ。

十五、革製靴、提囊、旅櫃、佩袋類——埃及向輸出としての本品は、大正八年に前年より倍増して、一〇八千圓に上りしが、次年の半減より、次第に一時的現象たりし色彩を濃厚ならしめたり。尙、埃及の輸入は、最近激増の趨勢を辿り一九二五年には一九、八九八埃及磅に達し、主要供給國は伊太利、英國、獨逸、佛國、埃國、米國等にして、日本よりの輸入は、一九二三—五年無し。

第三節 重要輸入品

一、棉花

一、本邦輸入の大勢——棉花は、全然、是を海外よりの供給に俟つ。

惟ふに、日露戦役を一轉機として、密接なる對支關係を作りたる本邦棉業は、明治四十二年に至りて、其輸出額は、外國綿布輸入額を超過し、更に、過般の歐洲大戰によりて、世界主要綿業國たる歐洲列國よりの供給杜絶に對し、喚起されたる一時的代替的需要に應じ、販路は、遠く、阿、南米に擴張せられ、技術は進歩し、設備は完備され、規模は増大せられて、單に、輸出貿易上より見るも、生絲に次ぐ一大重要輸出工業となり、其進展、激増に、顯著なるものあり。

此の故に、棉花の需要は、逐年増大し、昭和元年に於ける棉花輸入數量は、戦前に増加すること七割三分、大正十年に比するも、二割九分の増加を示し、未嘗有の巨額に達したり。

二、主要供給國——棉花の主要仕出先は、世界の主要棉花國たる英領印度、米國、支那、埃及等なり。而して、昭和元年に於ける、棉花輸入總數量に對する、各主要仕出先の參與百分率は、英領印度五〇、米國、三八・八、支那七・五、埃及二・九にして、戦前に於ては、印度五九・六、米國二五・七、埃及一・八五、支那〇・六四、大正十年に於ては、印度五〇・三、米國二九・八、支那六・四、埃及一・七なり。

三、埃及よりの輸入大勢——埃及棉の本邦に輸入せられたるは、他商品に比し極めて早く、日清戦役前後には、既に埃及棉の消費を見居るものにして、輸入額は、明治三十一年には一二千擔、同三十六年には五七千擔、同四十二年には九七千擔、大正二年には一二千擔、に上り、進展極めて顯著なるものあり。而して、大戰開始後は、漸減し、大正五年俄に増加し、一四五千擔に上りしも、再び激減の趨勢に戻り、戦後も一進一退、大正十年一五萬擔

への倍増も、大正十一年には、四萬擔に満たざりき。然れ共是を底として、其後は、著るしき増加率を以て、漸増の一路を辿り、斯くして、昭和元年の輸入數量は、戦前大正二年に増加すること一〇割六分、大正十年に増加すること七割、本邦棉花輸入貿易上に於ける埃及の地位、亦從つて、遙かに増進したり。

四、埃及輸出上に於ける日本の地位——

埃及棉花輸出額表

(單位數量千カンタル、價額千埃及磅)

總額	一九二六年		一九二五年		一九二四年		一九二三年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
英 國	六、八五	三、四、七二	六、四三	五、一、六〇	七、三五四	五、五五四	七、四七三	四、九、五二六
米 國	三、〇六	一、五、七四	二、七九	三、三、九三	三、四六九	三、四、四三	三、四七七	三、〇、〇二〇
佛 國	一、〇四	五、三〇一	一、〇九	八、一三三	八、九七	六、九五〇	一、〇、九	七、一、一三
伊 太 利	九二〇	四、六六六	八七四	七、一三三	一、〇、五	八、二四九	九七八	六、四、六九
獨 逸	四〇八	二、〇六六	四〇三	三、七三三	四七五	三、七三六	五二八	三、三、七〇
日 本	三〇九	一、五、六三	三七八	三、一、一〇	三九一	三、〇、四三	三〇八	一、九、五八
瑞 士	三〇三	一、五、四六	二七九	二、一、四四	一九二	一、四、七八	二八七	一、九、二二
瑞 西	二九〇	一、四、三七	三六三	二、三、四三	二九六	二、三、七九	二八一	一、八、四八
西 班 牙	一七二	八、五五	一四二	一、一、四	一八〇	一、四、二一	三三三	一、五、五
致 須 國	一三三	六、一一	二九	一、〇、五六	一四三	一、二、一七	二二	七、七八
平均輸入價額(カンタルに付弗三五、一五)			四〇、二〇		四三、	三六、九八	三三、	



五、需要狀況——輸入埃及棉は、殆ど全部繰綿にして、品種はサケラリジス最も多く、アシユモニーのアツバー及ミタアフキフキ是に次ぐ。埃及棉の格付は、エキストラ・ファイン、ファイン、グッド、フリー・グッド・フェア、グッド・フェア、フェア、ミッドリング・フェア、ミッドリング等に分たるが、本邦輸入埃及棉は、フリーグッド・フェアを標準とす。埃及棉に、黄褐色又は淡褐色のものと、白巴のものとの二種類あり。本邦輸入埃及棉は褐色を主とす。白色種は、纖維の長さ及太さ共に褐色種に劣る。

サケラリデイスは、米棉より褐色濃く、纖維は最長、最細光澤に富み、強力優秀にして、百番手以上の紡出には不可欠の原料にして、本邦に於ては、二十番手内外のものには印棉、四十番手内外のものには米棉を使用し、六十番手には、アシユモニーのアツバーもの、八十番手以上には、サケラリデイスを使用し、殊に、瓦斯糸八十番手以上は、埃及棉は絶体必須材料と稱せらる。従つて、莫大小用綿糸、カタン糸、シルケット用糸の紡出に、且、其光澤に富むを以て、絹綿交織用綿糸の紡出に供せらる。而して其の埃及棉使用六十番手もの、多くは、シルケットとして、輸出向に供せられ、莫大小是に次ぐ。而して、同番手以上は、多く内地向に供せらるゝと云ふ。

尚、白色のものは、三十番手乃至四十番手の紡出に適するに過ぎずと云ふ。

六、本邦綿業の趨勢と埃及棉——本邦綿業發展の最近の趨勢は、次第に、加工、細物等の高級綿業に、進みつゝあるを看取し得。

是が具体的例證を、輸出貿易上に求むるに、昭和元年に於ては、生地物（生金巾、生粗布、綾金巾及ジーンズ、綾木綿、天竺布、白木綿、綿帆布等）の輸出總數量は、大正三年に比し一九六%、大正十年に比し六三%の増加を示せるに、加工物の碼物（晒金巾、晒シーチング、綿繻子、紺金巾、綿ポプリン、色木綿、更紗、小倉織、綿ネル、綿縮等）の輸出總數量は、大正三年に比し一、五九三%、大正十年に比し三三〇%の増、同反物（縞木綿、紺木綿）の輸出總數量は、大正三年に比し九四五%、大正十年に比し九二%の増加を示し、生地物に比し、加工物は孰れも、其の輸出増加率、甚だ顯著なるものあり。尚、参考に、是を價額に見るも、昭和元年に於ける輸出總價額を大正十年の夫に比するに、生地物は、五一%の増加に過ぎざるに、加工物は二二九%の増加を示し居れり。是の現象の一端を示す著しき例は、綿繻子、金巾、細物綿糸の輸出増加なり。即ち、綿繻子にありては、昭和元年の輸出數量は、戦前大正二年に比し、一、六四九倍加、大正十年に比し三六・一倍加を示し、金巾にありては、生又は晒金巾と、生又は晒粗布との、大正十年に對する昭和元年の、輸出數量の増加比率は、後者が五一%なるに對し、前者は八四の増加を示し、又、嘗ては、粗布主たりしが、今や、金巾遙かに主となり、綿糸にありては、二十番手迄のものは、逐年輸出減を辿るに反し、同番手以上は、昭和元年に於て、戦前大正三年に比し一三二%、大正十年に比し六〇%余の増加を示し居れり。

是等、輸出上に於ける趨勢は、他面、外國市場の本邦品に對する需要の増減を考慮せざる可らざるも、金巾、綿糸の例に見る細物の輸出の比較的增加、綿繻子の例に見る加工物の輸出増加等、又概観したる加工物の輸出の比較的增加等に、本邦綿業の趨勢の一端を窺し得べきなり。

由是觀之、本邦綿業の將來と、特質を有する埃及棉とは、東阿棉と共に、益々其關係密接なるものあるなり。

二、 燐 礦 石

一、本邦輸入の大勢——燐礦石は、本邦領域内に於ても、ラサ島、三角島、南洋群島中のアンガウル島に於て、多額の産出あるも、燐酸肥料需要増加に、年々多額の輸入をなし、殊に最近は未曾有の輸移入高を示し、昭和元年には、五七萬英噸に達するに至れり。

二、主要供給國——燐礦石の主要仕出先は、太平洋島、木曜島、マカテヤ、アンガウル島、埃及、米國、北阿、ラサ島等にして、前四者は、高度品、殘餘は低度品なり。戦前に於ては、太平洋島、米國フロリダ、クリスマス島、ガフサ島等、主要仕出先にして、直前より、埃及サファが加入し來れるが、大戦開始後、遠方よりの輸入困難となり、太平洋島、クリスマス島、アンガウル、ラサ島産のみを以て、需要に應じたるが、就中、ラサ島産品は、最も多く移入せられたりき。而して、大戦後に於ては、埃及産、米國産品等の供給、次第に戦前に復し來れるところ、最近濠洲産ものは、牧場の牧草栽培用にて、輸向供給減と共に、値も割高となり、斯くして、昭和元年には、主要仕出先の順位は、米國フロリダ、埃及コシア、クリスマス島、ラサ島、アンガウル、マカテヤとなれり。米國フロリダ産品は、バルク積とせらるゝを以て、運賃割安となり、本邦への輸入繁榮を示すに至れるものとす。

三、埃及よりの輸入大勢——埃及よりの燐礦石が、本邦に輸入せられたるは、明治末期にして、大正元年には、一七四千擔、二四八千圓なりしが、爾來倍加して、大正三年には、八五七千擔、一、〇四四千圓に達するに至れり。然るに、大正四年約八割方激減して以來、輸入杜絶し、大正七年に至り復活し、同八年には殆ど恢復し、同九年には更に倍増して、六三九千擔、二、四二五千圓、の巨額に上りしも、同十年の激減、同十一年の五二八千擔、一、〇

四八千圓を最近の頂として、漸減し、昭和元年に至り輸出禁止を解かれて、俄に未曾有の巨額を示し外國産品としては、本邦輸入總數量の三割余に該當し、數量に於て、仕出先の第一位を占むるに至れり。其産出量の豊富なること、値安とにて、需要は益々増大すべし。

四、埃及輸出上に於ける日本の地位——埃及産燐礦石は、コシア産、サファガ産を主要とす、需要極めて多き歐洲に近接するも、此の方面に對しては、ガフサ、アルヂェリア、チュニス等の北阿産品に比し、蘇土運河の存在等地理的不利關係に因り、伊太利、西班牙等比較的重要なるも、運賃割高となりて、該方面は、販路として有利にあらず、従つて、埃及産品の最高の唯一顧客は日本なり。一九二六年に於て、其の輸出額の五割六分は、實に日本を相手國としたるもの、燐礦石の産額逐年漸増の趨勢にある今日、埃及燐礦石と日本とは極めて密接なる關係を有するものなり。

埃及燐礦石輸出額

(單位米噸)

總 額	一九二五年	一九二四年	一九二三年	一九二二年
新 西 蘭	六六、三五八	九五、〇四六	八四、四九八	一八、〇八四
伊 太 利	一〇、〇〇〇	一四、四七〇	—	—
日 本	六、三五〇	三一、〇九五	二七、八四〇	八、二八八
西 班 牙	二五、八五七	三四、一六〇	四〇、三〇五	四、〇六七
南 阿 聯 邦	六、二八九	八、四二四	六、二九九	—
	九、九一二	—	三、五五六	—

五、需要狀況——燐礦石は、過燐酸肥料製造用、工業用燐、製鐵所用等に供せらるゝも、肥料用最も大なり。燐

酸含有全量の多寡によりて、低度品と、高度品とに分つ。埃及産品は低度品なり。其製造せられたる過燐酸肥料は、其の高度品、又は低度品に因りたるかによりて、水溶性度を異にす。高度品と低度品と、孰れが需要大なるやは、從來の輸移入に於ては、大戦開始前後は低度品大なりしも、輸入困難に影響せられて、大正七年を除く大正十三年迄は、高度品稍大なりき。然るに大正十四年以後は、高度品一〇〇に對して、低度品一一四、一七九を示すに至れり。然れ共、其加水に慣れたる農民は、堅き慣習を形成するに至れるを以て、低度品、高度品孰れかに需要偏在すること、當分は無かる可し。唯、高度品は、運賃割安の關係もありて、比較的交通上不利なる地方に需要多し。

燐礦石は、礦物質肥料用として輸入せらるゝ、硫安、硝石、硫酸加里等に比し、其輸入數量に於て最も大に、輸入礦物質肥料總數量の過半を占む。大正十四年は、農産物安の關係上、過燐酸の需要抄々しからざりしも、昭和元年には、在荷不足、農産品市價昂騰、爲替利、運賃安等に、需要増、下半年に及び市況悪化し、生産を調節するに至れり。因に、大正十四年に於ける、内地過燐酸肥料生産操業割合は五割七分見當なりしと云ふ。

要之、埃及産燐礦石は、本邦需要狀況と、埃及輸出事情とに因りて、極めて密接なる關係にあり。

### 三、鹽

一、本邦輸入の大勢——鹽は、本邦に於て相當生産あるも、品質稍不良と、其産額が、寧ろ漸増の傾向を辿る需要を充たすに足らざると、價格極めて不廉なるとにより、年々多額の外國鹽を輸入す。最近の統計を見んに、内地産額は、大正年度の初期に於けると等しく、一千萬擔を超ゆるに至り、品質も、戦前に比し、四等鹽、五等鹽等の産額は著減し、二等鹽、三等鹽等の産額の激増を見、昭和元年に於ては、内地産額の八割六分余は三等鹽、一割四分

弱は二等鹽にして、其の改善顯著なるものあり。然れども、國內消費高は、最近益々漸増して、戦前一、一五二萬擔なりしもの、昭和元年には、一、三三七萬擔を示し、總て、一千四百萬擔に近からず趨勢を辿れり。鹽は、政府專賣に係はるも、尙、北海漁業、曹達工業用等に限り專賣局の許可を得て、民間は、自個輸入をなす。此の民間輸入鹽中、直接國外の漁場、例之、沿海洲及カムチャツカ方面に向けらるゝものにして、其數を、貿易統計面に計上せられざるもの尠からず。單に、内地稅關の假置場に陸揚せられ、漁期到來の節稅關を出づるものゝみにても、年約、一億三四千斤に達すと稱せらる。従つて、此等漁場の盛衰は、食鹽の輸入に、大なる影響を與ふるものなり。

二、主要供給國——鹽の主要仕出先は、外國としては、戦前には、關東州、英國なりしが、戦時中に、米國、支那、西班牙、埃及、英國、獨逸となれり。而して、鹽の品質より言へば、例を不純分物たる硫酸根の含有度に採れば、内地産は、最も多く、臺灣鹽、關東州鹽、青島鹽、是に次ぎ、西班牙鹽、埃及鹽は最も少なし。従つて、地理上の利と、價格の低廉とにより、青島鹽極めて多く輸入せられたるが、民間輸入のものに對し、品質不定、量目不足に對する、惡質又は水分混入問題、及支那政府專賣となりてより起りし稅金問題等にて、最近二、三年間、輸入を控へたる爲、青島鹽の輸入激減したるが、問題も解決し、且、青島鹽の購買優先權をも獲得したるにより、今後青島鹽の輸入最も旺盛を來すべし。即ち、政府は殖民地保護の見地より、臺灣鹽、關東州鹽、青島鹽等の購買量を同等になし居れるを以て、従つて、主要仕出先たる關東州、支那の順位は、民間輸入上左右さるるを以てなり。尙、英國、獨逸等より輸入せらるゝものは、精製鹽にして、食卓鹽なり。埃及、西班牙よりは、品質上、工業用鹽な

三、埃及よりの輸入大勢——埃及鹽の本邦に輸入せられたるは、大正八年以後にして、當時は三三二千擔、一、二三四千圓、同九年には、八九七千擔、二、七三〇千圓、に急増したるが、同十年には杜絶し、同十一年、三七九千擔、七三〇千圓の復活も、同十二年には六八千擔、七七千圓、に激減、爾來一進一退の趨勢を辿り、而して、昭和元年には、本邦輸入總數量の一割四分に該當し、順位第四位にあり。

四、埃及輸出上に於ける日本の地位——埃及の鹽輸出相手國としての日本の地位は、一九二六年に於て、埃及總輸出額の一割三分に該當す。

埃及工業塩輸出額

(單位、噸)

	一九二五年	一九二四年	一九二三年
總 額	二二一、〇三七	二〇九、九五八	一五七、二八六
印 度	一一二、〇七二	一四九、七〇八	七三、四〇六
海峽殖民地	二七、七五〇	二三、六七三	三〇、七八三
日 本	五三、〇八六	二九、九七二	四八、五六五
			三五、二〇五

五、需要狀況——鹽は、食料調味料として、一般工業の基礎たる曹達工業の原料として、不可欠の商品なると共に需要甚だ大なり。昭和元年に於ける鹽の内地消費高を見るに、漬物製造用四一五萬擔、醬油製造用三四九萬擔、味噌製造用二四五萬擔、麵類製造用二七萬擔、魚類鹽藏用九五萬擔、選種用、肥料用、家畜用、獸皮保存用、鑛業用、其他八四萬擔、化學工業用一七二萬擔にして、戦前に比し最近の趨勢は、漬物、醬油、味噌、麵類等の製造用

獸皮保存用、鑛業用、化學工業用等は孰れも増加し、殊に後二者は、最も顯著なる進展を示したり。但し、其他のものは、概して振はず、殊に魚類鹽藏用の如きは、内地に於ては、冷蔵設備完備し來れる爲、大正十一年以來、噸に四割六分の減退を示すに至れり。

輸入鹽は、主として醬油醸造用、撰種、肥料等の農業用、鑛業用、化學工業用等に使用せらる。而して、不純分物の作業を妨害する點より、化學工業用は殆ど輸入鹽なり。又、醬油醸造用も、其四割は、輸入鹽なり。

埃及鹽は、天日製にして、結晶稍大、不純分物の最も少なき點に於て、西班牙鹽と共に、工業鹽として珍重せらる。工業鹽は、曹達工業に供せらるゝものにして、電解曹達工業のみにて消費高年約五萬噸と稱せられ、化學工業用方面の消費は、戦前に比し、約三六割方の増進を示し居れり。現在、曹達工業者過剰にして、生産制限、價格協定等の恢復策も、頻りに破られ、稍、經營難に苦しみ居る觀あるも、該工業生産品の、利用範圍、近來益々擴張せられつゝある今日、埃及鹽の需要は、西班牙と共に、益々重要不可欠のものとなるに至るべし。

## 第八章 取引

## 第一節 概説

本邦品が、各國との競争激然なる埃及に於て、既に、地理的の不利を忍んで、其の販路の維持擴張發展を計らむには、元より、品質の改善、埃及嗜好の變遷、其他一般經濟事情の變遷等に對する注意、價格の低廉等を講ずることとは、當然の緊要事項なるも、取引上の改善も亦、大いに研究するの要あり。

日埃取引の現状は、僅少の例外を除き、本邦在留外商により取扱はる。今日の日埃貿易の盛大は、一は、此の在留外商の恩恵に俟つ頗る大なるものあり。所謂商館貿易に甘んずる理由は、地理的關係の不便、埃及取引先の信用状態不明、金融機關の不備、金融硬塞の苦痛より脱せんが爲なるべきも、然れ共、商館貿易の弊も亦看過するを得ず。殊に注意を要するは、本邦製造家が、埃及方面の事情に通曉せざるを奇貨とし、注文値段を極端に切下ぐる結果、粗製濫造を誘致し、延いては、本邦品の聲價を失墜せしめたることも無きにしもあらず。本邦品は、埃及に於ては、概して割高なりとの評あるも、右は粗悪なる品質に比較して稱せらるゝものにして、第一に計るべき品質の改善も、此の將來を計ること無き商館貿易により阻害せられ居ること尠からざるべし。但し、在留外商は、埃及に於ける輸入商と好連絡を有するを以て、是を除外して直接に取引を開始することも亦慎重なる考慮を要すべし。又、取引先の信用不明又は不安による信用狀の要求も勿論一考を要すべきことなるべし。希臘人、猶太人は、其商

業道德に欠くこと大なりと傳えらるゝを以て、殊に地理的遠隔の地にある本邦の取引商が、信用狀を要求するは當然なるも、一方に於て、埃及の商人には、本邦商を充分に信用せざるものもあり。前金又は信用狀を送らば、注文と相違する商品、又は注文せざる商品迄も荷爲替にて送ることありて、迷惑に堪えず、萬一信用の出来る商人又は製造者ならば、何時にても、信用狀を送付すべしと稱し居れり。

本邦商は、概して長期に亘る信用取引を肯せず。本邦に於て代金引換か、又は證券引換拂に取引の紛争の際、地理的遠隔の地にある本邦に取りては、是亦本邦の主要競争國たる歐洲諸國に比し、多大の不利上、不得已事なるべきも、歐洲諸國が概して信用取引を許容し、加之、從來保守的態度を固持せる英國商すらも、最近は、信用狀を要求せず、長期信用を許容するに至り、以て、其の商權の維持、擴張に努力す。本邦商の一考を要すべき事項の其一なり。

歐洲諸國は、其の埃及に於ける取引先を重じ、輸入商が小賣商に對し常に貸付取引をなし居る事情に鑑み輸入商に對して、信用取引を許容すると同時に、又、一市内に多數の取引者ある時は、同一商品に對しては、相異なる商標を付し、以て、取引者各自の競争を避けしめ、各自の發展を助長し居れり。

右は、單に、取引の系路及簡易の點より、概説したるものにして、右以外に、外國商は、地理的有利に加へて、在留同國人の多數なることの有利條件あるも、更に、埃及内に、支店、出張所、代理店を設置し、或は旅商、出張員を派遣し、或は小賣店、百貨店等を設置し、或は通信販賣を計り、或は新聞、ポスター等による文字宣傳、或は展覽會、見本市等による實物宣傳に努め、又、研究機關、情報機關を設置して、埃及市場の研究に怠らざるものあり。

本邦に於ては、二回に亘り、政府は埃及地方に對する旅商派遣を援助し、又、昭和二年末より、首都カイロ市に、日本商品館を、政府補助の下に設置活動せしむるに至りたるを以て、從來の保守的消極的態度より脱して、隔靴搔癢の感無く、積極的に取引上の改善を見るに至るべきも、當業者の取引上の改善に對する研究に俟つこと更に甚大なるものあり。

## 第二節 重要商業都市

- 一、カイロ市——一九二七年の統計に據るに、人口一、〇五九、八二四人、内、外人十萬人。阿弗利加第一の都會、埃及の首府にして、各國の公使、領事、商務官駐在す。埃及實業家の組織するカイロ市商業會議所、外人組織の商業會議所あり。株式取引所あり。金融機關としては、埃及の樞要銀行、外國系の樞要銀行數十あり。交通機關完備し、一ヶ年電鐵乘客數八、六〇〇萬人、自動車（一九二五年五月）八、七〇五臺、埃及商工業の中心地なり。
- 二、亞歷山都——人口五七〇、三一五人（一九二七年調査）、内、外人十五萬人。一公使、二十二ヶ國の領事、米國商務官、本邦總領事駐在す。埃及實業家組織の亞歷山商業會議所あり。又、埃及各地商業會議所聯合會の會頭は、右會議所の會頭にして、右の外、各種商業團體機關、外國の商業會議所あり。株式取引所に於ては、棉花定期取引賣買をも行なふ。棉花現物取引所は、別にミネテルバザールに設置せられ、農産物取引所を合併す。金融機關には、樞要銀行の支店、出張所あり、橫濱正金銀行出張所あり。一ヶ年電鐵乘客數五千萬人、自動車數（一九二五年五月）三、六六〇臺、埃及棉花市場の中心地、埃及卸市場の中心地なり。併せて地中海貿易商權を掌握す。

一九二七年初、亞歷山市長は、現在市債發行最高能力百萬埃及磅の増加を計る爲、當局の許可を得べく運動したり。是を必要とする計畫は、水道の新設、貧民住宅の建築、防波堤建造、マーモンダイエ運河堤防建造、公衆浴場の衛生設備費、市役所の建物、陳列所、劇場、圖書館、取引所ビル、其他の改善費等を擧げ、總額六一〇萬埃及磅に上れり。

三、坡西土——人口七五、五八三人（一九一七年調査）、内、外人一萬七千人、各國の名譽領事、領事、本邦領事駐在す。金融機關完備せり。一ヶ年電鐵乘客數百萬、自動車類（一九二五年五月）三百臺、カイロ、亞歷山貿易の仲繼所なり。

四、アッシュユート——カイロを距る三七八基、人口僅々五萬の小都會なるも、上埃及農産物の集散地、商工業の中心地なり。住民コプト人多く、希臘人相當の勢力を扶殖す。多くの雜貨店に、硝子製腕輪、ゴム風船、セルロイド人形、瑠璃ベージン、綿メリヤス襪衣、靴下、呉服屋には、絹手巾、絹肩掛、九龍、龍、三〇等の本邦品散見す。佛國の絹物、英國の毛織物、伊國の人絹物、獨逸の陶器と玩具、白耳義の硝子、致須國の陶器、首飾、腕輪等の雜貨の競争行はれ居れり。是等雜貨の仕入はカイロの百貨店、問屋等より、一ヶ月又は二ヶ月拂の條件にて、毎月集金旁々賣込に來ると云ふ。

## 第三節 埃及取引事情

埃及に於ける輸入商は、埃及人、印度人、シリア人、希臘人、伊太利人等にして、就中、希臘人、猶太人、シリ

ア人其の大半を占め、其の商勢亦大なり。是等輸入商には自個の計算に依りて見込輸入を主とする者と、大問屋にして直接輸入をなすものと、主として問屋、小賣商、製造家等を相手とする Commission Agents と、代理商との四種あり。多くは亞歴山又はカイロ市に本店を有し、英國には支店又は出張所を置き、歐洲各國には買入派遣員を時々出張せしめ、東洋には支店員又は代理者あり。概して直接輸入をなす大問屋はカイロ市に多く、他は亞歴山に多し。是等輸入商が、歐洲と取引を爲す時は、殆ど信用状を用ひず。右は、歐洲と埃及との距離近き爲に、取引の紛争生ぜる際は、歐洲より出張して解決を求むること容易なるが爲なり。而して、代金支拂條件は、小賣商に對する取引多く貸付なる爲に、通常荷受拂、三十日、六十日、九十日拂と長期を希望す、小規模の輸入業者に於て、是の傾向最も甚だし。伊太利商の如きは、掛賣をなし回収の爲の出張の際、同時に註文を受け居れり。而して、商況一度沈壓に傾くや、大量の在庫品を棄値を以て市場に投賣し、破産、支拂不可能等に陥るものあり。

取引建値は、歐洲物に對しては(一)亞歴山、東洋物に對しては(二)坡西土、又は亞歴山を要求するを通常とす。英國品が坡西土揚を運賃上利とするに拘はらず、亞歴山揚を改めざるは、此の事情に因るなるべし。(參照、第一章第十一節第一款海運の項三三頁)坡西土に陸揚せらるゝものは、バルカン地方へ輸送さるゝもの多し。利を見るに極めて機敏なる希臘人等は、相場の激變による損失は、直ちにバルカン地方へ轉嫁し居れり。綿布、莫大小類等は、常に、是に供せらるゝ主要商品なり。

右の如き、埃及に本據を有する輸入商以外に、一方に於ては、歐洲各國の製造家又は輸出商が、埃及に支店、出張所、代理店を設置し、或は、時季に應じ埃及内各地方に直接賣込の爲、人を派遣するもの尠からず。在留本邦商

としては、日本棉花出張所あるのみ、東洋棉花、江商の二社は代理店なり。

輸入商或は歐洲各地よりの直接賣込商より、小賣商の手に渡るには、現金にて大問屋に入り、次いで、現金にて小賣商に渡るものと、直接小賣商に向つて三十日又は六十日後決済にて渡るものとあり。又小賣商にて相當の資力を有するものにして直接輸入をなすもの尠からず。カイロ市問屋筋は、近來現金買の現金賣を堅く守るもの多きに至りしと云ふ。乍然内地地方に於ては、殆ど掛賣取引にて支拂期節も農家收入最好時即ち九月以後二月迄とす。

小賣商として看過し得ざるものは、外人系の大規模のものなり。英のダビス・ブリアン、佛のボン・マルシェ、ブラントン、ルーブル、ラファエツ等、其他セドナウエ、バラチ等は、巴里又は倫敦に本店を有し、相協力して埃及内地に小賣店を設置し主として自國生産品の輸入販賣に努力す。右の外、歐洲各地の小商人も來埃して、到る處に小賣店を設けて自國品の販賣に従事し居れり。

#### 第四節 本邦品取引事情

一、取引系路——本邦對埃及貿易の取引は、本邦在留の印度商人、亞刺比亞商人、又は伊太利商人の手によりて取引行はれ、歐洲大戰當時は、本邦商店も多數埃及方面に出張して、盛に本邦品輸入に努力したるが、戰後世界的不況の襲來と、歐洲經濟界の恢復とにより、我販路次第に英、佛、伊、獨等に蠶食せらるゝに及び、邦商の大部分は本國に引上げたり。

斯くして、最近は、神戸、大阪、横濱等に在留する外商即ち、L. D. Abraham & Co., Picotot Bro., & Co., Isaac

Ataki, Joseph Levy & Co., Ddwell & Co., Y. G. Guzal & Co., 等、及び、邦商としては、日本棉花株式會社、東洋棉花株式會社、江商株式會社、鈴木商店等によりて取扱はれ、埃及にある本邦商社は、在亞日本棉花株式會社出張所あるのみ。

右系路によりて取扱はれたる本邦商品は、坡西土、スエズ、亞歷山諸港に陸揚げせられ、直に首府カイロ市の輸出入業者、又は卸問屋に陸送せられて後、需要各地に配分せらるゝか、若くは前記三港に於て直に荷解せられ、各地に配分せらるゝものと、近東方面に再輸出、又は通過輸出せらるゝものとあれども、實際の輸入商取引は、前記本邦在留外商又は本邦大商社と、一方カイロ若くは亞港の輸入業者又は代理店との間に行はるゝを常とし、蘇土又は坡西土に於ては、殆ど商品の運轉事務を取扱ふのみ、本邦製造家又は前記邦商以外の本邦輸出業者は、埃及内地の商人と直接取引をなさざる状態なり。

二、代金決済——右の如き系路に於て行はるゝ取引は、従つて其の代金決済に於ても、本邦在留外商により、既に本邦に於て荷物引替に現金支拂濟となるもの多く、長期手形を使用するが如き信用取引は殆ど行なはれず。時に委託に依る着荷あるも極めて稀なる模様なり。

三、本邦品小賣狀況——絹製品、象牙細工、陶磁器、銅製置物等の美術品又は贅澤品は、東洋向雜貨商店に於て取扱はれ、埃及土人食卓用碗、皿等の瑠璃製品、安價なるメリヤス類、綿製品等は、埃及特有の小賣販賣方法たる露店又は荷車店等の行商的小賣商に取扱はる。

本邦品及外國品（多く英、佛、伊、獨等の商品）の、小賣店に於ける販賣政策を比較するに、外國品は、多くの

場合、店頭何れに於ても、値段表記の正札付にて販賣せらるゝに反し、本邦品は、正札付なること稀に、販賣所の異なる毎に同一商品にして販賣値段著しく相違し居れり。斯の如き現象は、本邦品の價格の不統一、外國商館任せの販賣政策等も一因なるべく、價格の統一、品質の改良統一、商品流行の變遷、嗜好の變遷等に對して一顧をも拂はざるが爲なるべし。

### 第五節 埃及に於ける各國の販賣政策

一、英國——英國商人の多くは、埃及政府事業の請負、在留英人を主たる相手とする事に努め、外商又は土商に對しての商取引稍保守的に、獨逸、佛國、伊太利、米國、白耳義等の商取引法の如く簡易ならざるの欠陥あるも、販賣機關としては、埃及各地に支店、出張所、小賣店を設置し、就中、ダビス、ブリアン等は日常品の小賣店として名聲あり。又、カイロ及亞歷山に於て有力なる新聞を發行して宣傳に努力し、研究及情報機關としては、カイロ及亞歷山に商業會議所ありて、協力す。

輓近、埃及貿易上に於ける英國の商勢稍衰退の傾向あるに鑑み、在埃英商は、其一是廣告宣傳法の改善、其二是協力の活動と情報機關の擁護なりとして、大いに挽回策に努むるに至れり。廣告宣傳法の改善とは、英國供給の主要商品たる機械類は、最近埃及の需要漸増せるに獨逸、白耳義、佛國等の競争あり、又電氣器具、鐵道材料、自動車、自轉車等に於ては米國の競争あり、孰れも右競争國は、廣告、宣傳法の極めて巧妙なるものあるに反し、英國品の宣傳は、家庭用品、一般日常品等に限られ、埃及向新聞、雜誌等の如き一般的なものには廣告宣傳の跡を見ず。



又、協力の活動と情報機關の擁護とは、在埃英商が、本國製造家と相呼應し、相協力し、情報機關を利用し、相互に販路維持と擴張に努力すべしと云ふにあり。尙、最近英國一流の自動車會社は、其の埃及に於ける代理店をして、賦拂方法を採用せしめたるが、需要者の大いに歓迎するところなりたり。又、一九二六年十一月に設立を見たる有名なる英國會社は、埃及の主要藥舗と合同を計畫し、一九二七年四月二日決定を見たるが、右は藥品の價格を低下せしめ、標準價格を定むるにありと。

二、伊太利——伊太利は、低廉品の製作、簡易取引、旅商又は出張員の派遣、新聞廣告、ポスター等による宣傳、埃及内に小賣販賣店設置等を以て、伊太利の商勢の維持、擴張に努力し居れり。

三、佛國——佛國は、其製品の低廉と、取引條件の便宜とを以て、現在の地位を獲得するに至れるものなるが、更に、埃及各重要都市に宏壯なる百貨店、専門小賣店等を多數設置し、其勢力極めて甚大なるものあり。ブランドン、ボンマルシェ、ラファエツト、ルーブル等の百貨店支店は、埃及に於ても有數なるものにして、價格表示、良く佛貨を以て足り居る狀況なり、又、右百貨店、其他の小賣店も、佛語、亞語併用の美麗なる型録を毎年冬夏二期發行、顧客に配布し、一方ポスター等を以て、廣告宣傳に努め、展覽會其他景品割増付等を以て、建築材料、家具、電燈具、自動車等の實物宣傳を實行し居れり。

四、獨逸——獨逸は、其製品の優良、堅牢、嶄新等を以て、値稍不廉なるも、埃及市場に、相當の商勢を張るものなり。其の販賣政策としては、旅商の派遣、銀行資力の巧妙なる利用による長期貸付又は割賦支拂等の支拂條件の便宜供給、通信販賣の廣告宣傳等に新規取引業者の吸引に努力し、又支店を埃及重要市場に設置す。シーメン

會社の如き其の最も尤なるものなり。

五、英領印度——英領印度は、地利的利便により、印度商の多數古くより埃及に在留し、相當の地盤を有す。在埃及印度人小賣商の數多きも、印度品のみならず、日本、支那、土耳其、南洋地方、波斯等の織物、陶器、雜貨を取扱ひ居れり。

六、白耳義——白耳義は、其の態度投資的にして、戰前より牢固たる地盤を有す。例之、カイロ、亞歷山の電鐵經營、埃及内唯一の砂糖工業、セメント工業の一大株主、其他諸工業に干與し、最近には、白耳義、埃及合同資本の下に、綿紡績會社を建設せんとの説あり。故に、是等工業用の諸機械、鐵材、電線、其他の諸材料等の必要品に於ては、白耳義製品は、有利なる地位にあり。又、優良雜貨品の販路擴張に努力す。

七、米國——米國は、埃及内に於ては、投資的態度を看取し得ず。其の主要輸出品たる機械類、自動車、礦油、燃料等に於ては、長期貸付の取引よりは、出張所、支店、代理店等を埃及内に設置し、常に現物を埃及内に在庫し、直ちに買手の需要に應じ得ることに努力し、化粧品、藥品、雜貨等に於ては、小賣業者に有利なる條件を賦與し、新聞、ポスター等に依る廣告宣傳を以て、小賣業者の販賣を助長せしめ、又、亞歷山保稅倉庫地帯に、自動車工場、某地帯に綿織物工場等の設置を計畫し、埃及政府に、工場地帯借地許可の交渉を進め居れり。

八、致須國——致須國は、販路の維持擴張策として、旅商或は出張員を派遣し、比較的長期の取引條件に應ずると共に、品質の改善、特長ある斬新、低廉品製産に努力す。

九、澳地利——澳地利は、歐洲大戰に因る疲弊未だ癒えざる爲、顯著なる發展政策を見ず。然れ共、大いに、埃

及との貿易發展に努力し、一九二六年には、代表者を派遣し、埃及市場を視察せしめたり。

### 第六節 重要本邦品の取引事情

#### 一、綿織物

一 輸入取引 綿織物輸入商は埃及人、印度人、シリア人、伊太利人、ギリシヤ人等にして就中猶太人其の大半を占め、希臘人と共に勢力大なり。而して此等の商人の多くは亞歷山都又はカイロ市に本店を有す。英國品買入の爲めには英國に支店又は出張所を置き、歐洲各國には買入派遣員を時々出張せしめ、東洋には支店員又は代理者あり。又一方歐洲各國の製造家又は輸出商が時季に應じ埃及内各地方に直接賣込の爲め人を派遣するものも亦尠からず。本邦商としては日本棉花出張所あるのみにて東洋棉花、江商の二社は代理者を有す。其他なし。輸入の中心地はカイロ及亞歷山なり。生地物に對しては毎日(三)坡西土の磅による相場を立つ。多くの場合カレンダー付を要求す。

概して、歐商は、支店、出張所、取引店を保護し居るを以て、取引店は他國品を取扱ふこと稀なり。従つて本邦品加工物を希望する者は小規模の輸入業者なる爲(一)を出し渋る。

取引建値は、歐洲は(二)亞歷山、東洋は(三)坡西土、又は亞歷山にして磅建値なり。

代金決済法は通常荷受拂又は三十日若しくは六十日拂とす。英國商は從來(一)ならざれば應せざりしも、近來は伊太利との競争の爲、(一)を要求せず、現金又は荷受後二十日六十日拂に應ずるものもあり。本邦商との代

金決済法は埃及に存在する邦商以外即ち前記亞港又はカイロ市輸入商が、神戸在留商に(一)を送り、此をして神戸に於て現金買取を行ひ之を當方面に送らしむるを通常とす。生地物は本邦品獨特にして、輸入業者亦現金取引を希望する故に(一)を發行するも、但し、其他のものには發行するを喜ばず。直接の取引は、L/C, D/P, 九十日後拂なり。

伊太利商は(一)を要求せず、全部掛賣にして九十日拂多く、隔月出張して掛金を回收すると同時に次期注文を受く。

取引の單位と荷造は其品種の異なるによりて相違あるは言を俟たず。綿絲又は綿布にても當市場に既に通り切りの Brand は一俵又は一梱の内容も通常一定せられて居り、見本も要せず。單に何々何俵と云ふ數を以て大量に取引せらるゝも捺染綿布、絲染綿布、其他綿製品に於けるが如く柄合、恰好等の常に流行に従ふて變化すべき物にありては一俵の内容も其の數量も隨意にして出來得る限り輸入商より小賣商の手に渡るに最も便利なる如くに取引せらるゝ様にて佛、伊、獨、白、瑞、西、致、埃等よりの輸入品の多くは内容數量一定せざる一俵又は一梱宛にても取扱はれ居る狀況なり。

商品マークは既に當方面市場に定評を受けたる粗布以外の綿織物例之縞リン、下級の雜綿布加工物に對し、大抵輸入商の商號、或は輸入商希望の特別マーク或は販賣店の商號及マークを附するを通常とし、其の千差萬別到底枚舉するを得ず。右の通り物無きに因る。近來粗布にても其他綿布並綿製品に於けるが如く成る可く斯規マークを歓迎すること盛なる狀況なり。英國商は、自個のマークを要求せず。一市に多數の取引人ある時は、

同品質のものに對し、異なるマークを附し居れり。

二、小賣取引 亞港又はカイロ市に於ける輸入商或は歐洲各地よりの直接賣込商によりて埃及に輸入せられたる綿織物が小賣商の手に渡るには、現金にて大問屋に入り、現金にて小賣商に渡るものと、直接小賣商に向つて三十日又は六十日後決済にて渡るものとあれども小賣商にて相當の資力あるものは直接輸入をなすもの尠からず。カイロ市問屋筋は近來現金買の現金賣を堅く守るもの多きに至りしと云ふ。乍然内地地方に於ては殆んど掛賣取引にて支拂期節も農家收入最好時即ち九月以後二月迄とす。

二、綿莫大小類——需要期節は、夏物に於ては四月より初まるを以て積出しは十二月、一月、二月、冬物に於ては十一月より始まるを以て、積出しは六月、七月、八月なり。

建値は、佛國を除く外は、C. 亞歷山にして、佛國は、工場渡なり。

支拂條件は、本邦商は「C」を要求す。獨逸商品及伊太利商品は九十日乃至百二十日後拂、其他も一般に六十日乃至九十日後拂なり。而して、集金の爲埃及に出張し居れり。英國商すら、從來は「C」を要求せしも、最近は六十日乃至九十日拂を許容するに至れり。

本邦品は、多く本邦在留外商より賣込。

尙、輸入者には、歐洲よりするものは、其地方に支店、代理店を置き、小規模の工場には、資金又は原料を貸付て仕入を安くし居るものもあり。

三、絹織物——本邦品は、代金決済に關し、荷受拂に應ぜず、然るに、佛國は荷受後六十日乃至九十日拂とし、

問屋に小賣業者に對する掛賣の余裕を與ふ。

四、貝鈕釦——貝鈕釦に於ては、本邦商中には、直接、埃及内の特定取引店と取引をなし、信用狀を要求すること無く D. P. 三十日に應じ居るものあり。

五、瑛瓏鐵器——埃及輸入取引慣習としては 18 $\frac{1}{2}$ in 一打 20 $\frac{1}{2}$ in 一打の平均價格を以て建値單位とし、一箱五十打 (18 $\frac{1}{2}$ in 二十五打、20 $\frac{1}{2}$ in 二十五打) 容積七才を取引單位とするを通常とす。

代金決済は致須國は六十日乃至九十日拂、獨逸は四五ヶ月拂手形を以て輸入業者又は問屋に賣込み、輸入業者又は問屋は之を小賣業者に長期貸付をなす、然るに日本は信用狀なくしては取引せず、本邦に於て代金引換か、又は證券引換拂によりて取引するもの多し。

六、陶磁器——陶磁器は、本邦品は、珈琲茶碗一箱百打、一四、一五才見當のものを單位とし、神戸の外國商館を通じて、輸入せらる。信用狀を要求し居れり。

七、硝子食器——歐洲品の埃及に輸入せらるゝ取引の狀況は、在埃歐洲商社支店又は出張所が直接取扱ふもの、即ち歐洲の本店より取寄せて埃及の自分の店にて小賣する系統を辿るもの多し。

百貨店の多くは産地工場より直接仕入れ、荷物着拂若くは着後二ヶ月拂が最も多し。

硝子食器専門の輸入商又は販賣店はなし。一般輸入業者の仲立によりて輸入せられ、大抵は家庭用品店、陶器店に於て兼ねらる。

カイロ亞港に於ける前記の如き大店が、同地内又は各地方の小店へ普通一ヶ月拂、信用先へは三ヶ月拂にて貸付

け居れり。

仕入方法の一としては見本注文若くは現品展示によるものあれども、埃及内の商人は夏期閑散を利用して歐洲を巡回し、自身工場、又は商店に於て現品拜見の上買取るものも多し。

支拂條件は、佛、伊は着後三十日拂又は其以上の貸付をなし居れり。

八、魚類罐詰——歐米品の賣行好況なる理由次の如し。

イ、取引簡易——魚類罐詰類の埃及輸入取引方法は *Doc* なるものもあるも、多くは三十日乃至六十日以上 *Con* 取引なり。或は、掛賣金收金と同時に、次回分を貸付くる方法も多く採用せられ居れり。従つて小商人にも取扱容易なり。

ロ、取扱商の多くが在留外人なり——本品埃及輸入商の多くは、英、伊、佛、米等の商人にて、問屋、小賣商の多くは伊、希、シリア等の商人なり。故に在留自國人の購買勧誘、或は製造會社直營の取扱事務所、又は派遣出張員の廣告宣傳、或は埃及人の趣味嗜好研究等に都合良し。要之、歐米品は責任ある商人によりて、埃及市場に取扱はれ居れり。

ハ、仕入國よりの運搬容易なること——短距離と、海運界の競争にて、運賃比較的低廉なる爲、従つて輸入原價を低からしむ。

九、セルロイド玩具及雜貨——埃及輸入セルロイド玩具及雜貨は、概して、東洋物は *C*、*E*、*S*、*W*、*D*、*U*、*Y*、*D*、又は荷受後三十日拂 *Doc* により一先づカイ亞港一打幾何の英貨建値にて注文取引取極められ、*Doc*、又は *C*、*Y*、*D*、又は荷受後三十日拂 *Doc* により一先づカイ

ロ市の輸入業者又は卸商の手に入り、而して後、小賣業者の手に入る。

輸入業者又は卸商にして、本品輸入専門の店は殆ど無く、カイロ市並亞港所在の一般輸入仲立商大小數十人によりて行はる。

輸入業者には、卸商の資力あるものは、地方小賣業者に對し一ヶ月乃至三ヶ月の掛賣をなすもの多く、實際に於て二割内外の特別口錢を取る法最も多く行はる。

百貨店の如き大店に於ては、直接輸入する場合もあるも、多くは、輸入業者又は仲立商の輸入したる商品を可成低廉に現金を以て仕入る、場合多し。而して百貨店は、他の商品との關係上、之を更に小賣業者に一ヶ月以上の掛賣りするもの多き狀況なり。

輸入業者の仕入注文は概して一口二箱乃至四箱にして、金額にしては、四、五百圓乃至千圓位宛なり。而して、小賣業者への一口取扱は、四、五十圓を普通とし、二百圓位を最高となす。

十、漆器——佛、獨、致須等の諸國は地理上の關係に依り、各自國商人が埃及に支店又は出張所を有するか、或は隨時出張員を派遣するに便宜にして、従つて其の取引方法も至極簡便に、代金決済の如きも着荷後六十日乃至九十日拂を通常とす、是に反し、本邦商人の多くは信用狀を開かさざれば取引せず、大抵は本邦在留埃及商人又は外商の手に依り、本邦に於て取引完済せらるるを常とす、故に埃及は日本漆器需要市場として有望なるも、此の取引不圓滑と漆器使用の普及未だ充分ならざるとによりて、其の取引發展遅々として振はざるが如し、而して埃及商中には本邦漆器製造家又は輸出業者にして着荷拂取引に應ずるならば、歐洲模造品と競争すべき實用向漆器に限らず更

に日本特有の優良美術漆器を取扱ふべき希望を有するものあり、尤も本邦商人が信用状なくしては埃及取引に應ぜざるは、現在の如き日埃間金融機關並に通商機關の不完全なる時に於ては無理ならざる事なれども、神戸等の本邦商にして永年埃及商と取引經驗ある商店に於ては着荷拂にて圓滿に取引しつつある向もあるやに聞く。

十一、棉花——棉花は、一部のものは現金取引にて、亞歷山に於て取引行はるるも、他は、英國商との間に取引行はる。決済は、證券到着後倫敦に於て行はる。

## 附 録

### 本邦品取扱業者

本邦當業者の注意すべき事項 本邦當業者が彼等に向つて直接取引希望を申込まるる場合には、左記各項に注意ありたし。

- 一 本取引業者名は、在埃及瀧貿易通信員の報告に據るものなり。
- 一 右商人の内現在本邦と取引しつつあるもの多くは本邦事情に精通し、阪神地方の在留外商又は從來取引本邦商をして常に電信を以て本國相場其他の事情を報道せしめ、當地方市場の情況によりて出來得る限りの最低値段に於て巧妙に買入れなさしめつつあり。彼等に對しては本邦品を取扱ひ呉ることに就て大なる感謝の意を以て迎ふる要あるも、又商談には大なる注意ありたき事。又彼等は本邦在留外商と好連絡を有するを以て直接取引申込によりて直に良結果は期待し難きことを含まれ度きこと。
- 一 現在本邦と直接取引なき商人等は日本の商人に不安を抱くものなきにしもあらず。爲めに彼等をして充分なる信用を措かしむ可き信用状態を明白にして申込むべきこと。
- 一 商品取引値段は可成。三坡西土英貨建値になすこと。
- 一 代金決済法は從來取引關係のある方面に對して信用狀を發行し居れども、新規方面の商人に對しては「この問

題は可なり六ヶ敷状況にあり。故に「」の取引希望に付ては前述の如く自己の信用を充分明白にせざる可からず。又彼等の資金關係上のA.P.又は三十日D.P.の方法多きが如し。之は多少の危険も伴ふ事故充分調査すべき必要あり。

埃及輸入仲立商(織物其他取扱)

BESSO, SABINO M. & CO.	Hanzawati	* CAIRO.
ANDRE BIRCHER	18 Chareh Charawati	"
GADHANEL G. & CO.	Hanzawati(Hoche Issa)	"
EGIZIO FOA	Rue Saba Kaat El Baharia	"
V. & W. FRANCIS	Rue Dard El Mizayen	"
ELIE FRIEDMANN	Rue Hassan El Akbar	"
S. GROPPER	2 Rue Hoche Issa	"
I. HOURI	Rue Jardin Rossetti	"
KHOURI TASSO & CO.	Okelle Tarabichi	"
LEVY, CHALOM & CO.	Hoche Issa	"
LUSENA & CO.	4:22, Chareh Khalig El Massri	"
JACQUES MANHES	Rue Elou	"
J. NAHUM	Haret El Mach Hadi(Ehnad El Dine)	"

R. OTT & CO.	6 Rue des Rains(Sheperds Hotel)	"
GIULIO PADOVA & CO.	4 Rue Hoche Issa	"
SARR, FRERES & CO.	Rue Bein El Sourein 13	"
SALLOUM FORTUNATO	Rue El Loboudieh	"
SENDER & CO.	Sharia Madabegh	"
TREVES FRERES	Rue Zaki (Tewfikieh)	"
AMIEL ED. & D. SASSON	Rue de France	ALEXANDRIA
ANDRE BIRCHER	Place de l'Observatoire	"
JEHLAN & BENNETT	1 Rue Ancienne Bourse	"
CONSTANTINE TARAZI	4 Rue Cherif Pacha	"

埃及アレキサンドリア港輸入組合會員中主として織物並雜貨を取扱ふ商社(一九二六年七月現在)

ADESS NESSIM & SONS	Rue Port Est	"
AMRAN ELLE	" " "	"
ANZABUT JACOB & FIIS	Rue Chader El Battik	"
BATTINO & ZACCAR	Quai Port Est	"
BARUCH BENTATA	Rue Port Est	"
HAIM CHAVIA	2 Rue Souk, Attarine	"

COHEN, SAMUEL J. & CO.	Rue Colucci Pacha	ALEXANDRIA
DAHAM ABRAMINO	" "	"
DORRA FRERES	Rue Port Est	"
FORTI R. & CO.	1 Rue Pirona	"
GAMMAL YOUSSEF & AHMED	Station Glymonopoulos	"
OSCAR GREGO	Rue Port Est	"
GRANDS MAGASINS HANNAUX	Rue de l'Areheueché	"
ISCAKI S. & CO.	Rue Mawlai Mohamed	"
KOHN L. & PEPE E.	Rue Colucci Pacha	"
LEBON & CO.	Rue Sidi El Metwally	"
LIEPMANN, JULIUS & CO.	Rue Chader El Battik	"
NAGGIAR VICTOR & CO.	Rue Siman Pacha	"
GIULIO PADOVA & CO.	Rue de France	"
PICCIOTTO BROTHERS & CO.	2 Rue Matrah	"
RICHES J. & CO.	Rue Gare du Caire	"
RIETI & CO.	Rue Nubar	"
SACHS HALIFA & FILS	Rue Souk El Attarine	"

SHAMA, GABRIEL F. & CO. Rue Chader El Battik  
 VIVANTE S. & CO. Rue de France

埃及主要都市所在本邦製綿織物輸入商(一九二六年七月現在)

AGOURY, ELIE, FILS & CO.	Hanizaoui(L'immeuble Liepmann)	CAIRO.
RACHID BEHNA	Rue Ancienne Poste	"
" "	Rue Eglise Maronite	ALEXANDRIA.
DOORRA FRERES	Rue Port Est	"
LEVY FRERES	Rue Ganneh El Banat	CAIRO.
MOISE COHEN	Rue de France 34	ALEXANDRIA.
OVADIA B. ISRAEL	Rue de France 3	"
PICCIOTTO BROTHERS	Rue Matrah 2	"

日本棉花株式會社出張所

埃及主要都市に於ける織物類輸入卸賣並販賣店(一九二六年七月現在)

ADES, NESSIM & SONS	Hanizaoui	CAIRO.
VARTAN BARZANKIAN	Rue Neuve 13	"
NICOLAS BASILE	Hanizaoui	"
BENTATA FRERES	Rue Neuve 17	"

BEIRSI S. & CO.

Hanizaoui

CAIRO.

BON MARCHE

Rue Emad El Dine

"

COHEN MAURICE

Rue Hoche Issa

"

DAHAN ABRAMINO

Rue Sellaoui

"

V. FERMO

Rue Neuve 70

"

OSCAR GREGO

Rue Bibars, Hanizaoui

"

JULIUS LIEPMANN & CO.

4 Rue Sultan El Sahab

"

MENASCE A. BETSCH

Rue Bibars, Hanizaoui

"

NAMANI A.

Rue Hoche Issa

"

A. N. ODABACHIAN & CO.

Rue Neuve

"

OROSDI BACK

Chareh Abd El Aziz

"

GIULIO PADOVA & CO.

Hoche Issa

"

PEREZ ALBERT & CO.

Cheikh Abu El Seban

"

PICCIOTTO BROTHERS & CO.

Rue Hanizaoui

"

RABBAT. WADDEH & CO.

Rue Bibars, Hanizaoui

"

RIETI & CO.

Okelle Madkour, Hanizaoui

"

ROSENFELD S. & CO.

Dard Saada

"

SCHOUEILA & FARHI

Rue Neuve 41

"

SEDNAOUI S. S. & CO.

Place Khazindar

"

STEPHAN C. H. CO.

Rue Mouski 36

"

TAAMY J. & S.

Pue Hoche Issa

"

TOPALIAN/KEVORK & FILS

Rue Maugala Hanizaoui

"

VIVANTE D. S. & CO.

Haret El Chichini

"

PATTON & ZACCAR

Quai Port Est

ALEXANDRIA

BARUCH BENTATA

Rue Port Est

"

BERSI S. & CO.

Nouveau Quai

"

CASTRO, THEOPHILE & CO.

Rue Port Est

"

HADDAD, J. A. KHOURI

"

"

ALBERT HALFON

Rue Pirona

"

KOHN, ELIO PEPE

Rue Colucci Pacha

"

JULIUS LIEPMANN

Rue Chader El Batlik

"

OROSCI-BACK

12 Place Mohamed Aly

"

GIULIO PADOVA

Rue De France

"

RIETI & CO.

18 Rue Nubar Pacha

"



SACHS, HALIHA & SONS	Souk El Attarine	"
SASSN J. A. & CO.	Rue Caïed Cohar	"
TOPOLIAN KEVOK	Rue Matrah	"
VIVANTE D. S. & CO.	Rue De France 18	"
GRAND MAGASIN YAZDI	Rue Du Nil	MORT-SAÏD
埃及主要都市所在絹類取扱商(一九二六年七月現在)		
RACHID BEHNA	Rue El Bosta 7	CAIRO
BON MARCHE DE PARIS	Rue Foad El Dine	"
LES FILS DE M. CIGUREL & CO.	Avenue Fouad Ier	"
GAMMAL. YOUSSEF & AHMAD	Chareh Mouski & Rue Neuve 7	"
ISCAKI. S. & CO.	Chareh Saba. Kaat El Kedil Kedilieh	"
LEVY CEALOM B.	Rue Sekka El Guedida	"
LOUVRE DE PARIS	Chareh Kasr El Nil. 27	"
MAISON DE SOIERIES ITALIENNES	17 Avenue Fouad Ier	"
OROSDI BACK	Chareh Abe El Aziz	"
AU PRINTENPS PARIS	Chareh Kasr El Nil 28	"
H. STEPHAN & CO.	Rue Mouski 26	"

SEDNAOUI. S. S. & CO.	Place Khazinda	"
SOLDES. HABIB STEPHAN & CO.	32 Rue Mousky	"
RACHID BEHNA	1 Immeuble Monterrato	ALEXANDRIA.
D. CHELLARAM	Rue Cherif Pacha 6	"
COMPAGNIE GENERALE D'EXTREMEORIENT	Rue Nébi Daniel 26	"
GAMMAL. YOUSSEF & AHMAD	Rue El Midan 36	"
HAGGAR FADEL	Rue Sesostris 1	"
GRANDS MAGASINS HANNAUX	Rue De L'Archeveche	"
OROSDI-BACK	Place Mohanned Aly 12	"
SAIKALI FRERES	Rue De France 30	"
SEDNAOUI S. & S. & CO.	Place Mohanned Aly 16	"
AU RAMSWAMY	Rue Du Commerce	PORT-SAÏD.
P. DIAONO & SON	" " "	"
GRAND MAGASIN YAZDI	Boulevard Fouad Ier	"

埃及カイロ市所在セルロイド製商品輸入商(一九二六年七月現在)

MORENO CARMONA & FILS.	Hanzzaoui	CAIRO.
KOHN & STIASSNY	9 Rue El Bosta	"

LEVY CHALOM B.

Rue Sekka El Gueddah

CAIRO.

雜貨店取拔者

1. Egyptian universal Providers (Orsdi-Buck)  
ch. Kasr el Nil 50, Cairo.
2. Grande Epicerie Nationale (N. Pechivanos Fils)  
ch. Kasr el Nil 25, Cairo
3. Menedjian & Costanti  
Rue Bein el Sourein 10, Cairo.
4. Mohamed & Ahmed Moursi el Bannan Freres,  
Av, Fouad Ier 77, Cairo.
5. Stamboul (E. Anassoufjis)  
Grand Bazar d'Ataba el Khadra, Cairo.
6. Vraïla Stores,  
Rue Soliman Pacha, Cairo.
7. Anglo-American Stores (ch. G Triticos)  
Rue Gare de Ramleh 9, Alexandria.

8. Rhodes, Michel A, Loïsidis  
Rue Mosque Attarine 64, Alexandria.
  9. Synè midès,  
Rue Tewfik 8, Alexandria.
  10. Anglo-Egyptian Stores (G. N. Convaras & Co.)  
Rue Saïd, Portsaïd.
  11. Barounis Stanmati  
Bazar Albas, Portsaïd
  12. Nile Cold Storage,  
Rue du Nil, Portsaïd.
- 百貨店
- Bon Marché  
○Orsdi-Buck  
Morris Oriental Stores  
Jean Saït
- 菓子店
- Cairo,  
" "  
" "
- 5, Avenue Fouad I er.  
Pl, Mohamed Aliv. 12.  
Avenue Boulac,  
5, Avenue Fouad I er.

J. Gropfi " "  
Fugène Soléa Alexandria,

Rue el Manakh,  
Rue Midan.

美術骨董商

○ Fioravanti & Chimenz

Portsaid,

Chellarami "

"

N. Ombinos "

"

Draco Pontos & Co "

"

G. A. Galilab "

"

Au Ramswany "

"

Mikad (C. Sarolides) "

"

Vella Charles "

"

Simon-arzt "

"

Chihia Joussef bey Cairo

Cairo

elk-el-Manakh,

R. G. G. Lombardo "

"

r. Kasr-el-Nil.

Madkour "

"

r. Taher-el-Hanzawi.

S. Bércési Alexandria,

Alexandria,

r. Fouad Ier. 7.

A. Grass) "

"

" " " 23.

Hannax "

"

Pl. Sté Catherine.

Ziyy frères "

"

r. Chérife Paç'a 12.

A. Arnouti Cairo,

Cairo,

r. Kamel 9.

D. Chellaram "

"

Pl. de l'opera.

Dayarem Bros. "

"

r. Kamel 11.

G. Hakim "

"

" " 9.

H. Ichland & Sons "

"

r. el-manakh.

Jauson Cairo,

Cairo,

r. Ennaç-el-dine.

D. Kalachand "

"

" "

Minosa "

"

r. Kamel.

New Japanese & Chinese Bazar "

"

r. el-Bosta.

Pahonni Bercs "

"

Cl. Kamel 11.

R. Fa

Cairo,

r. el-manakh

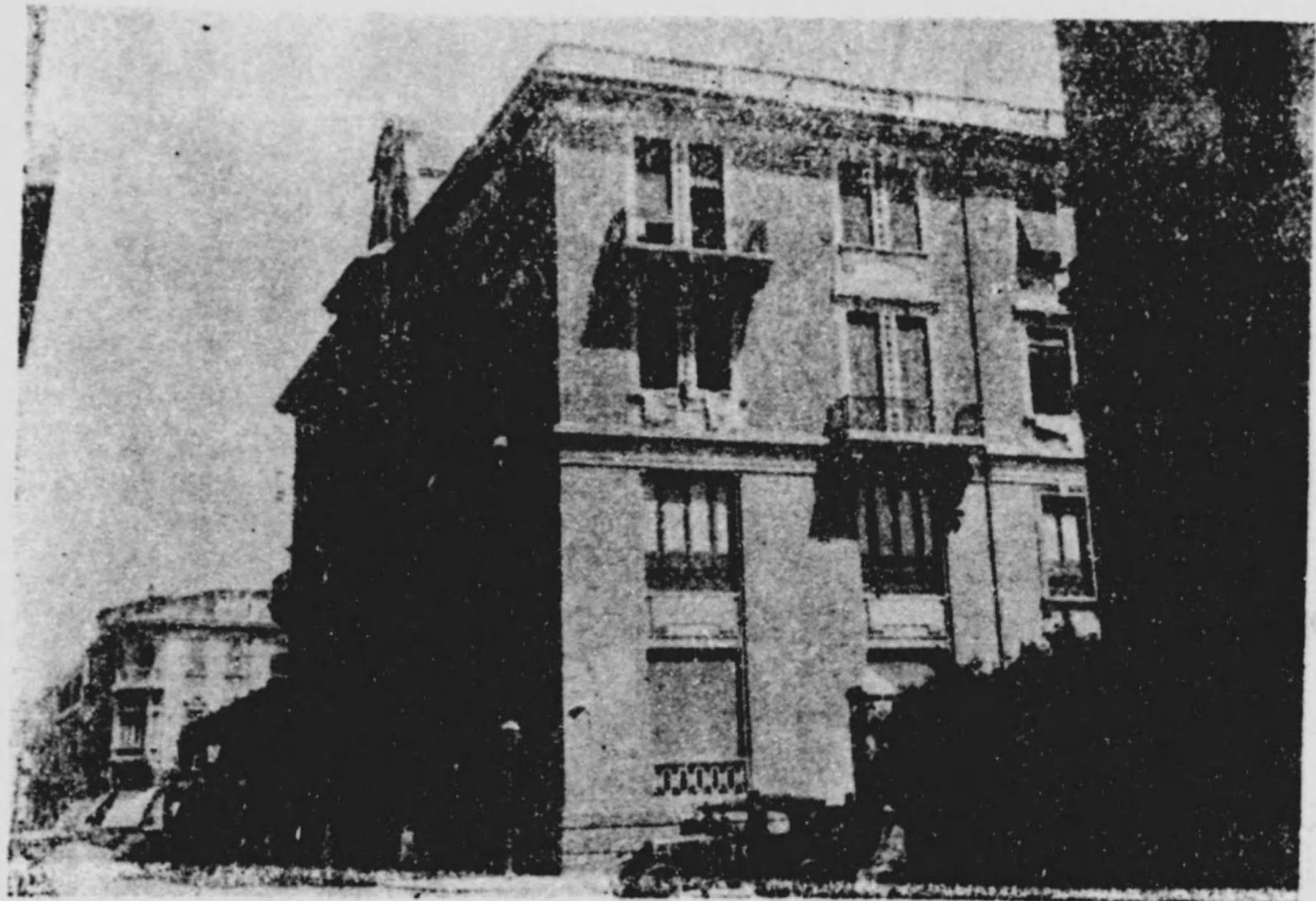
文房具店

## カイロ日本商品館綱要

**我國の貿易** は總輸出四十四億二千萬圓と云ふ巨額に達し近時著しき發達を示して居ます、けれども連年輸入超過の趨勢を續けて居るのは甚だ遺憾とする所であります。須らく國民舉つて我國産業の進歩發展を圖り、廣く海外諸邦に本邦商品の新販路を開拓し輸出貿易の振興を圖るは刻下の急務であらねばなりません。斯る見地よりして商工省に於ては、

**貿易振興策** の一として新販路の開拓地として樞要なる地數ヶ所に我國産業の宣傳と、貿易促進の機關として、日本商品館を開設され、更に今回未だ一般に知悉せられずして、而かも本邦商品の新販路として最も有望なる埃及及び

カイロ日本商品館綱要



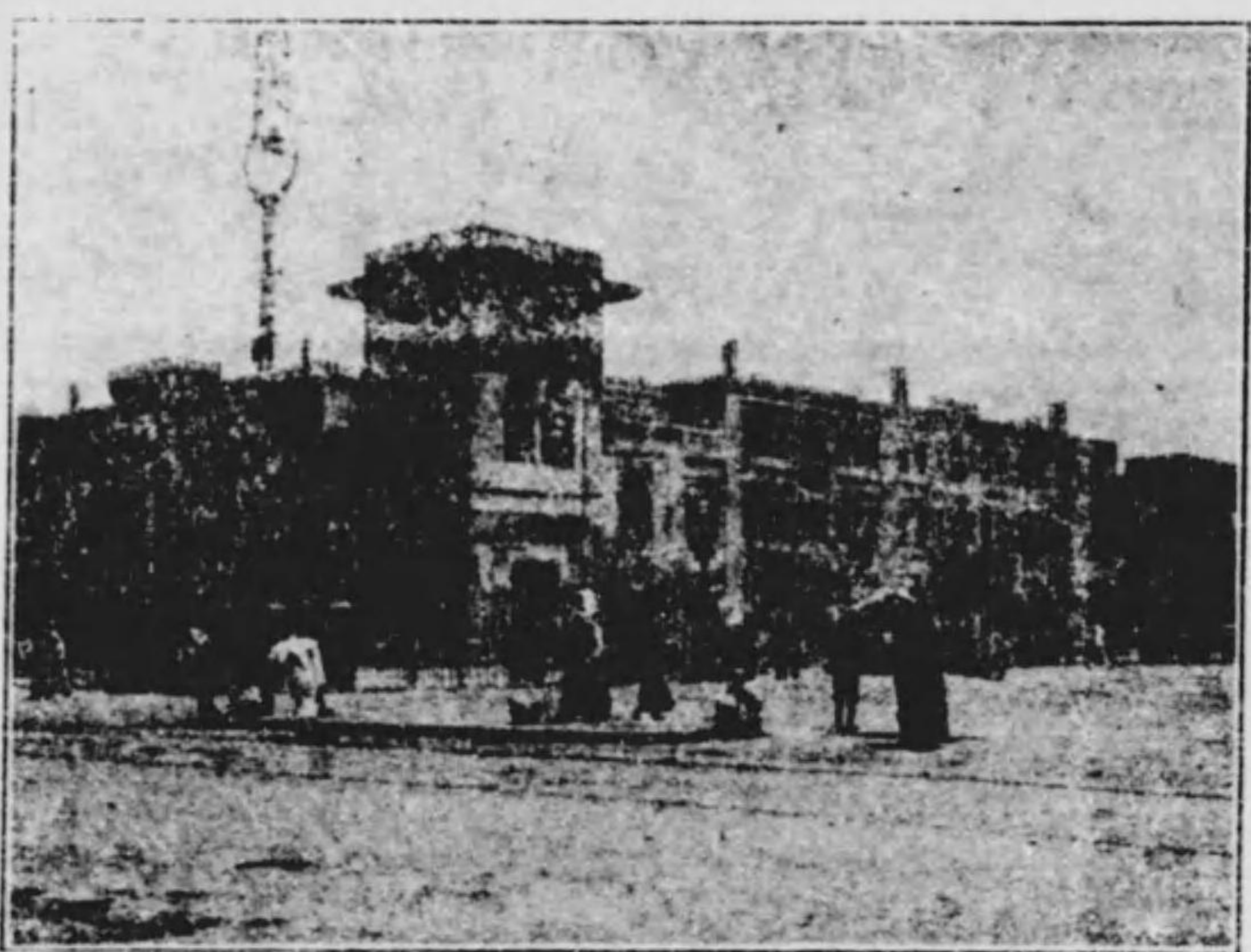
カイロ日本商品館

其隣接諸國へ本邦商品の紹介宣傳并に販路の擴張を圖ると共に同地方に産出する有用原料品を本邦に紹介し、且つ企業の斡旋をなす等重大なる新使命の下に、

**日本産業協會に委嘱** して此等諸國の中心地たる埃及の首都カイロ市に我日本商品館を開設經營せしむる事となり、本會は昨年十月事業を開始し、全國に宣傳し主要なる輸出商品の出品物を輸送し全市歐風街目拔の地に宏壯なる陳列館を得、本年四月十二日埃及國陛下御名代の臨席を辱ふし、同地官民多數參列華々しき開館式を舉げ、同國人士は固より歐郎亞嬢世界諸邦の人々に公開展示し、我國產品宣傳の爲に大に氣を吐きつ

あるのであります。

**埃及とは如何なる國か** 人類發祥の地、古代文明の精華としてのみ我國人に知られて居る埃及が、現在如何に動きつゝあるか、其經濟的事情は如何、日埃貿易の現在及將來等、に就ては已に本書を繙かれて充分に知悉せられたる事と思ひますから敢て茲に贅しません。實に本書に依つて教へられる事は、唯歴史の國として過去のものとのみ惟つて居た埃及が、其文明こそ三千載の昔に消へたれ、所謂「國亡びて山河あり」で流石は五千年前に開けたる農業國、今尙滔々として盡きぬ「ナイル」の流れに恵まれて豊穰限りなく夥しい農産物を産出し、之を海外に供給し、常に輸出超過を続け



カイロ停車場

て居る、實に羨むべき状態に在り、從て購買力甚だ強く本邦商品の販路開拓地として見通す事の出来ない國であると云ふ事でありませぬ。

**商品館開設地たる首都カイロ** は如何なる地なるか 舊に政治の中心地たる許りでなく、亞歷山。坡西士。蘇士の三大港を海外の門戸とし「ナイル」の上流深く大生産地を控へたる人口百有餘萬を有する阿弗利加第一の都會で國內は固より南歐バルカン諸邦と阿弗利加との貿易の中心地となつて居る大商業都市であります。將來與地益々開拓せられ進捗しつゝある南亞ケーブタウンに到る阿弗利加縦貫鐵道が開道するの曉此地が如何に經濟上世界的地位を占めるか窺はれるのであります。今や世界各國が此地



埃及婦人の風俗

の商權を霸握せんと虎視眈々として相競ふて居るのも亦宜なりであります。然して此地は又其の壯大なる史蹟、優美なる古代美術に憧れて杖を曳く世界各國の遊覽者が非常に多いので此地に我商品館を開設した事は、實に其地に對する販路の擴張を圖る許りでなく、遠く歐米各國への我商品を宣傳紹介する上に於ても亦極めて意義あり効果があるのであります。然して最近亞歷山に我總領事館及正金出張所が開設せられ、坡西士に領事館を置かれ、從來外人の手にのみ委せられたる日埃貿易が邦人直接之に當り得られるに至つた事は洵に慶すべき事でありませぬ。



先發館員一行(ガジの附近にて)

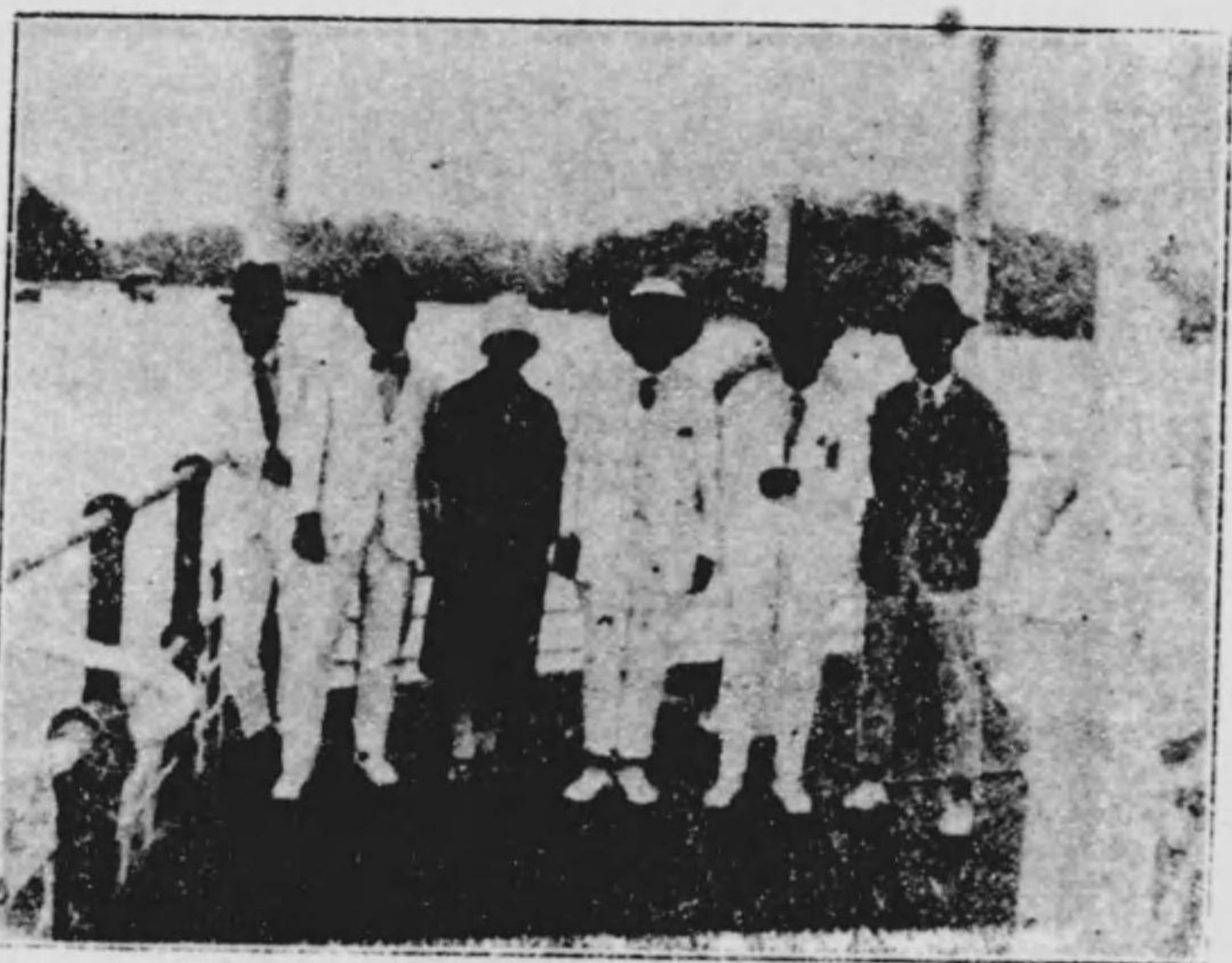
求め、適否を檢べ、改善を促し、又時々各種展覽會、見本市等を開き種々なる方法を以て本邦産業の宣傳と國際市場に於ける本邦商品の活躍を期したいと思ひます。今茲に商品館の事業を列記すれば左の通りであります。

- 一、本邦商品を陳列し之が説明紹介に力むると共に商取引の紹介を爲すこと
- 二、本邦産業貿易及經濟事情の紹介宣傳を爲すこと
- 三、外國産商品其他の參考品を蒐集展示し當業者の研究に便すること
- 四、左の事項に關し常に調査研究を爲すこと
- (イ) 本邦品の品質包装商標取引方法其他改善方法
- (ロ) 埃及及其の隣接諸國に於ける産業貿易及經濟に關する諸般の事項

(ハ) 埃及及其の隣接諸國に於ける本邦人の企業状態及將來有望なる企業

五、内外商工業機關及當業者と連絡し通信を交換し商品

見本の提示及参考品の貸借譲渡を爲すこと  
 六、本邦商品販路擴張の爲め試賣會、各種展覽會、見本市及附近主要市場に巡回見本市等を開催すること  
 七、貿易、企業其他經濟上に關する諸般の調査事項を周知せしむる爲め隨時館報及調査書を發行すること



（てに坡嘉新次途の任赴）行一長館の上船丸名棒

がらないのでありますから、常に本館を利用せられ、各種の御出品を切に希望する次第であります。  
**出品に就て** は埃及に於ては高級品、下級品共に需用があります、カイロ市の如き都會に於ては、歐米人の在住者も多く従て高級品の需用多く、地方村落に於ては下級品（粗悪品には非ず）の需用が多い、從來我國よりの輸出品は兎角安物多く、一般に日本品は粗品のみなりとの誤解を招いて居るので、此際充分注意して品質價格に於て充分信用ある品物の出品を願ひ、日本商品の信用恢復維持に努め、永遠に顧客として日埃貿易の親善を圖りたいと思ひますから、何うぞ此點を考慮して粗製濫造に陥ることなく、獨特の優良品を是非出品して頂きたいと思ひます。

**出品物の種類**

に就ては、本書に詳記されたる如く殆ど各種の商品が各國から輸入されて居り、又從來我國からも多種多様な商品が輸出されて居ますから、多少の犠牲は拂つても何品に限らず御出品を願ひます。或は案

八、埃及及其の隣接諸國に於ける本邦商品の競争品及有用なる原料の蒐集に關し當業者の需に應ず  
 九、商取引及其の紛議の仲裁、企業紹介、仲介に關し當業者の需に應ず  
 十、商業視察者又は旅商に對し商取引通譯雇傭其他に關し諸般の便宜を圖る  
 十一、外國語(英、佛、伊、埃及語)翻譯並に作成に關し當業者の需に應ず  
 十二、企業貿易其他經濟上諸般の調査に關し當業者の需に應ず

**我商品館の成績及其効果** は全く我商工當業者諸子の本館事業に對する御諒解と御贊助とに依らなければ揚

外に彼地の嗜好に適し需要を喚起するものがあるかも知れません。而して本書にある如く他の國が我國の商品を模造して輸出しつゝあるが如きは我商品の彼地に於て如何に好意を以て迎へられつゝあるかを證するものであります。出品



(町半約りよ館品商、街行銀院寺るな名著)街市ロイカ

の方法、輸送、其他に關しては今茲に記するの餘口がありませんから、本會へ御一報下されば詳細申上ます。尙本館へ出品せられし方に對しては調査、報告、其他萬般に亘り出來得る限りの御便宜を計るは勿論、本館を利用して商品を携帶し直接販賣を希望せらるゝ方には、充分の御世話を致し度い考でありますから、日埃當業者の親善、商品販路開拓の爲め奮て御渡航を希望する次第であります。

東京市麴町區内山下町一丁目一番地

日本産業協會 **カイロ日本商品館**

電話銀座二四五六番

THE COMMERCIAL INSTITUTE OF JAPAN,

17, Chareh El Cheikh Abou El Selan,

CAIRO EGYPT

### カイロ日本商品館出品規則

- 第一條 本館ニ展示品ヲ出品者ハ寄贈セムトスル者ハ本館所定ノ申込カード二通及出品目録二通ニ記入ノ上日本産業協會ニ申込ムヘシ
- 前項ノ申込アリタル場合必要アルトキハ現品ヲ提供セシメ又ハ係員ヲ派遣シテ實地調査ヲ爲スコトアルヘシ
- 出品者ハ寄贈ニ對スル諾否ノ決定ハ之ヲ通知ス
- 第二條 前條ニ依リ出品者ハ寄贈シタル物品ニ關スル申込カード並出品目録ニ記載シタル事項ニシテ爾後變更ヲ生シタル場合ニ於テハ出品者又ハ寄贈者ハ申込カード及出品目録ノ品名番號等ヲ明記シ其ノ訂正事項ヲ記載シタル書面二通ヲ作成シテ日本産業協會ニ送附スヘシ
- 第三條 出品物ノ展示期間、位置等ハ特ニ申合セアル場合ノ外凡テ本館ニ一任スルモノトス
- 第四條 出品物ノ陳列ハ本館ニ於テ一切之ヲ取扱フト雖モ出品者又ハ寄贈者ハ本館ノ承諾ヲ經テ自ラ爲スコトヲ得
- 第五條 出品物ニシテ品質、色澤等ノ變化又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ展示ニ適セザルニ至リタルトキハ其ノ處分ハ之ヲ本館ニ一任スルモノトス但シ重要品ノ處分ハ其ノ都度之ヲ出品者ニ

- 合議スルモノトス
- 第六條 出品物ノ展示ニ要スル費用ハ無料トシ荷造費、運賃保險料、關稅其ノ他ノ諸掛ハ出品者ノ負擔トス
- 第七條 出品物ノ展示ニ付キ特ニ裝飾ヲ希望スル場合ハ實費ヲ以テ之ニ應スルコトアルヘシ
- 第八條 出品物ノ展示ニ付キ特別ノ裝置ヲ要スル場合ハ出品者ト合議ノ上右ニ要スル實費又ハ其ノ一部ヲ出品者ニ負擔セシムルコトアルヘシ
- 第九條 商品ノ試賣ニ關シテハ前各條ノ規定ヲ準用ス
- 第十條 試賣ニ要シタル實費ハ之ヲ依頼者ヨリ徵收スルコトアルヘシ
- 第十一條 本館試賣ヲ爲シタルトキハ右ニ關スル一切ノ精算書ヲ作製シ日本産業協會ヲ經テ依頼者ニ送附スルモノトス
- 第十二條 本館ハ出品物及試賣品ノ保管ニ關シ充分ノ注意ヲ爲スヘシ但シ避クヘカラサル事由ニ依リ生シタル一切ノ損害ニ對シ其ノ責ニ任セス

#### 附言

出品書、出品目録等の用紙は御申込に依り本會より送附致します尙其他運賃等に就ても便宜があります

昭和三年五月二十日印刷  
昭和三年五月二十五日發行

埃及經濟事情と日埃貿易  
定價 貳圓參拾錢

商工省商務局編

發行者 名古屋 常治

東京府荏原町戸越六四五

印刷者 野田 勘吉

東京府澁谷町田毎三番地  
電話青山二八三九番

發行所

日本産業協會  
カイロ日本商品館

東京市麹町區内山下町一ノ一  
電話銀座二四五六番

514258



